

講義科目名称： 心理学入門

授業コード： 2S001

英文科目名称： Introduction to Psychology

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
伊藤 栞			

授業形態	(一部ワークやグループワークを行う) 講義 (15回)		担当者
授業計画	第1回	<p>心理学の成り立ち 本科目の授業計画や到達目標について確認する。心理学の歴史、成り立ちについて学び、心理学が対象としている「こころ」について考える。 key words：哲学における心理学、実験心理学の始まり（ヴント）、ヴント批判（ゲシュタルト心理学、行動主義、精神分析）</p>	伊藤 栞
	第2回	<p>心理学の研究法と心理学のアプローチ 心理学が採用する研究方法と心理学が対象とする領域における5つのアプローチによる展開について話をする。 key words：実験法、観察法、調査法、検査法、面接法、生物学的アプローチ、行動的アプローチ、認知的アプローチ、精神分析的アプローチ、人間性アプローチ</p>	伊藤 栞
	第3回	<p>感覚・知覚 人間が外界に適応した行動をとるためには、外界を理解する必要がある。本講義では、人が外界の情報を受容し、それを利用する手段である感覚と知覚について学ぶ。 key words：感覚、視知覚、錯覚</p>	伊藤 栞
	第4回	<p>学習 一般に学習というと、学校における教科学習を想像するが、心理学において学習とは「経験によって生ずる行動の変容」と定義される。本講義では、学習の原理を概観する。 key words：古典的（レスポデント）条件づけ（パブロフ）、オペラント条件づけ（スキナー）</p>	伊藤 栞
	第5回	<p>記憶 私たちは一生の間に数多くの様々な事柄を自らの記憶にとどめ、時に応じてそれらを思い出す。しかしながら、思い出そうとして思い出せないことや、忘れようとしても忘れられないことも多くある。本講義では、心理学における記憶の知見について学ぶ。 key words：記憶のしくみ、記憶の種類、記憶の多重貯蔵モデル、記憶の障害</p>	伊藤 栞
	第6回	<p>動機・欲求 私たちが行動を起こそうとするとき、そこには感情や動機（づけ）が関わっている。本講義では、動機づけの諸理論について学ぶ。 key words：動機と欲求、動機づけ、欲求階層説</p>	伊藤 栞
	第7回	<p>感情 私たちが行動を起こそうとするとき、そこには感情や動機（づけ）が関わっている。本講義では、感情・情動について学ぶ。 key words：感情と情動、古典的な感情理論、現代の感情理論</p>	伊藤 栞
	第8回	<p>脳の働き／こころの生理学的基盤 1 脳科学と心理学は密接な関係にある。本講義では、心の働きの基盤となる脳と神経の基礎的な仕組みと働きについて学習する。 key words：人間の脳の構造、脳の働き、高次脳機能障害</p>	伊藤 栞
	第9回	<p>脳の働き／こころの生理学的基盤 2 前回に引き続き、脳の働きについて学ぶ。本講義では、睡眠について学ぶ。 key words：脳波、睡眠活動、サーカディアンリズム</p>	伊藤 栞
	第10回	<p>パーソナリティ 1 私たちはそれぞれ、他の人とは違うその人らしい考え方、感じ方、そして行動の仕方（行動様式）を持っている。このような考え方や行動の仕方は、時や場所のような状況を越えて、比較的一貫し、安定している。このことから、私たちには、このような個人の独自性と統一性をもたらすものが存在すると考えられ、それは「パーソナリティ」とよばれる。本講義では性格の代表的な理論である類型論と特性論について学ぶ。 key words：類型論、特性論、性格の5因子モデル</p>	伊藤 栞
	第11回	<p>パーソナリティ 2 前回学んだパーソナリティを捉える検査について学ぶとともに、臨床の現場で用いられる性格検査を体験する。 key words：パーソナリティ検査、心理検査の信頼性と妥当性</p>	伊藤 栞

	<p>第12回 こころの発達 1 年齢によって人間の一生を大まかに分け、それぞれの区分における特徴や変化に焦点を当てて、これらの方向性や順序性を明らかにしていく心理学の分野は「発達心理学」とよばれている。本講義では、身体的な発達、こころの発達について学ぶ。 key words：身体的な発達、認知的な発達（ピアジェ理論）、心理社会的発達理論</p> <p>第13回 こころの発達 2 年齢によって人間の一生を大まかに分け、それぞれの区分における特徴や変化に焦点を当てて、これらの方向性や順序性を明らかにしていく心理学の分野は「発達心理学」とよばれている。本講義では、感情や人間関係の築き方などを発達の面から捉えていく。 key words：愛着、人間関係の発達の变化</p> <p>第14回 社会 1 人は生きていく中で、様々な他者と出会い、交流しながら関係を築いていく。人間は本質的に一人では生きていくことのできない存在だからである。しかし、他者とともにあることは、人生を豊かにする半面、様々な苦悩の源泉ともなる。本講義では、私たちが他者をどのようにとらえ、関わっているか、他者からどのような影響を受けているかを学習する。 key words：対人認知、対人感情、対人関係の成立基盤</p> <p>第15回 社会 2 人は生きていく中で、様々な他者と出会い、交流しながら関係を築いていく。人間は本質的に一人では生きていくことのできない存在だからである。しかし、他者とともにあることは、人生を豊かにする半面、様々な苦悩の源泉ともなる。本講義では、私たちが他者をどのようにとらえ、関わっているか、他者からどのような影響を受けているかを学習する。 key words：援助行動、攻撃行動、集団内過程・集団間過程</p>	<p>伊藤 栞</p> <p>伊藤 栞</p> <p>伊藤 栞</p> <p>伊藤 栞</p>
科目の目的	心理学を学ぶことを通じて、社会を多角的に見つめる感性を育て、現代を生きる人間としての生き方について考える力を養う。また、自己および他者への理解を深め、社会の中で適応的に生活するために必要な心理学の基礎知識を身につけるとともに、経験則や多数意見や権威者の主張に頼らず、科学的根拠に基づいて物事を客観的に考察する力の育成を目的とする。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心理学の主要領域の基礎概念を説明できる。</li> <li>2. 身近な出来事や経験を心理学の視点から捉えなおすことができる。</li> <li>3. 多面的な視点から人間の行動を理解できる。</li> <li>4. 経験則や権威に依存せず、科学的根拠に基づいて考えることができる。</li> <li>5. 心理学の知識を根拠として論理的に述べることができる。</li> </ol>	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	人間の尊厳と基本的人権	
関連科目	<p>【教養・共通基盤科目群】教育学，コミュニケーション学入門，哲学，人間と宗教，多職種理解と医療コミュニケーション</p> <p>【専門基礎科目群】生理学Ⅰ，生理学Ⅱ，人間発達学，生涯発達心理学，学習・認知心理学，心理測定法，チーム医療とリハビリテーション，臨床心理学</p>	
成績評価方法・基準	成績評価は次のように行う。①授業時の小レポート（30%），②期末レポート（70%） なお、授業時の小レポートに対するフィードバックは、講義の冒頭に行う。期末レポートのフィードバックは希望者に伝達する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	シラバスを確認し、講義内容に関連するトピックについて参考書などを用いて、どのような内容について学ぶのか事前におさえておく。不明な点や気になる点があれば、授業時に理解がすすむようにノートなどにまとめるなど準備をしておく。予習・復習時間は各2時間程度。	
教科書	使用しない	
参考書	<p>繁杵算男（2018）「公認心理師の基礎と実践 2 心理学概論」遠見書房</p> <p>内山靖・藤井浩美・立石雅子（編）（2020）リハベーシック心理学・臨床心理学 医歯薬出版</p>	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意	履修上の注意点として、2年次に臨床心理学が必修もしくは履修希望の場合、本科目を履修することを勧める。	
アクティブ・ラーニングの実施	双方向アンケート（リアクションペーパーによるコミュニケーション）	
ナンバリング	SBa-101	

講義科目名称： 教育学

授業コード： 2S002

英文科目名称： Education

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
安藤 哲也			

授業形態	講義（グループディスカッション、グループワーク等を含みます） 15回		担当者
授業計画	第1回	なぜ「教育学」を学ぶのか？ 本講義の目的、展開予定、受講上の注意に関する説明と本講義の到達目標の展望。 自分にとって教育学を学ぶことの意味について考える。	安藤 哲也
	第2回	教育とは？ 人の学び方の特徴や潜在的なカリキュラムが及ぼす影響など、教育を受ける側に視点を当て教育という行為を見つめ直すことにより、その困難さや奥深さなどについて考える。	安藤 哲也
	第3回	戦後日本の学校教育 学習指導要領の変遷を基に、改訂当時の社会状況などを知ることを通して、それぞれの時期に目指した学校教育の有り様の背景について考える。	安藤 哲也
	第4回	現在の学校教育 近年の中教審答申や学習指導要領を基に、自身が経験した教育内容を振り返ることを通して、現在の学校教育が目指す教育の有り様について考える。	安藤 哲也
	第5回	現代的な学校課題 近年、継続的な課題となっている「不登校」を取り上げ、その特徴や傾向、想定される要因など、多角的に調べることを通して、求められる支援の在り方を具体的に考える。	安藤 哲也
	第6回	新しい教育の在り方 「特別の教科 道徳」を取り上げ、教科書に基づく授業を具体的に体験することを通して、従来の指導方法から「考え、議論する道徳」への転換を図る指導方法の意義について考える。	安藤 哲也
	第7回	世界の教育思想Ⅰ ※提出課題あり 代表的な先人(コメニウス、ロック、ルソー)の教育思想について調べ、交流することを通して、社会の有り様と教育との関連や現代の教育との関連について考える。提出された課題は、学習資料として全体で共有し、学びを広げる。	安藤 哲也
	第8回	世界の教育思想Ⅱ ※提出課題あり 代表的な先人(ペスタロッチ、ヘルバルト、デューイ)の教育思想について調べ、交流することを通して、社会の有り様と教育との関連や現代の教育との関連について考える。提出された課題は、学習資料として全体で共有し、学びを広げる。	安藤 哲也
	第9回	子どもの思いに基づく教育 子どもの自発性や主体性を大切に幼児教育に焦点を当て、その基本を理解することを通して、教育の原点といわれていることの意味を考える。	安藤 哲也
	第10回	子どもの思いを理解する ビデオ映像を基に、一連の保育場面における子どもの思いを読み取ることを通して、子ども理解の方法とその重要性について具体的に考える。	安藤 哲也
	第11回	活動を通して学ぶということ 自身の学校経験を振り返るとともに、特別活動を具体的に体験することにより、活動を通して学ぶことの意義を見出す。	安藤 哲也
	第12回	集団で活動することの意義 小集団での活動を具体的に体験することにより、特別活動を指導する上で重要視する3つの視点から、子どもにとっての困難さや意義について考える。	安藤 哲也
	第13回	特別活動で何を育てるのか？ 特別活動を具体的に体験し、活動を通しての学びを実感することにより、教師の視点から特別活動の意義や指導の在り方を考える。	安藤 哲也
	第14回	チームの重要性 前回までの活動に基づくカンファレンスを通して、教職員同士の協働性や同僚性、学び合いの大切さについて考える。	安藤 哲也

	第15回 「教育学」をどう活かすか? ※課題レポートあり 「教育学」で得た学びの活かし方に関する考えを交流することを通して、自身のキャリア形成について幅広い視野から考えを深める。	安藤 哲也
科目の目的	学校教育を中心とした自身の教育経験を対象化し、教育内容や教育方法、教師の資質などについて、幅広い視点から振り返り、具体的に考察することを通して、対人援助職に共通して必要となる知識を見出すことを目的とします。	
到達目標	本授業で得た教育に関する学びを自身の専門領域に引き寄せ、何を、どのように活かせるかについて考えを深め、自分の言葉で述べるができる。	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	人間の尊厳と基本的人権	
関連科目	生涯発達心理学 学習・認知心理学	
成績評価方法・基準	①毎回の授業のリアクションペーパー（振り返り）の内容と②課題レポートの内容を総合して評価します。配点は、①が80%、②が20%です。 ①は、毎回のめあてに近づく思考がなされているか、鍵概念を理解できているかという観点で評価します。そして、次回の授業の冒頭で、参考例を示しつつ評価の観点から解説を行い、個々の学びを深めていきます。 ②は、本授業のまとめとして作成し、本授業での学びを自分の将来像(生き方)に意味付けているかという観点で評価します。第15回に他者と交流することを通して、幅広い視点から自分の学びを見つめ直します。その上で、評価の観点に基づいたコメントを付し、後日、個々に返却します。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前に配布する講義資料を基に予習をするとともに、授業中に記述したワークシートを基に復習をしましょう。予習・復習に必要な時間の目安はそれぞれ90分程度です。	
教科書	教科書は使用しません。必要な資料は適宜配布します。	
参考書	参考書は授業内で適宜、紹介します。	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意	講義で使用する資料は、原則として前回授業の翌日にActive Academyにより事前配布します。各自、事前に取得しておいて下さい。	
アクティブ・ラーニングの実施	グループディスカッション、グループワーク等	
ナンバリング	SBa-102	

講義科目名称： コミュニケーション学入門

授業コード： 2S003

英文科目名称： Introduction to Communication

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
諸星 聡美			

授業形態	講義, 演習 (各回, 個別/グループワークを予定) (8回)	担当者
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション, コミュニケーションについて</p> <p>第2回 知覚プロセス</p> <p>第3回 自己と他者</p> <p>第4回 オーラルコミュニケーション</p> <p>第5回 ノンバーバルコミュニケーション (1)</p> <p>第6回 ノンバーバルコミュニケーション (2)</p> <p>第7回 自己開示と自己呈示</p> <p>第8回 現代社会における対人コミュニケーション</p>	<p>諸星 聡美</p> <p>諸星 聡美</p> <p>諸星 聡美</p> <p>諸星 聡美</p> <p>諸星 聡美</p> <p>諸星 聡美</p> <p>諸星 聡美</p> <p>諸星 聡美</p>
科目の目的	<p>私たちはあたり前のようにコミュニケーションを行っている。しかし、コミュニケーションについて体系的に学ぶ機会はありません。 「コミュニケーション不全」「コミュニケーションの失敗」による人間関係上の問題は多くあり、 ”うまくコミュニケーションを行えていない” 現状があると思われる。本講義を通じて、人と人が大きな齟齬なく理解しあったり、問題を共有し、問題解決のために考えたりするための基礎とするための教養としてのコミュニケーションについて学ぶ。</p>	
到達目標	<p>1. コミュニケーションとは何かについて説明することができる。</p> <p>2. 実際にコミュニケーションスキルを用いることができ、社会生活において適切に活かすことができる。</p>	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	人間の尊厳と基本的人権	
関連科目	多種職理解と医療コミュニケーション, 心理学入門, 臨床心理学	
成績評価方法・基準	授業内小レポート (授業回毎) : 100% (次回講義にてフィードバックを行う)	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>予習: 参考書などを利用しコミュニケーションに関する興味関心を高める (2時間程度)。</p> <p>復習: 配布された資料や講義を受けての各自のメモなどを用いて復習し、わからないことは調べたり、次回授業で聞くことができるようにする (2時間程度)。</p>	
教科書	使用しない	
参考書	<p>岡野雅雄 (2008) . わかりやすいコミュニケーション学: 基礎から応用まで 三和書籍</p> <p>藤田依久子 (2022) . 新版対人コミュニケーション入門 ナカニシヤ出版</p>	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意	<p>1) 授業計画は受講学生数と受講学生の希望で一部変更することがあります。変更の場合は事前に周知します。</p> <p>2) 原則として初回授業に出席していない学生の履修は認めません。履修するか悩む場合でも必ず初回授業に出席してください。</p>	
アクティブ・ラーニングの実施	実施する (個人ワーク, グループワーク)。	
ナンバリング	SBa-103	

講義科目名称： 健康スポーツ理論

授業コード： 2S004

英文科目名称： Sports Science

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	必修
担当教員	担当者		
岩城 翔平			

授業形態	講義 (計12回) [普通講義室] 演習 (計3回…第2回、第10回、第12回) [アリーナ]	担当者
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション・目標の設定と達成 受講のルール説明、全15回の流れを解説。自身の大学生活についてのアフタマー ションを行う。</p> <p>第2回 運動、スポーツを通じたコミュニケーション アリーナでミニ運動会を行う。心と身体の健康と運動・スポーツのつながりを体感 する。</p> <p>第3回 形態計測 メジャーを用いて四肢と体幹の周径囲を計測する。自己の身体に関心を持ち、運動 継続のモチベーションに繋げる。</p> <p>第4回 生涯を通じた運動・スポーツの実践 生活の中に運動を取り入れるきっかけづくりとしての意識を学ぶ。また、人はなぜ 運動習慣を作ることが難しいのかを知る。</p> <p>第5回 トレーニングの基本理論① 筋収縮の様式やトレーニングの原理原則について学ぶ。</p> <p>第6回 トレーニングの基本理論②、トレーニングと栄養 トレーニングが身体に与える様々な影響および基礎的な栄養との関わりについて学 ぶ。</p> <p>第7回 初心者のためのトレーニング 身体の各部位における代表的なトレーニングを簡単な実践を交えながら学ぶ。</p> <p>第8回 様々なトレーニング方法 HIITの実践方法やウェイトトレーニングの実践テクニックを学ぶ。</p> <p>第9回 トレーニングプログラムの考案 班活動を行う。それぞれ設定された課題に対して、適した運動を班で協議し、ト レーニングプログラムを作成する。</p> <p>第10回 トレーニングプログラムのプレゼンテーション① アリーナにて、第9回で作成したトレーニングプログラムを用いて班別プレゼンテ ーションのプレテストを行う。その様子をビデオ撮影する。</p> <p>第11回 コーチングの基本理論 コーチングの基本的な理論を学ぶ。その後、第10回のプレゼンテーションを録画し たものを視聴し、班内で話し合い、プログラムおよび発表方法を改善する。</p> <p>第12回 トレーニングプログラムのプレゼンテーション② (演習試験) アリーナにて、第11回で改善したプレゼンテーションのテストを実施する。班別プ レゼンテーションは演習の成績評価に該当する。伝えようとする姿勢 (声の大き さ・トーン、目線、身振り、セリフ) の評価は撮影した映像から採点する。</p> <p>第13回 健康スポーツと行動変容・試験説明 健康スポーツが心に及ぼす影響と、行動変容との関わりについて学ぶ。 試験の内容等について説明する。</p> <p>第14回 授業内試験 (講義内容の振り返り) 授業内試験は試験の成績評価に該当する。 これまでの講義で学んだ知識が身につけているかどうか、確認する。</p> <p>第15回 試験結果のフィードバック、まとめ 試験結果および課題についてフィードバックする。また、本講義で得られた成果を 今後どのように生活へ役立てるのかを改めて考え、自身の健康とスポーツのかかわ りについて具体的にイメージする。</p>	<p>岩城 翔平</p> <p>岩城 翔平</p> <p>岩城 翔平</p> <p>岩城 翔平</p> <p>岩城 翔平</p> <p>岩城 翔平</p> <p>岩城 翔平</p> <p>岩城 翔平</p> <p>岩城 翔平</p> <p>岩城 翔平</p> <p>岩城 翔平</p> <p>岩城 翔平</p> <p>岩城 翔平</p> <p>岩城 翔平</p> <p>岩城 翔平</p> <p>岩城 翔平</p> <p>岩城 翔平</p>
科目の目的	<p>本学の体育系実技科目は必修の単位でない上、1年次後期のみの開講である。多忙な医療系学生にお いては特に、主体的に運動機会を作らなければ運動時間は減少していく。卒業後、未永く現場で活 躍することを目標とすれば、心身ともに健やかでいることは必須条件であることから、自己の健康 管理能力は極めて重要なライフスキルであるといえる。 本科目では、現在から将来にかけて、多忙な生活の中に自らの意思で運動・スポーツを取り入れ、 生涯にわたり健康で豊かな運動・スポーツライフを継続していくための実践的な知識を学んでゆ</p>	

	く。運動を続けるモチベーションの維持はなぜ難しいのか、どのように工夫すれば望ましい運動習慣が身に付くのか等を、具体的な方法論と軽運動の実践を交え、仲間とコミュニケーションをとりながら学習していく。その過程で、一人ないし複数人での運動が心に好影響をもたらしたり、仲間との協力・協調を育むきっかけとして機能したりすることを実感し、運動・スポーツが心の健康に及ぼす影響についても理解する。
到達目標	自身の心身の健康を保持増進することはもとより、身の回りの人が健康で豊かな生活を送るサポートができるような知識と協調性を養う。
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	多職種協働と地域社会活動の促進
関連科目	健康スポーツ実技
成績評価方法・基準	演習（35％）：基礎的な運動について理解があるか、また、適切な表現方法でプレゼンできているかどうかを、班別プレゼンテーション内で評価する。 試験（65％）：講義内容を理解できているか測る授業内試験により評価する。 課題：講義中に課すリアクションペーパー（2点）および期末レポート（0～12点）を追加点として取り扱う。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義内で学習したアフメーションやトレーニングについて1週間に計180分程度実践し、運動習慣の形成に努める。
教科書	教員作成のPowerPointを用いる。
参考書	「生涯スポーツ実践論：第4版」川西正志・野川春夫 編著 市村出版 ※「NSCAパーソナルトレーナーのための基礎知識」日本語版総監修 森谷敏夫、監修 岡田純一 ※非常に高価ですので、購入は必須ではありません。運動・スポーツ・ウェイトトレーニングに強い興味を持ち、今後ジムに通い実践しながら学んでいきたいと考える学生については、購入して損はありません。
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照
履修条件・履修上の注意	第2・10・12回は運動を伴うため、運動するのに適したスタイルで参加すること。 第3回は半袖(肩まで捲れるシャツ)、半ズボン(大腿部の50%まで捲れる)で参加すること。 また、第3回以降、毎回の講義で形態計測を行うため、各自の選択した部位を正確に測定しやすい服装で臨むこと。
アクティブ・ラーニングの実施	体験学習、グループ・ディスカッション、グループ・ワーク
ナンバリング	SBa-104

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
岩城 翔平			

授業形態	実技 (15回)	担当者
授業計画	第1回 オリエンテーション・からだづくり運動 受講のルール説明、学生自己紹介カードの作成、全15回の流れについて解説をしたのち、低強度のHIITトレーニングを行い、今後の授業に向けて身体を慣れさせる。班と班長の決定。	岩城 翔平
	第2回 班編成・からだづくり運動・球技 (バレーボール①) HIITトレーニング、アイスブレーキング、バレーボール、球技補助	岩城 翔平
	第3回 第1回「新体力テスト+」実施 新体力テストの種目を若干変更したものを実施する。種目：20m走、立ち幅跳び、反復横跳び、ボール投げ (男子：バスケットボール、女子：ハンドボール)、上体起こし、プッシュアップ、握力、背筋力、長座位体前屈	岩城 翔平
	第4回 班別ミーティング、球技 (バレーボール②) アイスブレーキング、班別ミーティング、バレーボール、球技補助	岩城 翔平
	第5回 班別トレーニング①、球技 (バレーボール③) アイスブレーキング、班別トレーニング、バレーボール、球技補助	岩城 翔平
	第6回 班別トレーニング②、球技 (バドミントン①) アイスブレーキング、班別トレーニング、バドミントン (ダブルス)、球技補助	岩城 翔平
	第7回 班別トレーニング③、球技 (バドミントン②) アイスブレーキング、班別トレーニング、バドミントン (ダブルス)、球技補助	岩城 翔平
	第8回 班別トレーニング④、球技 (バドミントン③) アイスブレーキング、班別トレーニング、バドミントン (ダブルス)、球技補助	岩城 翔平
	第9回 班別トレーニング⑤、球技 (タグラグビー導入) 班別トレーニング、タグを使ったアイスブレーキング、タグに慣れる、ボールに慣れる、ボールハンドリング、効果的なアタックの方法、ディフェンスの方法、ルールの確認	岩城 翔平
	第10回 班別トレーニング⑥、球技 (タグラグビー①) タグを使ったアイスブレーキング、班別トレーニング、タグラグビー	岩城 翔平
	第11回 班別トレーニング⑦、球技 (タグラグビー②) タグを使ったアイスブレーキング、班別トレーニング、タグラグビー	岩城 翔平
	第12回 班別トレーニング⑧、球技 (アルティメット①) フライングディスクを使ったアイスブレーキング、班別トレーニング、アルティメット	岩城 翔平
	第13回 班別トレーニング⑨、球技 (アルティメット②) フライングディスクを使ったアイスブレーキング、班別トレーニング、アルティメット	岩城 翔平
	第14回 第2回「新体力テスト+」実施 新体力テストの種目を若干変更したものを実施する。種目：20m走、立ち幅跳び、反復横跳び、ボール投げ (男子：バスケットボール、女子：ハンドボール)、上体起こし、プッシュアップ、握力、背筋力、長座位体前屈 【期末レポート提出】	岩城 翔平
	第15回 「新体力テスト+」結果フィードバック、球技 体力テスト結果および課題の提出についてフィードバックする。 全体のまとめリクエスト球技を実施する。	岩城 翔平
科目の目的	<p>心身の健康の保持増進と運動・スポーツは密接に関わる。本講義では[1. 運動・スポーツを通じた協調性の獲得][2. 運動習慣の獲得による体力向上]を目的とし、展開していく。</p> <p>[1. スポーツを通じた協調性の獲得] 運動の得意不得意に関係なく、誰しもが積極的にスポーツを楽しむためには、互いに相手の気持ちを想像し合い、思いやることを意識しなければならない。一方の立場だけでなく、別の立場からの視点を考慮することは、あらゆる医療職が集うチーム医療の実践に必要な協調性およびコミュニケーション能力の一つとして必須である。</p> <p>[2. 運動習慣の獲得による体力向上] 自身の体力課題を設定したうえで、班員同士協力し合い、毎週の講義で目的に応じたトレーニングを実施していく。また、本講義では予習復習の時間を自宅でのトレーニング実践時間として位置付けるため、履修学生は主体的に運動・スポーツに関わる機会を得る。今現在運動習慣がない者でも、運動・スポーツに継続して取り組めば、体力向上が可能なことを知り、その達成感を味わう</p>	

	にする。そうして獲得した運動習慣を、講義終了後も継続してもらうことが本講義最大の目的である。
到達目標	【運動・スポーツが心身の健康におよぼす影響を実感する】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・仲間の心情を想像し相手を思いやることを心掛ける（心のトレーニング）</li> <li>・スポーツ参加者全員が楽しめる場や空気の作り方を考える（心のトレーニング）</li> <li>・班員同士協力して体力課題を乗り越える（心身のトレーニング）</li> <li>・自身の体力課題を計画的に克服することで、運動習慣が身体機能におよぼす効果を実感する（身体トレーニング）</li> </ul>
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	多職種協働と地域社会活動の促進
関連科目	健康スポーツ理論
成績評価方法・基準	リアクションペーパーの提出（20%）：配付したリアクションペーパーを翌週提出したかどうか。公欠が無ければ翌々週を受付期限とする。 講義への取り組み（20%）：積極的に活動していたか。よほど目に余る行動（内職や不要なスマホの操作、だらけきった態度等）が無ければ減点されることはない。 班活動の様子（20%）：積極的にコミュニケーションを取り活動に取り組んでいたか。 第2回体力テスト結果（30%）：課題として設定した項目のスコアが伸びていたか。 期末レポート（10%）：設定した課題に取り組んだかどうか。レポートの提出が無ければA+評価は得られない。  球技の実力の多寡で成績評価はしない。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	第3回の授業で実施する体力テストの結果を参考に設定した課題に適したトレーニングやストレッチを自宅で実践する。1週間に45分～程度。
教科書	教科書無し。
参考書	「NSCAパーソナルトレーナーのための基礎知識 第2版」日本語版総監修 森谷敏夫、監修 岡田純一 NSCAジャパン ※非常に高価ですので、購入の必要はありません。今後ジムに通い、本格的にウェイトトレーニングを行う予定の学生は購入しても損はありません。
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照
履修条件・履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツウェア・内履き・タオルが必要。それぞれ高校で使用していたもので可。</li> <li>・教員が運動に適していないと判断した服装、外履きや素足、靴下での参加は認めない。</li> <li>・怪我予防のためピアス・ネックレス等装飾品は外して臨む。</li> </ul> 上記服装について何度注意しても繰り返し守られない場合、授業への参加を認めない。その際、欠席として取り扱う。  <ul style="list-style-type: none"> <li>・実技の授業中に内職をするなど言語道断である。</li> <li>・履修者数が10名を下回った場合、シラバスに記載の通りに球技を行うことは不可能である。その場合は状況を見て実施可能な種目を選択する。</li> </ul>
アクティブ・ラーニングの実施	問題解決学習、体験学習、グループ・ディスカッション、グループ・ワーク
ナンバリング	SBa-105

講義科目名称： 文学

授業コード： 2S006

英文科目名称： Literature

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
衣川 隆			

授業形態	講義 (15回)	担当者
授業計画	<p>第1回</p> <p>ガイダンス：「文学」とは何かを考える。            ◎ガイダンス            文学作品には、多様な人間模様や文化、歴史、そして切実な社会問題が刻み込まれている。作品を読むことは、一度きりの人生では決して出会えない人々や事柄に遭遇し、その経験を共有し、意味を問い直すプロセスである。それは、多様な人間や社会への理解を深めることであり、まさに「あなたはどうか生きるか」という普遍的な問いに能動的に向き合うことでもある。</p> <p>本科目では、日本文学の作品鑑賞を通じて、自己や他者、そして社会に対する多角的な視点や共感力を養い、「どう生きか」を探求する。また、近代・現代日本語の美しい響きや表現に触れることで、感性を磨き、自らの考えを論理的かつ豊かに表現する「文章力」の向上も目指す。</p> <p>【成績評価について】            成績評価は、学期末のレポート（100%）によって行う。</p> <p>評価のポイント： 単なる感想ではなく、講義で扱った視点や分析手法が反映されているかを重視する。            詳細説明： レポートの具体的なテーマや執筆ルールについては、第15回目の講義にて詳しく説明する。</p> <p>事前の準備： 毎回の講義で得た気づきや考察をメモしておくことが、質の高いレポート作成への一番の近道となる。</p> <p>◎一回目の講義内容            1. 講義の流れ            2. 代表的な作詩者について考える。メッセージ力とは何か、どこから生まれてくるのだろうか。            3. 世界的に愛される詩の秘密を考察する。            4.</p> <p>第2回</p> <p>芥川龍之介概論            1. 高校時代読み学んだ小説「羅生門」をどのように読み取ったかを振り返ってみる。            2. 芥川龍之介について説明する。            3. 芥川龍之介の生涯を学んで、小説「羅生門」を読み直す。今までと違った感じ取り方を味わうことができる。            4. まとめシートに記入する。            ※事前学習で芥川龍之介と「羅生門」について図書館やインターネットなど利用して調べる。授業後は自分の考えをまとめる。</p> <p>第3回</p> <p>宮沢賢治概論            1. 宮沢賢治について説明する。            2. 「母親」の教えから、どのような人生を送ったのか、その人生の中にある「自己犠牲」「光と影」「人生の基軸」「心象スケッチ」について考察する。また「春と修羅」詩集「銀河鉄道の夜」等の児童文学を残し、現代を生きる作家や映画監督、ミュージシャン等にも影響を及ぼしているその理由を考察する。            3. まとめシートに記入する。            ※事前学習で宮崎駿と「宮沢賢治」について図書館やインターネットなど利用して調べる。授業後は自分の考えをまとめる。</p> <p>第4回</p> <p>宮沢賢治『銀河鉄道の夜』から：前編            1. 「銀河鉄道の夜」と隠喩について説明する。            2. それぞれの場面における「自己犠牲」「光と影」「人生の基軸」「心象スケッチ」について考察する。            3. まとめシートに記入する。            ※事前学習で宮崎駿と「宮沢賢治」について図書館やインターネットなど利用して調べる。授業後は自分の考えをまとめる。</p> <p>第5回</p> <p>宮沢賢治『銀河鉄道の夜』から：後編            1. 「銀河鉄道の夜」と隠喩について説明する。            2. それぞれの場面における「自己犠牲」「光と影」「人生の基軸」「心象スケッチ」について考察する。            3. まとめシートに記入する。            ※事前学習で宮崎駿と「宮沢賢治」について図書館やインターネットなど利用して調べる。授業後は自分の考えをまとめる。</p>	<p>衣川 隆</p> <p>衣川 隆</p> <p>衣川 隆</p> <p>衣川 隆</p> <p>衣川 隆</p>

第6回	<p>梶井基次郎概論</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 梶井基次郎について説明する。</li> <li>2. 文学と病の関係について説明する。</li> <li>3. 小説「檸檬」を読み直す。「檸檬」の中に潜む「光と影」を読み取る。「得体のしれない不吉な塊」とは何か？どんな背景があるのか？また、多くの人が絶賛する「檸檬」の文章は、その内容もさることながら、並べ立てられていく言葉の流れそのものが美しかった。日本語というのはこんなに綺麗に、鮮やかに描くことができるのかと思った。」いると言われた箇所はどこか。</li> <li>4. まとめシートに記入する。</li> </ol> <p>※事前学習で梶井基次郎と「檸檬」について図書館やインターネットなど利用して調べる。授業後は自分の考えをまとめる。</p>	衣川 隆
第7回	<p>宮崎駿概論</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 宮崎駿について説明する。</li> <li>2. その人生の中にある「自己犠牲」「光と影」「人生の基軸」「心象スケッチ」について考察する。また「春と修羅」詩集「銀河鉄道の夜」等の児童文学を残し、現代を生きる作家や映画監督、ミュージシャン等にも影響を及ぼしているその理由を考察する。</li> <li>3. まとめシートに記入する。</li> </ol> <p>※事前学習で宮崎駿と「宮沢賢治」について図書館やインターネットなど利用して調べる。授業後は自分の考えをまとめる。</p>	衣川 隆
第8回	<p>結核と文学（宮崎駿『風立ちぬ』から前編）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 宮崎駿と『風立ちぬ』と結核との関係を説明する。</li> <li>2. 結核について文化史的側面から考察する。</li> <li>3. まとめシートに記入する。</li> </ol> <p>※事前学習で宮崎駿と「風立ちぬ」について図書館やインターネットなど利用して調べる。授業後は自分の考えをまとめる。</p>	衣川 隆
第9回	<p>結核と文学 宮崎駿『風立ちぬ』から後編）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 宮崎駿と『風立ちぬ』と結核との関係を説明する。</li> <li>2. 結核について文化史的側面から考察する。</li> <li>3. まとめシートに記入する。</li> </ol> <p>※事前学習で宮崎駿と「風立ちぬ」について図書館やインターネットなど利用して調べる。授業後は自分の考えをまとめる。</p> <p>※小レポート作成準備</p>	衣川 隆
第10回	<p>与謝野晶子と出産——『青海波』を読む——</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 与謝野晶子について説明する。</li> <li>2. 与謝野晶子と家族、出産について説明する。</li> <li>3. まとめシートに記入する。</li> </ol> <p>※事前学習で宮崎駿と「青海波」について図書館やインターネットなど利用して調べる。授業後は自分の考えをまとめる。</p>	衣川 隆
第11回	<p>夏目漱石概論——病と文学——前編</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 夏目漱石について説明する。</li> <li>2. 文学と病の関係について説明する。</li> <li>3. 小説「門」を読む。門に隠された表現を探っていく。小説はまず主人公を読者に紹介しつければならない。主人公をどうやって印象付けるかを探る。</li> <li>4. まとめシートに記入する。</li> </ol> <p>※事前学習で夏目漱石と「門」について図書館やインターネットなど利用して調べる。授業後は自分の考えをまとめる。</p>	衣川 隆
第12回	<p>夏目漱石概論——病と文学——後編</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 夏目漱石について説明する。</li> <li>2. 文学と病の関係について説明する。</li> <li>3. 小説「門」を読む。門に隠された表現を探っていく。小説はまず主人公を読者に紹介しつければならない。主人公をどうやって印象付けるかを探る。</li> <li>4. まとめシートに記入する。</li> </ol> <p>※事前学習で夏目漱石と「門」について図書館やインターネットなど利用して調べる。授業後は自分の考えをまとめる。</p>	衣川 隆
第13回	<p>正岡子規概論——病と文学——</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 正岡子規について説明する。</li> <li>2. 文学と病の関係について説明する。不治の病で床に伏し、激痛と闘いながらも森羅万象への好奇心を持ち続けた日々の記録を読む。</li> <li>3. 正岡子規の俳句や短歌、文章の革新運動の表現を探っていく。</li> <li>4. まとめシートに記入する。</li> </ol> <p>※事前学習で正岡子規と「門」について図書館やインターネットなど利用して調べる。授業後は自分の考えをまとめる。</p>	衣川 隆
第14回	<p>アラン概論 ——幸福論——</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. アランについて説明する</li> <li>2. 「詩的、文学的、そして哲学的」な幸福論はについて説明する。</li> <li>3. 「アラン：幸福論」が教えてくれるものとは何か？</li> <li>4. まとめシートに記入する。</li> </ol> <p>※事前学習で「アラン：幸福論」について図書館やインターネットなど利用して調べる。授業後は自分の考えをまとめる。</p>	衣川 隆

	<p>第15回</p> <p>前回の復習と文学がひらくもの ◎アランについての復習と「幸福論」を読んで自分はどう生きるかについて考える。</p> <p>◎レポート作成についての説明 【レポートの目的（到達目標）】 本レポートでは、講義を通じて以下の能力を身につけたかを確認する。</p> <p>多角的視点：医療対象を身体的・心理的・社会的側面やその背景から捉え、文学作品の中に生命の尊厳や倫理観を読み取れること。 洞察力：文学やその近接ジャンルにおける表現から、現代医療に通じる今日的な問題を抽出できること。 論理的構成力：講義内容を踏まえ、自らの考えを「論文形式」で論理的に記述できること。</p> <p>【課題内容】 授業で取り上げた文学作品の中から1作品を選択し、以下のテーマでレポート（A3用紙）にまとめる。</p> <p>テーマ：「この作品を読み、私はどう生きるかー文学と人生の接点から考えるー」</p> <p>内容：作品の分析にとどまらず、人間の背景とその関わりについて自身の倫理観や死生観を交え、普遍的な視点で論じること。</p> <p>※事前学習で「文学がひらくもの」について図書館やインターネットなど利用して調べる。授業後は自分の考えをまとめる。</p>	衣川 隆
科目の目的	<p>時代を超越した文学の中には、人生の学びともなりこころの基軸ともなる。そこには光と影、生と死、愛と憎しみ、病と祈り、不安と恐怖、歓喜とその裏にあるものなど、言葉の中に表現されたテーマは実に多様であり、その表現方法も種々様々である。</p> <p>本科目の文学では、近代から現代までを取り上げ、俳句・短歌・詩・小説といったさまざまな文学ジャンルの魅力やその表現の奥にある深さや豊かさを理解し、生涯にわたって基軸になるような宝となりうるかもしれない文学的教養の扉を開いて行く。</p> <p>そして文学の世界を理解するために、映画、アニメーション等といった様々な近接ジャンルについても理解を深め、人間の創り出す物語とは何かという問題に向かい合う。</p> <p>一方で、病者の抱える苦悩や絶望といった内面的な問題を中心に置き、病者自らが記した小説・日記・俳句等から読み取り、それを医療従事者としてどのように理解し自らの医療行為に反映させることができるのかを考えることを目的とする。</p>	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人権を尊重し、高い倫理観をもって社会に貢献する姿勢。</li> <li>2. チーム医療を実践するための、コミュニケーション能力と協調性。</li> <li>3. 医療技術専門職としての基礎的知識と技術、及び社会人としての教養。</li> <li>4. 医療技術分野の諸課題を見出し、科学的洞察による確かな判断ができる能力。</li> <li>5. 生涯にわたって専門分野を探究し、その発展に貢献する意欲と姿勢。</li> </ol>	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	知識・理解・表現	
関連科目	哲学、生命倫理、社会学、心理学入門	
成績評価方法・基準	期末レポート（100%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>【準備学習の内容】 講義の理解を深め、自身の思考を広げるために、以下の予習・復習を継続すること。</p> <p>1. 授業前（予習）：テキストの精読と問いの抽出（60分）。指定されたテキスト（文学作品や資料）を事前に精読し、「心が動かされた箇所」や「疑問に思った点」をメモして講義に臨む。また医療や生命の尊厳といった視点から、作品が提示している「課題」を自分なりに探しておくことが重要である。</p> <p>②. 授業後（復習）：講義内容の再構築と内省（30分） 講義で提示された分析視点や他者の意見を踏まえ、自分の初期の読みがどう変化したかを振り返る。学期末のレポートに向け、毎回の講義で得た「自分なりのキーワード」をノートに整理しておくことを推奨する。</p>	
教科書	教科書：使用しない（講義資料は1週間前を目処にActive Academyを通して配布する。各自で印刷するか、パソコンを持参し講義資料を見るか各自で選ぶこと）。	
参考書	各テーマごとに講義資料を作成して配布する。	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意		

アクティブ・ラーニングの実施	正しい知識の修得ではなく、正解のない議論（課題）を通して問題解決へのアプローチ方法を身につける。 具体的には、以下のことを講義に取り入れていく。 1. 学生は、授業を聞く以上の関わりをしていること 2. 情報の伝達より学生のスキルの育成に重きがおかれていること 3. 学生は高次の思考（分析、総合、評価）に関わっていること 4. 学生は活動（例：読む、議論する、書く）に関与していること 5. 学生が自分自身の態度や価値観を探求することに重きが置かれていること 6. 問題解決のために知識を使ったり、人に話したり書いたり発表したりすること
ナンバリング	CBb-101

講義科目名称： 人間と宗教

授業コード： 2S007

英文科目名称： Humans and Religion

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
森 禎徳			

授業形態	講義 (15回)	担当者
授業計画	第1回 人間と宗教 なぜ人間は宗教を必要とするのか。人間にとっての「超越者」の意義を考える。	森 禎徳
	第2回 神話と人間 (1) 神々が「人間的に」ふるまう多神教の物語、まずはギリシャ神話の世界を概観し、神話に含まれる教訓を学ぶ。	森 禎徳
	第3回 神話と人間 (2) ギリシャ神話に続いて日本神話の世界に触れ、神話と実際の歴史がどのようにリンクしているのかを学ぶ。	森 禎徳
	第4回 世界宗教 (1) 「世界宗教」のうち、キリスト教とその起源であるユダヤ教 (旧約聖書) について学ぶ。	森 禎徳
	第5回 世界宗教 (2) イスラム教の起源と教義を学ぶとともに、現代の世界におけるイスラム教の状況について考える。	森 禎徳
	第6回 世界宗教 (3) 仏教が目指す「悟り」「解脱」とは何かを考えるとともに、現代の日本人と仏教のかかわりについて学ぶ。	森 禎徳
	第7回 新宗教とカルト 新宗教とは何かを学び、一部の宗教団体がカルト化していった経緯を知ることで正しい信仰のあり方を考える。	森 禎徳
	第8回 神の存在証明 中世から近代の哲学においては、神の存在を証明する試みが隆盛した。その歴史と証明構造を概観する。	森 禎徳
	第9回 神の存在証明批判 ヒュームの経験論とカントの批判哲学を中心に、神の存在証明に対する批判を概観する。	森 禎徳
	第10回 知性と宗教 聖書に見られる反知性主義、キリスト教による科学の弾圧の歴史を通して信仰と知性の関係を考える。	森 禎徳
	第11回 道徳と宗教 カントの『単なる理性の限界内における宗教』を出発点に、信仰と道徳、信仰と自由の関係について考える。	森 禎徳
	第12回 平和と宗教 十字軍の歴史を通して異教徒 (異文化) 間の相互理解の可能性と限界について考える。	森 禎徳
	第13回 ホスピスの歴史と思想 シシリー・ソンドースの生涯と思想をたどりながら、ホスピスの原点とホスピス運動の展開について考える。	森 禎徳
	第14回 アイデンティティと宗教 「宗教二世」問題を通して、宗教によって自らの生き方を選ぶ機会を奪われた人たちの思いを考える。	森 禎徳
	第15回 医療と宗教 宗教的信条に基づく輸血拒否の事例をもとに、信仰は生命に優先するのかを考える。	森 禎徳
科目の目的	宗教は私達の身近に存在する。多くの家庭には仏壇や神棚が置かれ、年中行事や冠婚葬祭も宗教により執り行われる。旅行などで各地に足を運ぶと、おおよそ神社仏閣、宗教施設が存在しない地域はない。その一方で、宗教戦争の様相を呈した民族紛争がニュースに登場することも多い。本講義においては、このように多くの相において人間にかかわりをもつ「宗教」とは何かについて考え、キリスト教を中心にその教義、歴史、さらに文化社会的側面について講述する。宗教理解は私達人	

	間の理解、さらに文化・社会の理解にも役立つだろう。また、医療と宗教のかかわりについても考える機会を設けたい。
到達目標	①宗教が人間にとって大きな意味を持っていることを知る。 ②宗教が人間の営みに対して時に有害な影響を行使したことも知る。 ③宗教と医療のあるべき関係について考えを深める。
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	人間の尊厳と基本的人権
関連科目	哲学 生命倫理
成績評価方法・基準	期末レポート（100%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	1コマ当たり4時間程度、講義内容の再確認と復習を行う。より深く学びたい受講生には、興味のある教典・聖典や、宗教に関連した文学作品などの読書に加えて、比較宗教学による文献の読解もお勧めする。授業中に参考文献や映画を紹介するので、気になった作品に触れてみてください。
教科書	教科書は使用しません。授業はパワーポイントを使って進行します。
参考書	授業中に必要に応じて紹介します。ただし、購入を強制するものではありません。
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照
履修条件・履修上の注意	集中力・注意力の減退につながるため、基本的に授業資料の配布は行いません。重要だと思ったことはノートに記録して復習に役立てるよう心がけてください。
アクティブ・ラーニングの実施	授業形態としての実施はなし。出席票での質問、口頭での質問は、毎回受けつけます。
ナンバリング	SBb-102



	<p>第14回 2.5次元ミュージカル 現代日本では、舞台芸術、アニメ、ゲームなどが、メディアの垣根を越え縦横に入り交じりつつあります。代表例として漫画「テニスの王子様」のアニメ、ゲーム、ミュージカル化を紹介します。また、二次創作と日本の著作権意識の源流について考察します。</p> <p>第15回 まとめ:ひろがる芸術の世界 (期末テスト) ボーカロイド初音ミクによる近松門左衛門作「曾根崎心中」の道行きのパフォーマンスを例にとりながら、新しいメディアと既存の文化との関係について考察します。これまでの授業について振り返り、ポイントを整理します。</p>	<p>東 晴美</p> <p>東 晴美</p>
科目の目的	<p>この授業では、芸術の楽しみ方について学びます。 まず、現代の芸術の楽しみ方について、「ことば」「表現の場」「ファン」「からだ」「メッセージ」をテーマに考えます。 次に、西洋とは異なる独自の発展をとげた日本の芸術を紹介します。 最後に、漫画、アニメ、ゲーム、ミュージカルなどのサブカルチャーの魅力について考えます。 具体例として、総合芸術といわれる舞台芸術を紹介します。これらのテーマを通して、人と社会に深い関心を持って、社会人としての教養を身につけます。</p>	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・舞台芸術を例に、芸術学の基本を学ぶ。</li> <li>・日本の伝統文化の特色を学ぶ。また、伝統文化が、日本の現代芸術に影響を与えていることを学ぶ。</li> <li>・サブカルチャーが、日本の現代芸術にとって重要な役割を果たしていることを学ぶ。</li> <li>・芸術を通して、人と社会に深い関心を持つ力を身につける。</li> </ul>	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	人間の尊厳と基本的人権	
関連科目	社会学	
成績評価方法・基準	授業中の小テスト (2回) 各20%、期末教場レポート20%、授業中リアクションペーパー40%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	新聞、雑誌、テレビなどで紹介される舞台芸術や芸能に関する情報に関心を持つことがのぞましい。授業中のアンケートや授業後のレポートを提出に備えて1コマあたり4時間程度の学習をすることが望ましい。	
教科書	webポータルシステムにて講義資料をデータで配布(授業日前にデータを掲載、授業終了後1週間はダウンロード可)	
参考書	各回のテーマに関連する参考書を授業中に紹介する。	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意	各テーマと、自分が現在関心をもっていることと関連づけながら学ぶことを求めます。	
アクティブ・ラーニングの実施	発見学習 (教員が示した芸術の事例をもとに、自分が親しんでる芸術ジャンルの特色を発見し考察する)	
ナンバリング	SBb-103	



履修条件・履修上の注意	
アクティブ・ラーニングの実施	講義中のディスカッション
ナンバリング	SBb-201



国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照
履修条件・履修上の注意	授業開始時および授業中の私語禁止、授業中のスマートフォンおよび携帯電話の使用も禁止します。注意しても改善がみられない場合は退室を命じる場合があります。
アクティブ・ラーニングの実施	講義中の講師からの問いかけに答える、またディスカッションに参加するアクティブラーニングを実施。
ナンバリング	SBb-202

講義科目名称： 法学（日本国憲法含む）

授業コード： 2S011

英文科目名称： Law (Including the Constitution of Japan)

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
道下 洋夫			

授業形態	講義形式にて行なう。（15回）		担当者
授業計画	第1回 法とは何か なぜ法を学ぶのか、法とは何かについて様々な角度から考える	道下 洋夫	
	第2回 法と社会・法の種類 法と社会との関わりあい方、法と医療の関わり合い方について理解する	道下 洋夫	
	第3回 日本の法システム 日本の法令にはどのようなものがあるか、どのような性質を持つかについて理解する	道下 洋夫	
	第4回 日本の司法制度 法的責任、訴訟事件にはどのようなものがあるかについて理解する	道下 洋夫	
	第5回 憲法1 憲法の基本理念及び構造について理解する	道下 洋夫	
	第6回 憲法2 基本的人権（平等権、受益権、平和的生存権）について理解する	道下 洋夫	
	第7回 憲法3 基本的人権（自由権、社会権、包括的基本権）について理解する	道下 洋夫	
	第8回 憲法4 統治機構（三権分立、地方自治）について理解する	道下 洋夫	
	第9回 民法1 私法とは何か、債権債務とは何か、契約とは何かについて理解する	道下 洋夫	
	第10回 民法2 不法行為など契約外の債権について、及び債権の一般的な規則について理解する	道下 洋夫	
	第11回 民法3 物権とは何か、担保とは何かについて理解する	道下 洋夫	
	第12回 民法4 行為能力、時効など民法の一般的な規則について理解する	道下 洋夫	
	第13回 刑法1 刑法の基本原理解について理解する	道下 洋夫	
	第14回 刑法2 個々の犯罪、および特別法について理解する	道下 洋夫	
	第15回 刑法3 構成要件、違法性、責任とは何かについて理解する	道下 洋夫	
科目の目的	<p>法治国家である日本においては、健康保険による高度かつ安価な診療を受けたければ、医療を提供する側も受ける側も双方に各種医療関係法規の遵守が要求される。したがって医療関連の国家試験では、医療スキルの修得だけではなく医療関係法規の修得が要求されている。</p> <p>本科目は国家試験科目そのものではないが、国家試験で必要となる合格に必要な基礎力と応用力を底上げする極めて重要な「土台」となる科目である。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・憲法を中心とした日本の法システムの概要について理解する。</li> <li>・憲法、民法、刑法を通じて代表的な法規を概観する。</li> <li>・国家試験に関連する各種医療関係法規、社会保障制度の理解につながる基礎知識を習得する。</li> <li>・社会人として生きていくのに必要な一般的法知識を習得する。</li> </ul>		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	人間の尊厳と基本的人権		
関連科目	社会福祉制度・関連法規、生命倫理、生活文化と医療		
成績評価方法・基準	定期試験(100%)：法律とは何か、また憲法・民法・刑法とはどんなものか、について理解できているかを測る筆記試験を行う。		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	本科目は、90 時間の学修が必要な内容で構成されている。授業は30 時間分（15 コマ）となるため、60 時間分相当の準備学習・事後学習が必要となる。授業は1回完結型の内容ではなく連続しているため、前回講義で扱った内容についてしっかり理解している必要がある。		
教科書	教科書：特にないが適宜、資料・法令を配布するので、指示に従って各自用意して授業に臨むこと。		
参考書	特になし。		
オフィス・アワー			

国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照
履修条件・履修上の注意	国家試験に出題される各種医療関係法規、医療倫理、社会保障制度の学習の前提となる。 なお、看護学科の同名の科目とは講義内容・試験共に異なる。
アクティブ・ラーニングの実施	実施なし。
ナンバリング	Sbc-201

講義科目名称： 社会学

授業コード： 2S012

英文科目名称： Sociology

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
沼田 翔二郎			

授業形態	講義 (15回)	担当者
授業計画	第1回 社会学ガイダンスと「社会学的想像力」 社会学の基本的な物の見方である「社会学的想像力」について学ぶ。個人の悩みを社会構造と結びつけて捉える視座を獲得し、医療従事者が社会学を学ぶ意義を理解する。	沼田 翔二郎
	第2回 社会化と社会的相互作用 人間が社会の一員となる「社会化」のプロセス、および「役割」「規範」といった基本概念を学ぶ。教育や組織における個人の振る舞いが、いかに社会的に形成されるかを考察する。	沼田 翔二郎
	第3回 ジェンダーとセクシュアリティ 社会的・文化的性差であるジェンダーの概念を学ぶ。医療・ケア現場におけるジェンダーバイアスや、現代社会における家族形態の多様化について理解を深める。	沼田 翔二郎
	第4回 社会階層と健康・教育格差 現代社会における格差、貧困、社会階層の構造を扱う。特に社会経済的地位 (SES) が健康に与える影響 (健康の社会的決定要因: SDH) や、教育に与える影響 (文化資本・社会関係資本等) について、具体的なデータを基に検討する。	沼田 翔二郎
	第5回 社会調査法①：量的調査の基礎 アンケート調査などの量的アプローチの論理を学ぶ。相関関係と因果関係の違い、統計データの適切な読み取り方 (リテラシー) を習得し、エビデンスに基づいた思考法を養う。	沼田 翔二郎
	第6回 社会調査法②：質的調査の基礎 インタビューや参与観察などの質的アプローチの論理を学ぶ。数値化できない個人の文脈、意味づけ、プロセスを捉える手法としての特徴を理解する。	沼田 翔二郎
	第7回 調査手法の比較と統合 同一の社会事象に対し、量的・質的アプローチがそれぞれどのような「真実」を切り取るかを比較検討する。目的に応じた調査手法の使い分け (ミックス法など) について学ぶ。	沼田 翔二郎
	第8回 演習①：ライフヒストリー分析 闘病記やインタビュー記録などの二次資料 (ライフヒストリー) を用いた分析演習を行う。個人の語りから、その背景にある社会構造や制度的課題を読み解く技法を実践する。	沼田 翔二郎
	第9回 演習②：ライフヒストリー分析 闘病記やインタビュー記録などの二次資料 (ライフヒストリー) を用いた分析演習を行う。個人の語りから、その背景にある社会構造や制度的課題を読み解く技法を実践する。	沼田 翔二郎
	第10回 科学技術社会論 (STS) と専門性 科学技術と社会の接点を扱うSTSの視点から、専門家 (Expert) と非専門家 (Lay person) の関係性を学ぶ。高度専門職としての医療者が持つ権威と責任について考える。	沼田 翔二郎
	第11回 リスク社会とコミュニケーション 現代社会特有の「リスク」の概念と、不確実性の中での意思決定について学ぶ。科学的根拠と社会的合意形成の間で、専門職がいかにコミュニケーションを図るべきかを検討する。	沼田 翔二郎
	第12回 市民社会とボランティア 「第一セクター (行政)」「第二セクター (企業)」だけではない「第三セクター (NPO・市民社会)」の役割を学ぶ。ボランティア活動の社会的意義と、自発的な社会参加について考える。	沼田 翔二郎
	第13回 コミュニティとソーシャル・キャピタル 地域コミュニティにおける人々のつながり (ソーシャル・キャピタル) が、個人の健康や福祉に果たす役割を学ぶ。「社会的処方」など、医療と地域の連携事例を検討する。	沼田 翔二郎

	<p>第14回 現代社会の課題と多職種連携 これまでの学びを統合し、複雑化する社会課題（少子高齢化、孤立など）に対して、リハビリテーション専門職が他領域とどう連携しアプローチできるかを議論する。</p> <p>第15回 総括：専門職としての自己形成 講義全体の振り返りを行う。変化する社会の中で、自身がどのような専門職として社会に関わり、どのような社会を形成していきたいか、自身のビジョンを言語化する。</p>	<p>沼田 翔二朗</p> <p>沼田 翔二朗</p>
科目の目的	<p>本講義は、社会学の基本概念と調査手法を学び、「自分（個人の経験）」と「社会（構造・制度・文化）」のつながりを読み解く視点（社会的想像力）を養うものである。講義前半では、ジェンダー、役割、規範といった社会学の共通言語を習得し、身近な事例を分析する。中盤では、同一テーマに対する「量的調査」と「質的調査」のアプローチの違いを比較学習する。特に、他者の語り（ライフストーリー）を二次情報として分析する演習を通じ、データや語りの背後にある社会的文脈を読み解く力を身につける。講義後半では、科学技術や医療と社会の関係（信頼・リスク・専門性）について考察する。これらを通じ、単に医療・看護等の技術を提供することとどまらず、変化する社会情勢や地域社会の動向を踏まえた保健医療サービスを構想し、自身が専門職としてどのような自己を形成し、そして社会を形成していきたいかを言語化する。なお本講義は、受講生同士の対話を通じて、一人ひとりにとってより開かれた学びの機会となることを目指す。</p>	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会学の基本概念（規範、役割、ジェンダー、階層、制度、知識など）を用いて、身近な出来事や具体的事例を分析できる</li> <li>2. 社会的想像力を用いて、個人的な経験を社会構造・制度・文化といった広い文脈と結びつけて説明できる</li> <li>3. 量的調査と質的調査の特徴・利点・限界を理解し、問いの性質や目的に応じた使い分けを説明できる</li> <li>4. ライフストーリー（語り）を二次情報として分析し、個人の健康や生活背景にある社会的文脈を読み解くことができる</li> <li>5. 科学技術・医療と社会の関係（信頼、専門性、リスク）を社会的に考察しながら、自己と社会の目指す像を言語化する</li> </ol>	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	人間の尊厳と基本的人権	
関連科目	法学（日本国憲法含む）、経済学、生活文化と医療、地域ボランティア活動論、環境学、大学の学び入門、社会福祉・地域サービス論	
成績評価方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 平常点（リアクションペーパー）：30%</li> <li>● 中間課題（小レポート）：30%（講義時間内に複数回実施）</li> <li>● 最終課題（期末レポート）：40%</li> </ul>	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 内容：Active Academyにより資料を配布するので（前回講義翌日から当該日まで）、資料内の不明な用語等を調べてくること。また、前回講義の重要事項を見直しておくこと。日頃から新聞に目を通すことを習慣にする。</li> <li>● 時間の目安：1コマあたり4時間を自己学習に必要な時間の目安とする。</li> </ul>	
教科書	特定の教科書は使用しません。毎回の講義でレジュメ（スライド資料）を配布します。	
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ケイン樹里安（2019）『ふれる社会学』北樹出版</li> <li>○ 中村英代（2017）『社会学ドリル—この理不尽な世界の片隅で』新曜社</li> <li>○ ハンス・ロスリング他（2019）『FACTFULNESS（ファクトフルネス）——10の思い込みを乗り越え、データを基に世界を正しく見る習慣』日経BP</li> </ul>	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意	Active Academyにより資料を配布するので、各自講義中に使用できるように準備しておくこと。	
アクティブ・ラーニングの実施	あり。特に、ダイアログ、ディスカッション等の学び合いが多くあります。	
ナンバリング	SBc-202	



	第13回 長寿祝いと老人観 高齢化社会を象徴する老いの民俗と、長寿祝いをみていきます。老いと福祉に関する回想法についても理解します。	鈴木 英恵
	第14回 高齢女性の活躍と道の駅 近年、「人生100年時代」といわれるようになり、社会で活躍する高齢者が増加しています。ここでは道の駅で活躍する高齢女性の暮らしに着目し、その元気の秘訣を探ります。	鈴木 英恵
	第15回 葬送儀礼と先祖供養 伝統的な葬送儀礼を取り上げ、死の予兆とは何か、人は亡くなると何処へ行くのか、などについて考えてみます。先祖供養のお盆、お彼岸などの行事の意味、地域的特色のある盆行事についてみていきます。	鈴木 英恵
科目の目的	本講義では、科学的医療ではなく、人びとの間で古くから実践されてきた伝統的な医療習俗を取り上げます。伝統的な医療習俗とは、世間の人びとが理解してきた病気への解釈、病気を治す方法など、民間の医療・療法が対象となります。いわゆる民間療法は医師や医療従事者以外の人が行う療法で、古い時代から人びとの生活に根付いてきました。このような民間の医療・療法の特徴を学ぶことで、人はどのように病気を理解し受け止めてきたのか、また如何にして健康を取り戻そうとしてきたのか、その心意や療法を習得することができます。日々医療技術は進歩し、病院や医療機関施設等では科学的医療が施されますが、その一方で、人は重い病気や完治の困難な病気を抱えたと、お守り、お札(護符)など神仏の力、さらには家族や周りの友人の力を得て、それらを心の拠り所とし、病氣と向き合います。病氣を克服し、よりよい健康状態を求めようとする人びとの心意こそが、過去から現在まで続いてきた医療習俗に属します。本講義をとおり、私たちの生活と医療とのかかわりを実感し、患者やその家族を支えるような思慮深い保健医療従事者になることを目的とします。	
到達目標	現代医療に通じるような、伝統的な医療習俗を学ぶことは、いまの生活の質を向上させる力になります。今後、医療従事者を目指す学生の皆さんは、赤子から高齢者まで、さまざまな世代の患者やその家族と接するときがきます。伝統的な医療習俗や地域医療の対象となる人びとの生活文化を、知識として有することで、患者らとの円滑なコミュニケーションができると考えます。本講義では、「死生観」と「生活文化と医療」に関するレポート課題を出しますが、履修者の課題に対する取り組みへの姿勢とその内容を鑑み、成績に反映させます。レポート課題を達成した後、履修者が獲得できる能力は①患者の視点に立って物事をみる力を養うこと、②患者やその家族らの心の動きを理解し信頼関係が築けること、の2点と考えます。患者らの気持ちに寄り添えるような保健医療従事者となる能力の獲得を目標とします。	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	人間の尊厳と基本的人権、探求力と問題解決力、専門知識と基本的技術、多職種協働と地域社会活動の促進	
関連科目	生命倫理	
成績評価方法・基準	本講義ではレポート課題(60%)、授業内でのミニテスト(30%)、授業の理解度をはかるリアクションペーパーの提出(10%)で成績評価をします。レポート課題の提出は必須です。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	日常生活の中から病気、健康などに関すること(病気にならないように衣食住で心掛けていること、健康維持の方法など)に興味を持ってください。そして日常生活のなかで、本講義「生活文化と医療」に関連するような事柄、キーワードを考えてみてください。人は生きている限り、常に病いと向き合い、生きていきます。皆さんは体調が悪いとき、怪我をしたとき、どのようにして健康な身体を取り戻すでしょうか。自分を含み、身近な人たち(父母、祖父母、友人、知人など)は如何にして健康を取り戻しているのかを注意深くみてみましょう。そこには身体から病気を排除するような意識が働いているはず。その意識こそが、現代における医療習俗に属します。必要な自己学習は、事前学習と予習、復習を含めて1コマあたり4時間程度です。授業前までにテキストをじっくり読み、授業内容と合わせて自分なりの考えをまとめましょう。	
教科書	教科書：『図解案内 日本の民俗』 福田アジオ・内山大介・小林光一郎・鈴木英恵・萩谷良太・吉村風編 (2012 吉川弘文館)	
参考書	参考書1：『日本人の一生：通過儀礼の民俗学』 谷口 貢・板橋春夫著 (2014 八千代出版) 参考書2：『医療民俗学論』根岸謙之助 (1991 雄山閣) 必要に応じて、資料を配布します。	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意	私語は他の受講者に迷惑になるので厳禁です。授業の出席だけでは単位取得は認めません。	
アクティブ・ラーニングの実施	本講義では、履修者の能動的な学修への参加を望むためアクティブ・ラーニングを行います。Think, Pair, Shareを重視し、積極的な学修への参加を取り入れます。主に、振り返り学習(講義で配布したコメントシートに「今日の学び・疑問等」を書き、「講義で学んだことを、次にどのように生かすか」を考え書くこと)に力を入れることで、学生自身の興味、関心を引き出します。また、場合によっては「生活文化と医療」が対象とする社会的な出来事について、グループ・ディスカッション(テーマについて自由に話し合い、意見交換をして整理・分析し、結論を導き出し発表をする学習方法)を行います。	
ナンバリング	OBc-203	

講義科目名称： 多文化理解

授業コード： 2S014

英文科目名称： Intercultural Understanding

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
徳永 慎也			

授業形態	講義 (15回)	担当者
授業計画	第1回 多文化理解に関する用語の整理 多文化理解について学ぶ際に必要となる用語を学ぶ。 講義の最後10分程度で講義内容について質問・コメントなどを提出。 コメントへの回答や講評は、次回授業の始めに実施する。	徳永 慎也
	第2回 アメリカ型多文化主義① アメリカ型多文化主義について学ぶ。 講義の最後10分程度で講義内容について質問・コメントなどを提出。 コメントへの回答や講評は、次回授業の始めに実施する。	徳永 慎也
	第3回 アメリカ型多文化主義② アメリカ型多文化主義について学ぶ。 講義の最後10分程度で講義内容について質問・コメントなどを提出。 コメントへの回答や講評は、次回授業の始めに実施する。	徳永 慎也
	第4回 アメリカ型多文化主義③ アメリカ型多文化主義について学ぶ。 講義の最後10分程度で講義内容について質問・コメントなどを提出。 コメントへの回答や講評は、次回授業の始めに実施する。	徳永 慎也
	第5回 アメリカ型多文化主義④ アメリカ型多文化主義について学ぶ。 講義の最後10分程度で講義内容について質問・コメントなどを提出。 コメントへの回答や講評は、次回授業の始めに実施する。	徳永 慎也
	第6回 アメリカ型多文化主義⑤ アメリカ型多文化主義について学ぶ。 講義の最後10分程度で講義内容について質問・コメントなどを提出。 コメントへの回答や講評は、次回授業の始めに実施する。	徳永 慎也
	第7回 アメリカ型多文化主義⑥ アメリカ型多文化主義について学ぶ。 講義の最後10分程度で講義内容について質問・コメントなどを提出。 コメントへの回答や講評は、次回授業の始めに実施する。	徳永 慎也
	第8回 エスニシティ エスニシティについて学ぶ。 講義の最後10分程度で講義内容について質問・コメントなどを提出。 コメントへの回答や講評は、次回授業の始めに実施する。	徳永 慎也
	第9回 性・ジェンダー① 性・ジェンダーについて学ぶ。 講義の最後10分程度で講義内容について質問・コメントなどを提出。 コメントへの回答や講評は、次回授業の始めに実施する。	徳永 慎也
	第10回 性・ジェンダー② 性・ジェンダーについて学ぶ。 講義の最後10分程度で講義内容について質問・コメントなどを提出。 コメントへの回答や講評は、次回授業の始めに実施する。	徳永 慎也
	第11回 教育・職業・社会経済的屬性 教育・職業・社会経済的屬性について学ぶ。 講義の最後10分程度で講義内容について質問・コメントなどを提出。 コメントへの回答や講評は、次回授業の始めに実施する。 期末レポート課題の提示と説明。	徳永 慎也
	第12回 宗教 宗教について学ぶ。 講義の最後10分程度で講義内容について質問・コメントなどを提出。 コメントへの回答や講評は、次回授業の始めに実施する。	徳永 慎也

	第13回 障害者 障害者について学ぶ。 講義の最後10分程度で講義内容について質問・コメントなどを提出。 コメントへの回答や講評は、次回授業の始めに実施する。	徳永 慎也
	第14回 年齢・世代 年齢・世代について学ぶ。 講義の最後10分程度で講義内容について質問・コメントなどを提出。 コメントへの回答や講評は、次回授業の始めに実施する。	徳永 慎也
	第15回 第2回から第14回講義の復習（重要事項の確認） 第2回から第14回講義の復習（重要事項の確認） 多文化理解を学ぶ意義を再度確認する。	徳永 慎也
科目の目的	現代社会において、多様な価値観や文化的背景を持つ人々と相互理解を深めることはますます重要となっている。本科目では、異なる地域や言語、社会的価値観、文化的特性を持つ人々とのコミュニケーションを円滑に行うための基盤となる多文化や多様性の重要性について学ぶ。また、個人および集団間の相互関係において、適切な社会文化的背景の理解と道徳観を養い、自分とは異なる他者を理解し尊重する姿勢を培う。	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多文化や多様性を学ぶ意義について、自ら説明することができる。</li> <li>・異なる文化的背景や社会的価値観を持つ人々についての基礎的な知識を理解し、多文化や多様性について、具体例を挙げて、自ら説明することができる。</li> <li>・多様な価値観が共存する社会において、道徳的・倫理的観点から適切な判断を下し、日常生活においてその姿勢を実践できる。</li> </ul>	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	人間の尊厳と基本的人権	
関連科目	英語リーディング 医療英語リーディング 英語会話 医療英語会話 英語アカデミックリーディング・ライティング 国際コミュニケーション英語 中国語 コリア語 ドイツ語 ポルトガル語	
成績評価方法・基準	期末レポート70% 毎回のコメントペーパー30%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	本科目は、90時間の学習が必要な内容で構成されている。授業は30時間（15コマ）となるため、60時間分相当の準備学習（予習と復習）が必要となる。 予習：講義資料を読んで、疑問点や自分の意見をまとめておく。 復習：講義で得た知識を基に興味を広げ、文献やニュースを活用してさらに理解を深める。	
教科書	指定なし：講義資料を配付する	
参考書	指定なし：講義内で適宜紹介する	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意	私語厳禁（グループディスカッションなど、教員から指示がある場合を除く）。出席はパスワードを用いて登録してもらいますが、コメントペーパーを用いて教員も確認する。	
アクティブ・ラーニングの実施	グループディスカッションを行う。 授業後のコメントシートで「今日の学び・疑問・次の課題」等を記入。	
ナンバリング	SBc-101	

講義科目名称： 経済学

授業コード： 2S015

英文科目名称： Economics

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
飯島 正義			

授業形態	講義(15回)	担当者
授業計画	<p>第1回 経済学で何を学ぶのか 経済学を学ぶことの意義、授業内容と進め方、成績評価等について説明します。</p> <p>第2回 経済学の歩み アダム・スミスからケインズまでの流れを取り上げます。</p> <p>第3回 国民経済の仕組み 経済の3主体(家計・企業・政府)とその関係について説明します。</p> <p>第4回 市場メカニズム 市場メカニズムとは何か、市場メカニズムのメリット・デメリットについて説明します。</p> <p>第5回 政府の役割 市場の失敗の是正について説明します。</p> <p>第6回 景気循環 景気循環とは何か、日本の「景気指標」を読んでいきます。</p> <p>第7回 物価 物価とは何か、物価指数、インフレ・デフレと私たちの生活について説明します。</p> <p>第8回 金融政策と経済の安定化 金利政策、公開市場操作、預金準備率操作、ゼロ金利政策、金融の量的緩和等について説明します。</p> <p>第9回 財政政策と経済の安定化 税制、財政支出、日本の財政状況について説明します。</p> <p>第10回 国内総生産(GDP)(1) 国内総生産とは何か、三面等価の原則について説明します。</p> <p>第11回 国内総生産(GDP)(2) 「国民経済計算」(内閣府)のデータを読んで日本のGDPの状況を確認します。</p> <p>第12回 経済成長 経済成長とは何か、成長の要因、日本の経済成長の推移を確認します。</p> <p>第13回 貿易・国際収支 貿易に関する理論、国際収支とは何か、日本の貿易・国際収支の現状を「国際収支表」で確認します。</p> <p>第14回 為替レート 為替レートとは何か、為替レートの変動と日本経済への影響について説明します。</p> <p>第15回 少子高齢化と日本経済 少子高齢化とは何か、少子高齢化が今後の日本経済にどのような影響を及ぼすのかについて説明します。</p>	<p>飯島 正義</p> <p>飯島 正義</p> <p>飯島 正義</p> <p>飯島 正義</p> <p>飯島 正義</p> <p>飯島 正義</p> <p>飯島 正義</p> <p>飯島 正義</p> <p>飯島 正義</p> <p>飯島 正義</p> <p>飯島 正義</p> <p>飯島 正義</p> <p>飯島 正義</p> <p>飯島 正義</p> <p>飯島 正義</p> <p>飯島 正義</p>
科目の目的	経済学は、私たちの経済生活の中に存在する本質を明らかにすることを目的とした学問です。したがって、経済学を学ぶということは、私たちの経済生活そのものを知ることにつながります。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経済学の基礎知識を身につけることができます。</li> <li>2. 経済学の基礎知識を使って、現実の経済ニュース等を理解できるようになります。</li> </ol>	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	人間の尊厳と基本的人権	
関連科目	特にありません。	
成績評価方法・基準	授業内における復習プリント40%(3~4回、授業資料参照可)、定期試験60%で総合的に評価します。 なお、復習プリントのプリントは授業時に回収し、次週返却します。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業資料で前回の授業内容を復習するとともに、次回の授業内容をシラバス、Web上の資料で大筋をつかんでおいて下さい。その際、授業で紹介する参考文献等を利用して1コマあたり4時間程度を復習・予習にあてて下さい。	
教科書	教科書は使用しません。授業ではWebに添付する授業資料を使います。	
参考書	必要に応じて紹介します。	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	

国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照
履修条件・履修上の注意	授業資料をWeb上に添付しますので、各自印刷して持参して下さい。定期試験時には印刷された授業資料のみを持ち込み可とします。なお、資料の添付期間は資料を添付してから1か月間です。
アクティブ・ラーニングの実施	実施なし。
ナンバリング	SBe-102

講義科目名称： 地域ボランティア活動論

授業コード： 2S016

英文科目名称： Community Volunteer Activities

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
衣川 隆	岩城 翔平	一柳 大輔	

授業形態	講義8回と授業内レポート、地域ボランティア活動実習6回と体験レポート1回。		担当者
授業計画	第1回	<p>ガイダンス、ボランティアの現状、ボランティアの歴史について本講義の目的、授業の流れ等ガイダンスの説明。日本におけるボランティアの現状、ボランティアの定義、日本・欧米におけるボランティアの歴史について説明する。 また「民生委員・児童委員」「NPO」といった多様なボランティアの歴史を説明する。</p> <p>成績評価方法・基準について説明する。 また「体験レポート」についてのフィードバックは、授業において匿名化したうえで紹介する。個別のフィードバックは行わない。</p>	一柳 大輔
	第2回	<p>ボランティアに関する情報収集、ボランティアセンターの役割についてボランティア活動をスタートするにあたり、必要となる情報収集の方法について説明する。ボランティアセンターの組織や活動内容について説明し、各市区町村に設置されているボランティアセンターの活用方法を理解する。また、申請までのロールプレイングを行い、ボランティア参加までの流れを理解する。</p>	一柳 大輔
	第3回	<p>寄付と還元について 共同募金(赤い羽根共同募金)を例に寄付文化とその還元について説明する。寄付がどのようなかたちで使われているか、実際の事業を紹介し理解を深める。</p>	一柳 大輔
	第4回	<p>性的マイノリティとボランティア活動について 性的マイノリティに関連する団体の事業を紹介する。また、居場所事業・相談支援事業・啓発活動に関する紹介を通してボランティアとしてどう関わられるかを考察する。また、「アライ(支援者)」として性的マイノリティの方との交流を支援的側面に特化して説明する。</p>	一柳 大輔
	第5回	<p>生活課題を抱えた方への支援とボランティア活動について “複合的な課題”、“重層的な課題”等の生活課題を抱えている地域住民の事例紹介、そういった住民を対象とした居場所事業やコーディネート実践の紹介を通してボランティアとしてどう関わられるかを考察する。</p>	一柳 大輔
	第6回	<p>“ごみ屋敷”とボランティアについて ごみ屋敷の住人の多くは複合的な課題を抱えており、支援のあり方は非常に複雑であり、様々な専門職やボランティアが関わるケースが多い。ごみ屋敷の住人の支援において、ボランティアがどのように関わるかという視点で実際の事例をもとに説明をする。</p>	一柳 大輔
	第7回	<p>災害現場における災害ボランティアセンターの役割、災害ボランティアの活動について 我が国では、毎年、各地で自然災害が発生しておりこれらにより多くの人命や財産等が失われている。災害が発生した際に設置される災害ボランティアセンターの役割と災害ボランティアの活動について説明し、医療専門職としてのかかわり方を考察する。</p>	一柳 大輔
	第8回	<p>ボランティア体験の実践紹介、ボランティアに関する企業の取り組みの紹介 講義をとおした学びとボランティア体験レポートの発表を行う。様々な背景を持つ学生同士で知見を共有、考察する。また、民間企業の社会貢献活動の取り組みを紹介し、卒後の専門職キャリアを歩むうえでのボランティア活動の捉え方を考察する。</p>	一柳 大輔
	第9回	<p>ボランティアの実践 ボランティア活動と活動日記を作成。</p>	衣川 隆、 岩城 翔平
	第10回	<p>ボランティアの実践 ボランティア活動と活動日記を作成。</p>	衣川 隆、 岩城 翔平
	第11回	<p>ボランティアの実践 ボランティア活動と活動日記を作成。</p>	衣川 隆、 岩城 翔平
	第12回	<p>ボランティアの実践 ボランティア活動と活動日記を作成。</p>	衣川 隆、 岩城 翔平
	第13回	<p>ボランティアの実践 ボランティア活動と活動日記を作成。</p>	衣川 隆、 岩城 翔平
	第14回	<p>ボランティアの実践 ボランティア活動と活動日記を作成。</p>	衣川 隆、 岩城 翔平

	第15回 ボランティアの実践 ボランティア活動と活動日記を作成。	衣川 隆、 岩城 翔平
科目の目的	1. ボランティア活動の多様なあり方を理解する。 2. ボランティアに関連するステークホルダーを知り、他者を尊重し自身のかかわり方を考察する。 3. 医療専門職として地域社会に主体的かつ創造的に貢献できるようになる。	
到達目標	1. ボランティア活動の基本概念はもとより、歴史や現在の多様なニーズを理解し、ボランティアの意義を説明できる。 2. 実践や体験を通して、地域社会のニーズやボランティア活動について説明できる。 3. ボランティア・市民活動の実践を振り返り、医療専門職としての職業観の確立の基礎作りに寄与できる。	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	人間の尊厳と基本的人権、探求力と問題解決力、専門知識と基本的技術、多職種協働と地域社会活動の促進	
関連科目	なし	
成績評価方法・基準	授業内レポート(60%)・ボランティア体験レポート(40%)  【評価のポイント】 ・授業内レポート：学習内容の定着度合いがどの程度であったかを計測する。具体的には、授業回を取り上げ、内容の要約が適切か、重要キーワードの意味を理解できているか、考察がよく吟味され独自性のあるものか。 ・ボランティア体験レポート：主体性であるか(個人で完結するレポートは低い評価、様々なステークホルダーと関わる内容は高い評価をする傾向にある)、ボランティアによる学びの内容が詳細に記述されているか、考察が吟味され独自性のあるものか。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	個人として、または医療専門職として、どのようにボランティアと関わるかを自分なりに整理し、言語化できるようにしておくこと。テーマに沿って自分の気になるトピックスを学習しておくこと。 準備学習に必要な時間の目安：1コマあたり2時間。	
教科書	使用しない	
参考書	なし	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施	体験学習、教室内での演習	
ナンバリング	OBc-103	

講義科目名称： 群馬の探求

授業コード： 2S017

英文科目名称： Exploring Gunma

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
星野 修平			

授業形態	講義 (8回)	担当者
授業計画	<p>第1回 『群馬の探求』 概論 『上毛かるた』 の創設と文化的意義</p> <p>第2回 「上毛かるた」と読み解く群馬県の主要テーマ① 日本の近代化を支えた絹産業</p> <p>第3回 「上毛かるた」と読み解く群馬県の主要テーマ② 豊かな自然と景勝地</p> <p>第4回 「上毛かるた」と読み解く群馬県の主要テーマ③ 歴史と文化遺産</p> <p>第5回 「上毛かるた」と読み解く群馬県の主要テーマ④ 群馬を形作った人物</p> <p>第6回 「上毛かるた」と読み解く群馬県の主要テーマ⑤ 県民の気質と暮らし</p> <p>第7回 群馬の保健・医療・福祉 群馬の医療と支える国・県・市町村</p> <p>第8回 『群馬の探求』 のまとめ 『上毛かるた』 と巡る群馬の現在・そして未来の創造</p>	<p>星野 修平</p> <p>星野 修平</p> <p>星野 修平</p> <p>星野 修平</p> <p>星野 修平</p> <p>星野 修平</p> <p>星野 修平</p> <p>星野 修平</p>
科目の目的	群馬パース大学のある群馬県は、豊かな自然に囲まれ、多くのアウトドア施設、観光資源、温泉、史跡、歴史的建造物など、様々な文化と歴史と共に歩んできた。また群馬県民は古くから「上毛かるた」と共に、その歴史や文化、人々の生活を知り、群馬の魅力と地域の特性、人との関わりを大切にしてきた。この科目では、群馬県の歴史、文化、経済、社会などを多角的に探求し、群馬の生活圏で生きる人々の県民性と保健医療を提供する医療体制について学ぶ。	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・群馬県の歴史・文化・経済・社会の概要について説明できる。</li> <li>・群馬県の人と地域の特色について説明できる。</li> <li>・群馬県の健康・医療・福祉の概要について説明できる。</li> </ul>	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	人間の尊厳と基本的人権	
関連科目	コミュニケーション学入門、社会学、生活文化と医療、多文化理解、経済学、環境学、公衆衛生学、社会福祉・地域サービス論	
成績評価方法・基準	<p>演習課題 (50%) ・課題レポート (50%)</p> <p>*各回の授業では、授業の最後に提出課題があります。提出された課題についてのコメント等は、次回の授業でまとめて行います。</p> <p>*この授業のレポート課題については、講義の中で解説します。また、提出されたレポート課題については、成績判定後に、その概要を全体総括として公表します。</p>	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	本科目は7.5コマ (15時間) の講義科目のため、30時間分の準備学習時間 (1 コマあたり4 時間 (実時間数180分) ) が必要であり、事前学習 (90分) ・事後学習 (90分) が目安となる。	
教科書	使用しない	
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「上毛かるた」で見つける群馬のすがた：知れば、もっとぐんまが好きになる！ 群馬県 (2010/3/1)</li> <li>・上毛かるたはカタル 渡邊 俊著 Booko出版 (2023/12/19)</li> <li>・ガイドマップ「上毛かるた」ゆかりの地文化めぐり 群馬県 (2011/3/1)</li> <li>・手島仁の「群馬学」講座-人物100話 手島仁著 上毛新聞社 (2015/2/6)</li> <li>・大学的群馬ガイド こだわりの歩き方 高崎経済大学地域政策学部 観光政策学科編 昭和堂 (2024/3/18)</li> </ul>	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意	授業中に行う演習課題では、PCを使用しオンライン教材を利用するため、PC (Windows またはOS X) タブレット等を持参してください。	
アクティブ・ラーニングの実施	本科目では、学生の主体的な学習方法であるアクティブ・ラーニングを活用したオンライン教材等を使用します。	
ナンバリング	SBc-104	

講義科目名称： 環境学

授業コード： 2S018

英文科目名称： Environmental Studies

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
西菌 大実			

授業形態	講義 (15回)	担当者
授業計画	第1回 環境とは 環境問題の範囲と背景、生活を支える資源と持続可能社会、SDGs 第2回 環境問題の変遷 産業革命、公害問題から地球環境問題へ 第3回 典型七公害 大気・水・土壌の汚染、四大公害病、イタイイタイ病を事例として 第4回 有害物質による環境汚染の国際的な拡がり 水俣条約を事例として 第5回 水質汚濁 (Ⅰ) 水質汚濁の原因、生活排水、酸素要求量 第6回 水質汚濁 (Ⅱ) 水質汚濁の対策、下水道と浄化槽、多自然川づくり 第7回 水質汚濁 (Ⅲ) 宮崎駿の作品にみる水質汚濁と川の再生 第8回 廃棄物問題と循環型社会への流れ 一般廃棄物・産業廃棄物・感染性廃棄物、3R 第9回 オゾン層破壊 地球環境問題の顕在化、フロンによるオゾン層破壊 第10回 紫外線対策 紫外線の人体への影響、オーストラリアの対策を事例として 第11回 気候変動 (Ⅰ) 温室効果ガス、気候変動の状況と将来予測 第12回 気候変動 (Ⅱ) 気候変動の具体的な影響、豪雨・熱中症・感染症等の増加 第13回 気候変動 (Ⅲ) 予防原則、先進国・途上国の責任、緩和、パリ協定 第14回 エネルギー問題と低炭素社会への流れ 化石燃料からの脱却、再生可能エネルギー 第15回 持続可能社会の構築をめざして 低炭素社会と循環型社会を具体化した未来社会の在り方を考える	西菌 大実 西菌 大実 西菌 大実 西菌 大実 西菌 大実 西菌 大実 西菌 大実 西菌 大実 西菌 大実 西菌 大実 西菌 大実 西菌 大実 西菌 大実 西菌 大実 西菌 大実
科目の目的	環境問題への認識は、現代社会を生きていくために不可欠の要素である。また、疾病の発症するバックグラウンドとして、その時代の環境が色濃く反映している。環境理解を深めることによって、社会人としてよりよく生き、適切な保健医療サービスを提供できるようになることを目指す。	
到達目標	1. 環境問題の背景と発生原因を理解する 2. 公害問題、地球環境問題とその対策の考え方を理解する 3. 資源・エネルギーの適切な利用と低炭素社会・循環型社会・持続可能社会構築への認識を持つ	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	多職種協働と地域社会活動の促進	
関連科目	特になし	
成績評価方法・基準	定期試験 (100%)	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義資料をもとに授業該当箇所の予習・復習 (自筆ノートの整備) を行う。準備学習に必要な学習時間の目安は1コマ当たり4時間。	
教科書	使用しない (プリント配布)	
参考書	新版 新しい環境科学 鈴木孝弘 駿河台出版社 ISBN978-4-411-04039-8C3040	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意	特になし	
アクティブ・ラー	教室内でのグループ・ディスカッション	

ニングの実施	
ナンバリング	SBd-101

講義科目名称： 基礎生物学

授業コード： 2S019

英文科目名称： Basic Biology

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
嶋田 淳子			

授業形態	講義 (8回)	担当者
授業計画	<p>第1回 ヒトへの進化                      ①生命の誕生と進化、ヒトへの進化について概説                      ②生命現象の普遍的な特質、一様性、多様性、連続性について                      ③生命活動に主要な役割を持つ構成成分(1)                      ・水の重要性                      ・タンパク質</p> <p>第2回 生命を支える物質                      ①生命活動に主要な役割を持つ構成成分(2)                      ・炭水化物(糖質)                      ・脂質                      ・核酸                      ・無機質(無機塩類)</p> <p>第3回～4回 生命の単位                      ①ウイルス、原核細胞(細菌類を含む)、真核細胞                      ②真核細胞の構造と機能                      ・細胞膜の構造と機能 ・細胞質基質の役割 ・核の構造と機能                      ・粗面小胞体の構造と機能 ・滑面小胞体の構造と機能                      ・ゴルジ体の構造と機能 ・リソソーム                      ・ペルオキシソーム ・ミトコンドリア ・色素体 ・細胞骨格の種類とその役割</p> <p>第5回 細胞内小器官                      ①核、小胞体、ゴルジ装置、ミトコンドリア、リソソーム                      ②DNAの変異と修復                      ③遺伝情報発現のしくみ</p> <p>第6回 受精、発生、分化(1)                      ①無性生殖と有性生殖、減数分裂                      ②受精                      ③初期発生と分化のしくみ                      ④形態形成とアポトーシス</p> <p>第7回 受精、発生、分化(2)                      ①受精、発生                      ②サイトカイン</p> <p>第8回 ヒトの染色体と遺伝子、メンデルの法則と形質の遺伝                      ①ヒトの染色体と遺伝子                      ②メンデルの法則と形質の遺伝                      ③遺伝病の原因—遺伝子変異</p>	<p>嶋田 淳子</p> <p>嶋田 淳子</p> <p>嶋田 淳子</p> <p>嶋田 淳子</p> <p>嶋田 淳子</p> <p>嶋田 淳子</p> <p>嶋田 淳子</p>
科目の目的	医療系専門職の専門課程の学習を理解するために必要な生命現象の基礎知識を深めることを目的とする。特に基礎生物学では生体を構成する基本単位である細胞について、その構造と機能、細胞の増殖と生殖細胞の形成などを学び、さらに生命の連続性を担保する受精、発生、形質の遺伝について知識を深めることを目的とする。	
到達目標	ヒトの生命活動の全体像を理解するために次の事項を理解し、説明できる力を身につける。 ①生命の起源からヒトへの進化、生命現象の特質について理解する。 ②細胞構成成分である水の重要性を理解し、タンパク質、糖、脂質、核酸、無機質について説明できる。 ③細胞の構造、細胞構成成分、細胞内小器官の働きや仕組みを理解する。 ④体細胞分裂と減数分裂を図示して詳細に説明できる。 ⑤生殖、発生、分化のしくみ、形態形成について理解する。 ⑥ヒトの染色体と遺伝子、メンデルの法則とヒト形質の遺伝について説明できる。	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	多職種協働と地域社会活動の促進	
関連科目	化学、解剖学Ⅰ、生理学Ⅰ、生化学	
成績評価方法・基準	定期試験の成績(80%)及び講義終了時に提出するリアクションペーパー(20%)により評価する。	

準備学習の内容・ 準備学習に必要な 学習時間の目安	各回ともシラバスの講義内容に一致する高等学校生物の教科書または補助教材を1時間程度復習しておくこと。特に、授業範囲の専門用語についてはわからないときには生物学事典（岩波書店、東京化学同人社など）で調べ、理解しておくこと。
教科書	「人の生命科学」 佐々木史江、堀口 毅、岸 邦和、西川純雄（医歯薬出版株式会社）
参考書	1. 「Essential細胞生物学原書第4版」中村桂子、松原謙一 監訳（南工堂） 2. アメリカ版 大学生物学の教科書1巻～3巻」 D. サダヴァ他著 ブルー-ボックス（講談社） 3. 「基礎から学ぶ生物学・細胞生物学」 和田 勝（羊土社）
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照
履修条件・履修上の 注意	基礎生物学分野の研究が医療に生かされている現状、ヒトの遺伝などを理解するために、教科書、講義資料等で予習後、履修することが望ましい。
アクティブ・ラー ニングの実施	授業の中でグループワークを行う。
ナンバリング	SBd-102

講義科目名称： 生物学

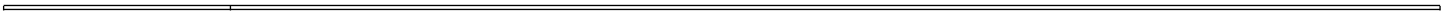
授業コード： 2S020

英文科目名称： Biology

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
嶋田 淳子			

授業形態	講義 (8回)	担当者
授業計画	<p>第1回・2回 遺伝子の転写・翻訳 ①遺伝子の転写 ②遺伝子の翻訳 ③原核生物と真核生物における遺伝情報発現コントロール ④エピジェネティクス</p> <p>第3回・4回 遺伝子の複製、エネルギー代謝 ①遺伝子の複製 ②染色体の分配 ③染色体異常 ④遺伝病 ⑤細胞周期</p> <p>第5回・6回 がんとがん遺伝子 ①がんの原因 ②がん遺伝子とがん抑制遺伝子</p> <p>第7回・8回 細胞科学の先端研究と医療への応用 ①オミックス解析の現状と課題 ②細胞内タンパク質の再利用 ・ユビキチン-プロテアソーム系 ・オートファジー ③iPS細胞 基礎研究と応用研究の進捗状況 ④細胞分裂の限界と老化</p>	<p>嶋田 淳子</p> <p>嶋田 淳子</p> <p>嶋田 淳子</p> <p>嶋田 淳子</p>
科目の目的	<p>高等学校「生物基礎」履修済みを前提に、保健医療の専門職として、先進・高度化しつつある専門領域の学習を理解するために必要な生命科学の基礎知識を深めることを目的とする。本講義では、基礎生物学で学んだ知識をベースに、生命活動を支えるエネルギー獲得、真核細胞のDNA複製や遺伝子の情報発現、情報発現の調節などを詳しく学ぶ。また、ヒトの遺伝病、先天異常について学ぶ。さらに医療分野に直接関連する生物学分野の研究進捗状況について理解する。</p>	
到達目標	<p>基礎生物学の学習内容を基礎として次の事項を理解し、説明できる力を身につける。</p> <p>①真核細胞におけるDNAの複製、遺伝情報発現、発現調節、DNAの変異などについて知識を深める。 ②ヒトにおける染色体異常、および遺伝病について学び、説明できる。 ③がんの原因、がん遺伝子、がん抑制遺伝子について学ぶ。 ④細胞科学の先端基礎研究と医療分野との関連について理解し、説明できる力を身につける。</p>	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	多職種協働と地域社会活動の促進	
関連科目	基礎生物学、基礎化学、解剖学Ⅰ、生理学Ⅰ、生化学	
成績評価方法・基準	定期試験の成績 (90%) 及び講義終了時に提出するリアクションペーパー (10%) により評価する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回ともシラバスの講義内容に一致する高等学校生物の教科書または補助教材を1時間程度復習しておくこと。特に、授業範囲の専門用語についてわからないときには生物学事典 (岩波書店、東京化学同人社など) で調べ、理解しておくこと。	
教科書	「人の生命科学」 佐々木 史江、堀口 毅、岸 邦和、西川 純雄 (医歯薬出版株式会社)	
参考書	<p>1. 「Essential細胞生物学原書第4版」 中村桂子、松原謙一 監訳 (南工堂)</p> <p>2. アメリカ版 大学生物学の教科書1巻～3巻」 D. サダヴァ他著 ブルーバックス (講談社)</p> <p>3. 「基礎から学ぶ生物学・細胞生物学」 和田 勝 (羊土社)</p>	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」 参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」 参照	
履修条件・履修上の注意	基礎生物学を履修していることが望ましい。	
アクティブ・ラーニングの実施	授業の中でグループワークを行う。	
ナンバリング	SBd-103	



講義科目名称： 基礎数学

授業コード： 2S021

英文科目名称： Basic Mathematics

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
山崎 真			

授業形態	講義 (8回)	担当者
授業計画	<p>第1回 数と式 展開・因数分解を復習する。</p> <p>第2回 方程式と不等式 1次不等式, 2次方程式の復習をする。</p> <p>第3回 2次関数 2次関数とそのグラフ, 2次関数の最大・最小, 2次関数のグラフと2次方程式・2次不等式の関係性を復習する。</p> <p>第4回 図形と計量 三角比, 正弦定理と余弦定理, 図形の計量を復習する。</p> <p>第5回 個数の処理 順列, 組合せを復習する。</p> <p>第6回 確率 事象と確率, 確率の性質, 反復試行の確率, 条件つき確率を復習する。</p> <p>第7回 論理と命題 集合とその要素の個数, 命題と条件, 逆, 裏, 対偶を復習する。</p> <p>第8回 データの分析 データの整理と特徴的な値(平均, 分散, 相関係数など)を復習する。</p>	<p>山崎真</p> <p>山崎真</p> <p>山崎真</p> <p>山崎真</p> <p>山崎真</p> <p>山崎真</p> <p>山崎真</p> <p>山崎真</p>
科目の目的	<p>高校数学の基礎を復習し、数学の各分野の概念を再確認し、それを医療を含む生活での現象に結びつけて応用するセンスと技能を伸ばし、将来、医療従事者として数理現象を見出し、定量的に表現し、その上で分析、評価するための基礎的な能力を磨く。具体的には、数と式、方程式と不等式、二次関数、図形と軽量、場合の数と確率、論理と命題、データの分析について学ぶ。</p>	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基礎的な数学の概念の復習をする。</li> <li>2. 数学の概念や道具を自力で扱えるようにする。</li> <li>3. 定量的なものごとを評価するセンスを磨く。</li> </ol>	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	多職種協働と地域社会活動の促進	
関連科目	基礎統計学, 物理学, 化学, メディア・リテラシー, AI・データサイエンス・リテラシー	
成績評価方法・基準	<p>筆記試験 (90%) + レポート (10%)          なお, 社会情勢に応じて, 筆記試験の代わりにレポート試験をすることもありうる。</p>	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校数学の教科書の相当部分を読んでおく。(120分程度)</li> <li>・プリントや問題集の問題を解く。(120分程度)</li> </ul>	
教科書	<p>教科書：特になし          毎回、講義内容のプリントをActive Academyで配布する          配布期間：前回授業翌日から当該日まで          持参方法：各自印刷して授業に持参すること</p>	
参考書	高校数学IAの教科書	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施	実施しない	
ナンバリング	SBd-104	

講義科目名称： 数学

授業コード： 2S022

英文科目名称： Mathematics

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
山崎 真			

授業形態	講義 (8回)	担当者
授業計画	<p>第1回 三角関数 一般角と弧度法, 三角関数の加法定理, 三角関数の合成, 和と積の変換</p> <p>第2回 複素数 複素数の導入と計算方法, 複素共役, 剰余の定理, 因数定理</p> <p>第3回 指数関数と対数関数 指数法則, 実数のべき, 対数の導入, 対数法則, 底の変換公式</p> <p>第4回 ベクトルと行列 ベクトル・行列の導入, 基本的な性質</p> <p>第5回 微分の導入 微分の定義, 整式の微分, 極大値・極小値</p> <p>第6回 微分の基本性質 積・商の微分, 合成関数の微分, 三角関数・指数関数・対数関数の微分</p> <p>第7回 積分の導入 積分の定義, 整式の積分, 図形の面積</p> <p>第8回 積分の応用 置換積分, 部分積分, 三角関数・指数関数・対数関数の積分, 微分方程式</p>	山崎真 山崎真 山崎真 山崎真 山崎真 山崎真 山崎真 山崎真
科目の目的	医療従事者には、個々の患者の生理的状態や疾病状態、患者集団の動向などを種々のデータによって定量的にとらえ、分析・評価する能力が求められる。また患者への治療・検査刺激の量的な理解と評価も重要である。本科目はそれらのための基礎的数学知識の確認に加えて、発展的な知識を身につけ、専門科目の円滑な理解につなぐことを目指す。具体的には、三角関数、複素数、指数関数、対数関数、ベクトルと行列、微分・積分(数ⅡⅢ)、微分方程式などについて学ぶ。	
到達目標	1. 医療や科学を学ぶためのやや進んだ数学的な知識と技能を学ぶ。 2. 数理現象を理解したり、評価したり、扱ったりする数学的なセンスを養う。	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	多職種協働と地域社会活動の促進	
関連科目	基礎数学, 物理学, 化学, メディア・リテラシー, AI・データサイエンス・リテラシー	
成績評価方法・基準	筆記試験 (90%) + レポート (10%)	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校数学の教科書の該当する部分を読んでおく。(120分程度)</li> <li>・プリントや問題集の問題を解く。(120分程度)</li> </ul>	
教科書	教科書・参考書：特になし。 毎回、講義プリントをActive Academyで配布する。 配布期間：前回授業翌日から当該日まで 配布方法：各自印刷して授業に持参すること	
参考書	高校数学ⅡⅢの教科書	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意	講義「基礎数学」も履修することが望ましい。	
アクティブ・ラーニングの実施	実施しない	
ナンバリング	SBd-105	

講義科目名称： 基礎化学

授業コード： 2S023

英文科目名称： Basic Chemistry

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
日置 英彰			

授業形態	講義 (8回)	担当者
授業計画	<p>第1回 化学の立場から医療を考える 歴史的に重要な化学物質を取り上げて、化学物質がどのように医療に貢献してきたか考える。</p> <p>第2回 物質の成り立ち 物質を構成している分子と原子の構造、原子軌道、分子軌道について解説する。</p> <p>第3回 元素と周期表 自然にはどのような元素があるのか、元素の分類と周期表の読み方について解説する。</p> <p>第4回 イオン イオンとイオン結合の原理、生体内でのイオンの役割について解説する。</p> <p>第5回 共有結合化合物と有機分子 生体を構成している物質のほとんどは有機分子である。有機分子の結合様式、特異的な形、一般的な性質について解説する。</p> <p>第6回 水の性質と物質の状態変化 ヒトの体の半分以上を占める水の性質と物質の三態（気体、液体、固体）について解説する。</p> <p>第7回 物質の変化における速度論と平衡論 物質の変化は、速度論と平衡論の両面から考察する必要がある。これらについて概説する。</p> <p>第8回 放射線と放射能 放射性崩壊と半減期、医療における放射性同位体の利用について解説する。</p>	日置 英彰 日置 英彰 日置 英彰 日置 英彰 日置 英彰 日置 英彰 日置 英彰 日置 英彰
科目の目的	地球上に生きるすべての生命を持つものを物質から見れば、巨視的に見えるものから究極を突き詰めれば見えないものは原子や分子の世界まで行きつくことになる。本科目では、物質の科学であると言われる化学について、物質についての基本的な事項を高校化学の基礎にさかのぼり学び、専門課程で学修する内容を体系的に理解するための基礎的知識を身につけることを目的とする。	
到達目標	専門課程で学習する内容を体系的に理解するために、化学分野の基礎的知識を習得する。	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	多職種協働と地域社会活動の促進	
関連科目		
成績評価方法・基準	試験（75%）、毎講義ごとのリアクションペーパー（Active Academyのアンケート機能を利用）の提出（25%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習は必要ありませんが、毎回の講義の理解度を確保するために、講義ごとに出題されるチェックテストを活用して復習してください。また、講義の中で疑問に感じて自分で調べたこと、講義に関連する内容についてさらに深く学習したことについて、毎講義ごとにリアクションペーパー（Active Academyのアンケート機能を利用）を提出してもらいます。講義を通して30時間分の学習が必要です。	
教科書	看護系で役立つ化学の基本 有本淳一・西沢いづみ著 化学同人	
参考書	特に指定なし	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意	特にありません。	
アクティブ・ラーニングの実施	受講内容に関連することで興味を持ったことを積極的に調べるなど、能動的な学習を行ってください。各回ごとに提出するリアクションペーパーにはその内容を記述してください。	
ナンバリング	SBd-106	

講義科目名称： 化学

授業コード： 2S024

英文科目名称： Chemistry

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
日置 英彰			

授業形態	講義 (8回)	担当者
授業計画	<p>第1回 病気と闘う化学物質 くすりは体の中でどのように作用するのか概説しながら、医療と化学がどのように関わっているのか考える。</p> <p>第2回 生体内ではたらく有機化合物 ホルモンや神経伝達物質をはじめ多くの有機化合物が生命活動を維持する上で重要な役割を果たしている。これら有機化合物の性質を官能基別に解説する。</p> <p>第3回 酸と塩基 酸、塩基、緩衝液について解説する。</p> <p>第4回 酸化と還元 物質の酸化と還元、生体内での酸化還元反応について解説する。</p> <p>第5回 生体高分子 糖、タンパク質、核酸の化学構造とその性質について解説する。</p> <p>第6回 触媒と酵素 生体内の化学反応は酵素が触媒している。化学反応における触媒の役割、酵素の構造と触媒作用について解説する。</p> <p>第7回 合成高分子 医療材料には多くの高分子素材が使われている。各種高分子の性質と医療材料への応用について解説する。</p> <p>第8回 拡散と浸透現象 細胞への物質の出入りや人工透析などを考える上で重要な拡散と浸透現象の原理について解説する。</p>	<p>日置 英彰</p> <p>日置 英彰</p> <p>日置 英彰</p> <p>日置 英彰</p> <p>日置 英彰</p> <p>日置 英彰</p> <p>日置 英彰</p> <p>日置 英彰</p>
科目の目的	医療と化学の関係は深い。生命活動自身が秩序だった化学反応であり、医薬品、医用材料、臨床検査薬等を扱うには化学的な見方・考え方は重要である。本講義ではその基本的知識を習得する。	
到達目標	生体関連物質、医薬品、医用材料など医療に密接に関係している化学物質の性質や反応を理解する。	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	多職種協働と地域社会活動の促進	
関連科目		
成績評価方法・基準	試験 (75%)、毎講義ごとのリアクションペーパー (Active Academyのアンケート機能を利用) の提出 (25%)	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習は必要ありませんが、毎回の講義の理解度を確認するために、講義ごとに出題されるチェックテストを活用して復習してください。また、講義の中で疑問に感じて自分で調べたこと、講義に関連する内容についてさらに深く学習したことについて、毎講義ごとにリアクションペーパー (Active Academyのアンケート機能を利用) を提出してもらいます。講義を通して30時間分の学習が必要です。	
教科書	看護系で役立つ化学の基本 有本淳一・西沢いづみ著 化学同人	
参考書	特になし	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意	特にありません。	
アクティブ・ラーニングの実施	受講内容に関連することで興味を持ったことを積極的に調べるなど、能動的な学習を行ってください。各回ごとに提出するリアクションペーパーにはその内容を記述してください。	
ナンバリング	SBd-107	

講義科目名称： 基礎物理学

授業コード： 2S025

英文科目名称： Basic Physics

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
高橋 佳孝			

授業形態	講義 (8 回)		担当者
授業計画	第1回	運動の基本 物理における力や運動の記述法。物理数学の基礎。	高橋 佳孝
	第2回	運動の記述 直線運動における距離、速度、加速度。平面運動への拡張。	高橋 佳孝
	第3回	運動の法則 ニュートンの運動の法則。力の分解。	高橋 佳孝
	第4回	運動方程式 垂直抗力。摩擦力。斜面上での力のつり合い。	高橋 佳孝
	第5回	仕事とエネルギー 仕事とは。エネルギーと仕事との関係。エネルギー保存則。	高橋 佳孝
	第6回	運動量と力積 運動量とは。力積とは。運動量保存則。はね返り係数。	高橋 佳孝
	第7回	円運動、振動 等速円運動。弾性力。単振動。いろいろなエネルギー。	高橋 佳孝
	第8回	既出事項のまとめ、期末試験 剛体のつり合い。モーメント。	高橋 佳孝
科目の目的	高等学校で物理を履修していない学生を想定し、力学を中心とした物理の基礎を身につける。高校で物理を履修した学生にとっては別の視点の紹介等により知識の深化と応用力の向上を目指す。		
到達目標	物理学の基礎的な概念を知り、初等力学を考えるための標準的な手法を学び、物理現象を数学的に取り扱えるようになる。		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	多職種協働と地域社会活動の促進		
関連科目	物理学		
成績評価方法・基準	定期試験 (70%)，講義内レポート (30%)		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義資料をもとに授業該当箇所の予習と復習を行う。(30 時間分相当) 高校で物理を履修した学生で教科書や参考書を所有している場合は予復習に役立てて欲しい。		
教科書	使用しない (自作資料を使用)。		
参考書	特にないが高校物理の教科書や参考書を持っている場合は活用して欲しい。		
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照		
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照		
履修条件・履修上の注意	特になし		
アクティブ・ラーニングの実施	実施なし		
ナンバリング	SBd-108		

講義科目名称： 物理学

授業コード： 2S026

英文科目名称： Physics

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
丸山 星			

授業形態	講義 (8回)	担当者
授業計画	<p>第1回 力のつり合いと運動の法則 力のモーメント、剛体の回転運動とつり合いについて学ぶ。</p> <p>第2回 力学的エネルギーと運動量 力学的エネルギー・運動量とその保存、衝突する物体の運動について学ぶ。</p> <p>第3回 円運動と単振動 円運動する物体にはたらく力について学ぶ。</p> <p>第4回 熱力学 温度による状態変化と気体分子の運動について学ぶ。</p> <p>第5回 波の運動 波の性質や音のドップラー効果について学ぶ。</p> <p>第6回 電磁気 (電気と力) 電界と電位、コンデンサのはたらきについて学ぶ。</p> <p>第7回 電磁気 (電流と磁界) 電流と磁界の関係、電磁誘導について学ぶ。</p> <p>第8回 原子の構造と放射線 原子核の崩壊と放射線の種類について学ぶ。</p>	丸山 星 丸山 星 丸山 星 丸山 星 丸山 星 丸山 星 丸山 星 丸山 星
科目の目的	医療従事者にとって必要な物理学を学習する。 高等学校で物理基礎を履修していない学生が、物理学全体の基礎的な理解を深めることを目的とする。この科目の学習を通して、科学的・論理的な考え方を養い、物理現象を定性的・定量的に取り扱えるようにする。	
到達目標	物理学の考え方が身につき、重要な概念を理解している。 物理学に関する問題を解決でき、物理現象を定量的・定性的に取り扱うことができる。	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	多職種協働と地域社会活動の促進	
関連科目	基礎物理学	
成績評価方法・基準	講義での演習 (50%)、定期試験 (50% : 手書きのノートの持ち込み可)	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義資料や確認問題をもとに事前学習 (60分) ・事後学習 (60分) を行うこと。	
教科書	指定しない	
参考書	まるわかり! 基礎物理 改訂3版、鷹野誠 監修、南山堂、2025	
オフィス・アワー	メールにて随時対応します (maruyama@gchs.ac.jp)	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意	基礎物理学と併せて履修することをお勧めします。	
アクティブ・ラーニングの実施	問題解決学修、リアルタイムアンケートとフィードバック	
ナンバリング	SBd-109	

講義科目名称： 基礎栄養学

授業コード： 2S027

英文科目名称： Basic Nutritional Science

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
本田 佳子			

授業形態	講義8回（演習時間を設ける講義回がある）		担当者
授業計画	第1回	栄養の概念、食物の摂取 栄養とは、空腹感と食欲、食事のリズムとタイミング	本田 佳子
	第2回	食物から食糧、栄養素成分から栄養 食糧の含有する栄養素成分、食事摂取基準と食物摂取	本田 佳子
	第3回	消化と吸収の概要とたんぱく質・糖質・脂質の消化吸収 3つの消化、吸収とは、管腔内消化と膜消化、消化管ホルモン、たんぱく質・糖質・脂質の消化吸収（消化酵素とその活性化、はたらき）の過程	本田 佳子
	第4回	糖質の栄養－食後及び空腹時の糖質代謝－ 血糖値とは、糖質の体内分布、食後及び空腹時の糖質代謝、他の栄養素との関係	本田 佳子
	第5回	脂質の栄養－脂質の体内動態－ 脂質の種類及び生理作用、脂質の臓器間輸送	本田 佳子
	第6回	たんぱく質の栄養－体内代謝－ たんぱく質の代謝回転、アミノ酸プール、窒素出納、たんぱく質の栄養価、制限アミノ酸、他の栄養素との関係 たんぱく質の代謝回転、アミノ酸プール、窒素出納、たんぱく質の栄養価、制限アミノ酸	本田 佳子
	第7回	ビタミン・ミネラル（無機質）の栄養、水・電解質の栄養的意義、エネルギー代謝 脂溶性/水溶性ビタミンの構造、代謝と栄養学的機能、生物学的利用度、補酵素としての機能、生物学的利用度、ミネラルの分類と栄養学的機能・生体機能、水の体内分布、水分出納、電解質の代謝、エネルギーとは	本田 佳子
	第8回	試験および解説 試験問題の解説をレフィードバックを実施する	本田 佳子
科目の目的	栄養の基本的概念及びその意義から生命の維持活動について学び、ヒトが生きるうえで必要となる栄養素の消化・吸収・代謝の一連の過程を理解する。この授業は、原則として健康な成人を対象とした栄養学を学ぶが、このことは、将来的に臨床栄養学、医療栄養学、各専門とするケア・キューアを理解する上で必要となる。		
到達目標	1)食物の摂取と栄養素の消化吸収の過程について説明できる。 2)ヒトが生きるうえで必要となる栄養素の生体内における役割について説明できる。 3)健康の保持・増進のために、摂取すべき栄養素の質と量について説明できる。		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	多職種協働と地域社会活動の促進		
関連科目	生化学、生理学、公衆衛生学、臨床栄養学、リハビリテーション医学、基礎運動療法学		
成績評価方法・基準	演習での成果物40%、筆記試験60%		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	化学、生理学で学んだ代謝に関連した項目およびキーワードを復習 講義回につき2時間の予習・復習		
教科書	教科書「八訂食品成分表2026」（女子栄養大学出版社）		
参考書	本田佳子・曾根博仁編：栄養科学イラストレイテッド臨床栄養学 基礎編 羊土社、本田佳子編：Visual栄養学テキスト 臨床栄養学Ⅰ 総論 中山書店、本田佳子編：新臨床栄養学 栄養ケアマネジメント 医歯薬出版		
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照		
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照		
履修条件・履修上の注意	Active Academy Advanceにより資料を事前配布する 配布時期：前回授業翌日から当該日まで・持参方法：各自印刷あるいはPCにダウンロードして授業に持参すること		
アクティブ・ラーニングの実施	問題解決学習、ディスカッションの実施		
ナンバリング	SBd-110		

講義科目名称： 基礎統計学

授業コード： 2S028

英文科目名称： Basic Statistics

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
富田 浩			

授業形態	講義 (8回)		担当者
授業計画	第1回	オリエンテーションおよび度数分布表とヒストグラムのつくり方 授業方法・学生評価方法等の説明, 度数分布表およびヒストグラムについて学ぶ	富田 浩
	第2回	データの中心をはかる指標 各指標の求め方, 長所・短所などについて学ぶ	富田 浩
	第3回	データの散らばりをはかる指標 各指標の求め方, 長所・短所などについて学ぶ	富田 浩
	第4回	順列と組み合わせ 順列および組合せの考え方, 算出方法について学ぶ	富田 浩
	第5回	確率 確率の求め方と確率の基本定理について学ぶ	富田 浩
	第6回	確率変数と確率分布 主に, 二項分布, 正規分布について学ぶ	富田 浩
	第7回	母平均の区間推定 標本の情報から母集団の平均を推定する方法について学ぶ	富田 浩
	第8回	母比率の区間推定 標本の情報から母集団の比率を推定する方法について学ぶ	富田 浩
科目の目的	データを見る, 処理する時に必要となる統計的な見方・考え方を学び, 将来, 仕事などで統計を用いる際の土台をつくる.		
到達目標	基本統計量のもつ意味が説明できる 主な確率分布の概要について説明できる 母平均・母比率の区間推定ができる		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	多職種協働と地域社会活動の促進		
関連科目	基礎数学, AI・データサイエンス・リテラシー		
成績評価方法・基準	筆記試験 (100%) 試験結果発表後, 答案 (試験結果) を閲覧可能とする.		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習: 教科書 (各回授業該当部分) を確認する (60分程度) 復習: 授業内容と教科書の再確認, 練習問題を解く (120分程度)		
教科書	「初歩からの統計学 第2版」白砂堤津耶 (日本評論社)		
参考書	「Excelによるメディカル/コ・メディカル統計入門」勝野恵子・井川俊彦 (共立出版)		
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照		
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照		
履修条件・履修上の注意			
アクティブ・ラーニングの実施	例題・練習問題の実施		
ナンバリング	SBd-111		

講義科目名称： 英語リーディング

授業コード： 2S029

英文科目名称： General English Reading

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
井上 まゆみ			

授業形態	講義 (15回)	担当者
授業計画	第1回 Introduction Lesson 1 Communication 授業の説明 自己紹介 現在形 第2回 Lesson 2 Friendship 過去形 第3回 Lesson 3 Health and Environment 現在完了形 第4回 Lesson 4 Gender Equality 未来表現 第5回 Lesson 5 Fashion 助動詞① 第6回 Lesson 6 Food 助動詞② 第7回 Lesson 7 The History of YouTube 比較をする表現① 第8回 Lesson 8 Study Abroad 比較をする表現② 第9回 Lesson 9 College Life in the U. S. 受け身、使役 第10回 Lesson 10 Olafur Eliasson 関係詞① 第11回 Lesson 11 Volunteer Work 関係詞② 第12回 Lesson 12 Career 形容詞用法 第13回 Lesson 13 Travel 仮定法 第14回 Lesson 14 Culture 話法 第15回 Lesson 15 An International World ディスコース標識	井上 まゆみ 井上 まゆみ 井上 まゆみ 井上 まゆみ 井上 まゆみ 井上 まゆみ 井上 まゆみ 井上 まゆみ 井上 まゆみ 井上 まゆみ 井上 まゆみ 井上 まゆみ 井上 まゆみ 井上 まゆみ 井上 まゆみ
科目の目的	専門分野の英語に取り組むための基礎力、特にリーディング力、リスニング力を養成する。英語を学ぶことを通じて、将来の医療人として人間や社会に対する興味・関心の幅を広げ、関心・興味を持った事柄に関して調べ、自分の考え・意見を持ち、それらを表現する。	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストや各自の力と興味に合わせた本を読むことを通じて、多くの英文に接し、構文を正しく理解し、英文の内容を理解することができる。</li> <li>・テキストのトピックについて調べ、自分の考え・意見を持ち、グループやペアでの話し合いを通じて、他者の考え・意見も聞き、最終的に自分の考え・意見をまとめ、表現することができる。</li> <li>・テキスト教材の音声を聞いて、単語や文章を聴き取り、発音することができる。</li> <li>・extensive readingの目標は10,000words。易しい英文を楽しみながら読むことができ、口語表現、日常生活での英語表現が理解できる。</li> </ul>	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	多職種協働と地域社会活動の促進	
関連科目	医療英語会話、医療英語リーディング、英語会話、英語アカデミックリーディング・ライティング	
成績評価方法・基準	定期試験 (60%) 課題(30%) extensive reading(10%)	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習：次回に学習する範囲の英文を読んで、わからない単語は辞書で調べ、英文の大まかな内容をつかむ。どこがわからないのかを明確にする。exercise等もあらかじめやっておく。 復習：その日に学習したことを整理し、英文を理解する。課題を行う。予習復習合わせて約1時間。 extensive readingについては、目標達成に向けて、各自のペースで計画的に進める。	
教科書	教科書：Journeys: Communication for the Global Age 阿野幸一ほか4名 (朝日出版社)	
参考書	なし	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	

国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照
履修条件・履修上の注意	高校までの基本的英文法は理解しておいてください。
アクティブ・ラーニングの実施	実施なし
ナンバリング	SBe-101

講義科目名称： 医療英語リーディング

授業コード： 2S030

英文科目名称： Medical English Reading

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
井上 まゆみ			

授業形態	講義 (15回)	担当者
授業計画	第1回 Introduction Test Your Reading Skill 授業の説明、各自のreading skillのチェック、単語力のチェック。 第2回 Unit 1 How Food Passes Through Our Body topicの英文読解、内容の把握。 第3回 Unit 2 Coping with Cancer topicの英文読解、内容の把握。 第4回 Unit 3 Where Medicine Meets Religion topicの英文読解、内容の把握。 第5回 Unit 4 Before Calling It Malpractice topicの英文読解、内容の把握。 第6回 Unit 5 How Are Drugs Developed? topicの英文読解、内容の把握。 第7回 Unit 6 What Comes First when Helping Others topicの英文読解、内容の把握。 第8回 Unit 7 How to Identify Reliable Health Information topicの英文読解、内容の把握。 第9回 Unit 8 What Is "Upstream" Thinking? topicの英文読解、内容の把握。 第10回 Unit 9 Actions Speaks Louder than Words topicの英文読解、内容の把握。 第11回 Unit 10 Genetic Counseling as an Emerging Field topicの英文読解、内容の把握。 第12回 Unit 11 Can Medical Tourism Be a White Knight? topicの英文読解、内容の把握。 第13回 Unit 12 Hopes in Regenerative Medicine topicの英文読解、内容の把握。 第14回 Unit 13 Traditional Medicine in the Modern World topicの英文読解、内容の把握。 第15回 Unit 14 Japan's Healthcare System Is the Envy of the World Reading Skill のチェック topicの英文読解、内容の把握。各自のreading skillの再チェック。単語力の再 チェック。	井上 まゆみ 井上 まゆみ 井上 まゆみ 井上 まゆみ 井上 まゆみ 井上 まゆみ 井上 まゆみ 井上 まゆみ 井上 まゆみ 井上 まゆみ 井上 まゆみ 井上 まゆみ 井上 まゆみ 井上 まゆみ 井上 まゆみ
科目の目的	専門分野の英語に取り組むためのリーディング力、リスニング力、表現力の養成と強化。医療系の基本的英語語彙力と英語表現力の強化。	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療全般に関するトピックを読み、構文を正しくとらえ、内容を理解することができる。</li> <li>・トピックの内容をまとめ、関連する事柄について、自分の意見・考えを表現できる。</li> <li>・テキストの音声聞いて単語や文章を正しく聴き取ることができる。</li> <li>・医療の基本的英単語、英語表現を覚え、声に出して読んで書くことができる。</li> </ul>	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	多職種協働と地域社会活動の促進	
関連科目	英語リーディング 医療英語会話 英語会話 英語アカデミックリーディング・ライティング	
成績評価方法・基準	定期試験 (70%) 課題(30%)	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習：次回に学習する範囲の英文、英単語の音声を聴く。英文を読んで、わからない単語は辞書で調べ、英文の大まかな内容をつかむ。どこがわからないかを明確にする。 復習：その日に学習したことを整理し、英語構文を理解する。英単語、英語表現は覚え、正しく発音できるように音声教材をよく聴き、また、正しく書けるまで練習する。課題を行う。 予習復習合わせて約1時間。	
教科書	教科書：Medical World Walkabout 大野直子&ダシルヴァ石田牧子 (成美堂)	
参考書	なし	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	

履修条件・履修上の注意	高校までの基本的英文法は理解しておいてください。
アクティブ・ラーニングの実施	実施なし
ナンバリング	SBe-102

講義科目名称： 英語会話

授業コード： 2S031

英文科目名称： General English Conversation

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
David Andrews			

授業形態	講義 (15回)	担当者
授業計画	<p>第1回 Course introduction/Icebreaking Explanation of the syllabus and grading. Introduction of phrases that will commonly be used in the class.</p> <p>第2回 Unit 1: I'm sorry. What's your name again? Talking about yourself, your hobbies, and your interests.</p> <p>第3回 小テストU1 および Unit 2: Where would you like to visit? Talking about countries and places that interest you.</p> <p>第4回 小テストU2 および Unit 3: Let's talk about money Expressing money amounts, dealing with currency exchange, and using an ATM.</p> <p>第5回 小テストU3 および Unit 4: Let's go to Hawaii! (part 1) + 第1回目のプレゼンテーション準備 Making reservations and checking in to a hotel + プレゼンテーションの準備。</p> <p>第6回 第1回目のプレゼンテーション + Unit 4: Let's go to Hawaii! (part 2) 第1回目のプレゼンテーション + Making reservations and checking in to a hotel (continued)</p> <p>第7回 小テストU4 および Unit 5: Let's do this! Talking about resort activities and making plans.</p> <p>第8回 小テストU5 および Unit 6: How do I get to the Koi Pond? Asking and giving directions.</p> <p>第9回 小テストU6 および Unit 7: Where are you headed? Asking for a taxi and making small talk.</p> <p>第10回 小テストU7 および Unit 8: Let's take a tour! (part 1) + 第2回目のプレゼンテーション準備 Talking about various island tours and activities + プレゼンテーションの準備</p> <p>第11回 第2回目のプレゼンテーション + Unit 8: Let's take a tour! (part 2) 第2回目のプレゼンテーション + Talking about various island tours and activities (continued)</p> <p>第12回 小テストU8 および Unit 9: How much is this T-shirt? Going shopping and buying things.</p> <p>第13回 小テストU9 および Unit 10: Let's go out to eat! Ordering food at a restaurant.</p> <p>第14回 小テストU10 および Unit 11: Lost and Found + 第3回目のプレゼンテーション準備 Describing an item you have lost + プレゼンテーションの準備。</p> <p>第15回 第3回目のプレゼンテーション + Unit 12: How was your vacation? 第3回目のプレゼンテーション + Talking about your experiences</p>	<p>David Andrews</p> <p>David Andrews</p> <p>David Andrews</p> <p>David Andrews</p> <p>David Andrews</p> <p>David Andrews</p> <p>David Andrews</p> <p>David Andrews</p> <p>David Andrews</p> <p>David Andrews</p> <p>David Andrews</p> <p>David Andrews</p> <p>David Andrews</p> <p>David Andrews</p> <p>David Andrews</p> <p>David Andrews</p> <p>David Andrews</p>
科目の目的	本授業では、英語でコミュニケーションをとる際に役立つ用語や表現、異文化に対する寛容さを身に付け、様々な状況や場面で使えるように実用的なコミュニケーションスキルを学ぶ。【キーワード：【多職種協働と地域社会活動の促進】】	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のことや身の回りのことについて英語で伝えることができる。</li> <li>・様々な場面において実用的なコミュニケーションスキル(要求、指示など)を習得する。</li> <li>・英語圏の文化や風習を理解する。</li> </ul>	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	多職種協働と地域社会活動の促進	
関連科目	医療英語会話、英語リーディング、医療英語リーディング、英語アカデミックリーディング・ライティング	
成績評価方法・基準	授業中の課題 (5%)、小テスト (30%)、第1回目のプレゼンテーション (15%)、第2回目のプレゼンテーション (20%)、第3回目のプレゼンテーション (30%) 授業中に小テストの結果を毎回確認させ、プレゼンテーションへのフィードバックを口頭で行う。	
準備学習の内容・準備学習に必要な	復習：前回の授業で学んだことを定着させる。学習時間は1.5時間程度。また、プレゼンテーションの準備時間は合わせて6時間程度。	

学習時間の目安	
教科書	教科書：使用せず 適宜、教材用資料を配布
参考書	なし
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照
履修条件・履修上の注意	授業中のスマホ使用は原則禁止。予習は必ずすること。積極的に参加すること。定期試験無し。
アクティブ・ラーニングの実施	ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーション
ナンバリング	SBe-103

講義科目名称： 医療英語会話

授業コード： 2S032

英文科目名称： Medical English Conversation

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
Heather McCulloch			

授業形態	講義 (15回)	担当者
授業計画	第1回 Introduction/Icebreaking Introduction to the course, class format, expectations, syllabus, and grading scale, as well as personal introductions and commonly used phrases and questions for use in class.	Heather McCulloch
	第2回 Unit 1: Meeting patients	Heather McCulloch
	第3回 Quiz (short test) on Unit 1 + Unit 2: Taking a medical history	Heather McCulloch
	第4回 Quiz (short test) on Unit 2 + Unit 3: Assessing symptoms	Heather McCulloch
	第5回 Quiz (short test) on Unit 3 + Part I of Unit 4: Taking vital signs + Prepare for 1st Presentation	Heather McCulloch
	第6回 1st Presentation + Part II of Unit 4: Taking vital signs Presentations will consist of performing skits in pairs based on the model dialogs in Units 1-4.	Heather McCulloch
	第7回 Quiz (short test) on Unit 4 + Unit 5: Physical Examination Instructions	Heather McCulloch
	第8回 Quiz (short test) on Unit 5 + Unit 6: Tests and Procedures	Heather McCulloch
	第9回 Quiz (short test) on Unit 6 + Unit 7: Explaining Results	Heather McCulloch
	第10回 Quiz (short test) on Unit 7 + Part I of Unit 8: Medication and Treatment Instructions + Prepare for 2nd Presentation	Heather McCulloch
	第11回 2nd Presentation + Part II of Unit 8: Medication and Treatment Instructions Presentations will consist of performing skits in pairs based on the model dialogs in Units 5-8.	Heather McCulloch
	第12回 Quiz (short test) on Unit 8 + Unit 9: Patient Comfort and Care Communication	Heather McCulloch
	第13回 Quiz (short test) on Unit 9 + Unit 10: Emergencies and Urgent Communication	Heather McCulloch
	第14回 Quiz (short test) on Unit 10 + Unit 11: Follow-Up Appointments and Scheduling	Heather McCulloch
	第15回 Unit 12: Discharge and Home Care Instructions + Prepare for Final Presentation	Heather McCulloch
科目の目的	Medicine is undeniably a global field in which ideas are shared in the international language of English. This course will introduce students to helpful communication strategies and explore communicative skills in English that are of particular relevance to the field of medicine.	
到達目標	Students will be able to: 1) handle a wide variety of medical situations using English, 2) understand and actively use accepted terminology and phraseology to explain and discuss major medical topics, and 3) build a foundation in medical English upon which to further their studies toward becoming professionals in their chosen field of medicine.	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	多職種協働と地域社会活動の促進	
関連科目	Related to all English courses	
成績評価方法・基準	1. In-class quizzes (short tests) (30%: 3% x 10 quizzes) These will cover material from the text and will be graded in class. 2. Two midterm presentations (done in pairs but graded individually) (40%: 1st=20%; 2nd=20%) Students will prepare and give presentations in pairs on relevant topics. 3. Final presentation (done in pairs but graded individually) (20%) Final presentation will consist of performing skits in pairs based on the model dialogs in Units 1-12.	

	4. In-class assignments (10%)
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	Each week we will practice and review a chapter from the text. Please read the dialogs, understand key vocabulary, and be prepared to speak in class. Listening practice is also important. Please use the online resources to practice listening. Each chapter will require about 30-60 minutes on your own to review and study. In addition, you will need about 6 hours during the semester to prepare for presentations.
教科書	Handouts will be given in class.
参考書	なし
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照
履修条件・履修上の注意	Be prepared to speak in class individually, in pairs, and in small groups. Review the vocabulary and grammar from the text in order to use it in class. This syllabus is subject to change.
アクティブ・ラーニングの実施	pair work , group work , presentation
ナンバリング	SBe-201

講義科目名称： 英語アカデミックリーディング・ライティング 授業コード： 2S033

英文科目名称： Academic Reading and Writing in English

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3・4学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
David Andrews			

授業形態		担当者
授業計画	※今年度開講せず（2025年度カリキュラム）	
科目の目的		
到達目標		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	多職種協働と地域社会活動の促進	
関連科目		
成績評価方法・基準		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安		
教科書		
参考書		
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施		
ナンバリング	SBe-301	

講義科目名称： 国際コミュニケーション英語

授業コード： 2S034

英文科目名称： English for International Communication

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3・4学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
徳永 慎也			

授業形態		担当者
授業計画	※今年度開講せず（2025年度カリキュラム）	
科目の目的		
到達目標		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	多職種協働と地域社会活動の促進	
関連科目		
成績評価方法・基準		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安		
教科書		
参考書		
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施		
ナンバリング	SBe-302	

講義科目名称： 中国語

授業コード： 2S035

英文科目名称： Chinese

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
桑名 潔江			

授業形態	講義(15回)	担当者
授業計画	第1回 ガイダンス、中国語とは？ 発音、漢字、声調	桑名 潔江
	第2回 中国語の発音のきまり 単母音、複合母音、声調	桑名 潔江
	第3回 子音の発音と音節 母音、子音、音節表の読み方	桑名 潔江
	第4回 発音のまとめ 自分の名前を中国語で読む練習	桑名 潔江
	第5回 第1課の学習 第1課 自己紹介 単語 本文 ポイント 練習	桑名 潔江
	第6回 第1課の復習と第2課の学習 第2課 教室で 単語 本文 ポイント 練習	桑名 潔江
	第7回 第2課の復習と第3課の学習 第3課 キャンパスで 単語 本文 ポイント 練習	桑名 潔江
	第8回 発音の総合復習と第1課から第3課までの復習 中間レポート提出	桑名 潔江
	第9回 第3課の復習と第4課の学習 第4課 友達と 単語 本文 ポイント 練習	桑名 潔江
	第10回 第4課の復習と第5課の学習 第5課 ファストフード店で 単語 本文 ポイント 練習	桑名 潔江
	第11回 第5課の復習と第6課の学習 第6課 待ち合わせ 単語 本文 ポイント 練習	桑名 潔江
	第12回 第6課の復習と第7課の学習 第7課 旅行 単語 本文 ポイント 練習	桑名 潔江
	第13回 第7課の復習と第8課の学習 第8課 アルバイト 単語 本文 ポイント 練習	桑名 潔江
	第14回 第8課の復習と第9課の学習 第9課 風邪 単語 本文 ポイント 練習 文法 単語 本文 置換練習	桑名 潔江
	第15回 第1課から第9課までの復習 総合復習	桑名 潔江
科目の目的	現代のグローバル化の社会の中で、一国際人として、多言語ができる人材を育成する。	
到達目標	日常生活及び仕事の中で、簡単な会話ができること。	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	多職種協働と地域社会活動の促進	
関連科目	特になし	
成績評価方法・基準	期末に筆記試験を行う。基準は筆記試験が80%、授業内にレポート及び感想文の提出が20%。提出されたレポートについては次回授業内でフィードバックを行う。	

準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業前の予習と授業後の復習をすること。1コマあたり60分程度必要である。発音の練習は必ずしっかりする事、特に四声については、音声ファイルを聞きながら発声して覚えるように。
教科書	教科書：キャンパスで始める中国語（白帝社）
参考書	参考書：なし
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照
履修条件・履修上の注意	教科書の購入が必要である
アクティブ・ラーニングの実施	実施なし
ナンバリング	SBf-101

講義科目名称： コリア語

授業コード： 2S036

英文科目名称： Korean

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
青木 順			

授業形態	講義 (15回)	担当者
授業計画	第1回 ハングルの読み方 基本母音 朝鮮半島、ソウル市などを簡単に紹介し、ハングルの由来、構造を簡単に説明。 基本母音10個の読み方、基本母音を含んだ単語、挨拶言葉等を学習する。	青木 順
	第2回 ハングルの読み方 基本子音 基本子音4個の読み方、その基本子音を含んだ単語、挨拶言葉を学習する。 文化として伝統料理を紹介する。	青木 順
	第3回 ハングルの読み方 基本子音 基本子音4個の読み方、その基本子音を含んだ単語、挨拶言葉を学習する。 文化として「混ぜる食文化」を紹介する。	青木 順
	第4回 ハングルの読み方 激音 (濃音と比較しながら) 濃音と比較しながら激音5個の読み方、激音を含んだ単語、挨拶言葉を学習する。 文化として伝統茶、伝統服を紹介する。	青木 順
	第5回 ハングルの読み方 濃音 (激音と比較しながら) 激音と比較しながら濃音5個の読み方、濃音を含んだ単語、挨拶言葉を学習する。 文化として韓国の包む文化～「サム料理」を紹介する。	青木 順
	第6回 ハングルの読み方 合成母音 合成母音11個の読み方、合成母音を含んだ単語、挨拶言葉を学習する。	青木 順
	第7回 ハングルの読み方 パッチム パッチムの読み方、パッチムを含んだ単語、挨拶言葉を学習する。 文化として食事のマナー、1歳の誕生日を紹介する。	青木 順
	第8回 「私は青木順です」① サンパッチム、連音の説明、練習を行う。	青木 順
	第9回 「私は青木順です」② 「は」「です」「～と申します」という文法の学習、関連会話文の読み、訳を行う。 文化として伝統家屋、伝統舞踊を紹介する。	青木 順
	第10回 「私は青木順です」のまとめと「何人家族ですか？」① 初対面でのハングル会話を行う。 関連単語、「ます」「ますか」等の文法の学習と練習を行う。 文化として伝統的結婚式、楽器等を紹介する。	青木 順
	第11回 「何人家族ですか」② 「お～になります」「が」「と」などの文法の学習と練習を行う。	青木 順
	第12回 「何人家族ですか」③ 固有数字、関連会話文の読み、訳、会話練習等を行う。 文化として伝統遊びを紹介する。	青木 順
	第13回 「すみません」① 関連単語、「～してください」、意志を含んだ「ます」等の文法の学習と練習を行う。	青木 順
	第14回 「すみません」② 「いる (いない)」「ある (ない)」の説明と練習。 固有数字を使う助数詞、関連会話文の読み、訳を行う。 文化として伝統刺繍を紹介する。	青木 順
	第15回 「すみません」③とまとめ 二人一組で会話練習、文法のまとめ、試験問題の説明を行う。	青木 順
科目の目的	グローバルな視点を養い、限定的な場面でのコミュニケーション能力を身に付けることができる。	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハングル文字を正確に読み書きできるようになる。</li> <li>・正確な発音をマスターする。</li> <li>・挨拶をはじめ、簡単な日常会話を身につける。</li> </ul>	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	多職種協働と地域社会活動の促進	

ド	
関連科目	特になし
成績評価方法・基準	課題への取り組み (40%) ・ 期末テスト (60%)
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業で学習した内容はその都度復習しておくこと。 外国語の学習は反復・継続することが何より大切なので、1コマ当たり1時間を目安に積極的に取り組むこと。
教科書	講師作成教材使用予定(コピー)
参考書	特になし
オフィス・アワー	講義前後：非常勤講師室
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照
履修条件・履修上の注意	講師作成の教材を使用する。 配布期間：前回の授業翌日から当該日まで。 持参方法：各自印刷して授業に持参すること（課題も含まれているため、印刷必須）。
アクティブ・ラーニングの実施	二人一組で、与えられた課題に取り組む方法をとる。
ナンバリング	SBf-102

講義科目名称： ドイツ語

授業コード： 2S037

英文科目名称： German

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
伊藤 貴康			

授業形態	講義 (15回)	担当者
授業計画	<p>第1回 ガイダンス・ドイツ語のアルファベットと発音</p> <p>第2回 動詞の現在人称変化1</p> <p>第3回 動詞の現在人称変化2・並列の接続詞</p> <p>第4回 定冠詞・不定冠詞・否定冠詞の変化</p> <p>第5回 名詞の複数形・人称代名詞</p> <p>第6回 不定冠詞類・定冠詞類</p> <p>第7回 動詞の現在人称変化3・命令形</p> <p>第8回 話法の助動詞・未来形</p> <p>第9回 前置詞・再帰代名詞・再帰動詞</p> <p>第10回 分離動詞・非分離動詞・zu不定詞・従属の接続詞</p> <p>第11回 動詞の3基本形1・過去形・現在完了形</p> <p>第12回 3基本形2・受動態</p> <p>第13回 形容詞の変化・比較・関係代名詞</p> <p>第14回 文法のまとめ・簡単なドイツ語のリーディング・リスニング</p> <p>第15回 簡単なドイツ語のリーディング・リスニング</p>	<p>伊藤 貴康</p> <p>伊藤 貴康</p> <p>伊藤 貴康</p> <p>伊藤 貴康</p> <p>伊藤 貴康</p> <p>伊藤 貴康</p> <p>伊藤 貴康</p> <p>伊藤 貴康</p> <p>伊藤 貴康</p> <p>伊藤 貴康</p> <p>伊藤 貴康</p> <p>伊藤 貴康</p> <p>伊藤 貴康</p> <p>伊藤 貴康</p>
科目の目的	ドイツ語の基礎文法を学習するとともに、簡単な挨拶などの表現やドイツ語圏の文化を学ぶ。	
到達目標	自力で辞書と教科書を用いてドイツ語の文章が理解できるようになるとともに、ドイツ語を母語とする人と簡単な日常会話によるコミュニケーションができるようにする。	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	多職種協働と地域社会活動の促進	
関連科目	健康スポーツ実技 文学 英語リーディング 医療英語会話 中国語 コリア語 ポルトガル語 メディア・リテラシー	
成績評価方法・基準	期末試験100%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	毎回学習する文法事項が次回以降の基礎となるため、1コマ当たり1時間程度の準備学習を要する。	
教科書	Genau! Gramatik neu (郁文堂、ISBN978-4-261-01276-7)	
参考書	1種類に指定しないが、アクセス独和辞典(三修社)、クラウン独和辞典(三省堂)など何らかの独和辞典を用意することが望ましい。	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施	実施なし	

ナンバリング

SBf-103

講義科目名称：ポルトガル語

授業コード：2S038

英文科目名称：Portuguese

対象カリキュラム：2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
Hilda Harumi Handa			

授業形態	講義 (15回)	担当者
授業計画	第1回 Introduction / Apresentacao Explaining how the class will be given, and grades / Explicar como serao as aulas e as notas. Introduction / Apresentacao Explaining how the class will be given, and grades / Explicar como serao as aulas e as notas.	Hilda Harumi Handa
	第2回 Brazil and the other nine countries that speak Portuguese / Brasil e os outros nove paises que falam português. A brief lecture about Brazil and nine other countries whose official language is Portuguese	Hilda Harumi Handa
	第3回 Greetings and Pronouns Greetings / Cumprimentos/Apresentacao Possessive adjectives/pronouns / Pronomes possessivos Saying hello and goodbye / Encontrar-se/despedir-se	Hilda Harumi Handa
	第4回 Alphabet and pronunciation / Alfabeto e pronuncia Syllables / Formacao das silabas Introduction to Portuguese Alphabet	Hilda Harumi Handa
	第5回 Stress / Acentuacao Stress rules Oxitonas/paroxitonas/proparoxitonas Rules for stressing.	Hilda Harumi Handa
	第6回 Nouns / Substantivos Adjectives / Adjetivos We'll talk about kinds of nouns and adjectives.	Hilda Harumi Handa
	第7回 Articles / Artigos definidos/indefinidos Prepositions / Preposicoes Verbs / Verbos Adverbs / Adverbios Nouns / Substantivos Adjectives / Adjetivos Learning about articles, prepositions, verbs, and adverbs.	Hilda Harumi Handa
	第8回 Conjunctions / Conjuncoes Time / Horas Seasons/Weather / Estacoes/climas Class about conjunctions, and how to talk about time and the weather.	Hilda Harumi Handa
	第9回 Cardinal/ordinal numbers / Numeros Cardinais/ordinais Phone / Telefone Email All about numbers.	Hilda Harumi Handa
	第10回 Subject pronoun / Pronomes Pessoais Verb Be I / Verbos ser e estar I More pronouns and the verb Be, that means more than one verb in Portuguese.	Hilda Harumi Handa
	第11回 Verb Be II / Verbos Ser e estar II Continuing with the verb Be.	Hilda Harumi Handa
	第12回 Family / Familia Week/month/year / Semana/meses/ano Colors / Cores Light class about family, dates, and colors.	Hilda Harumi Handa
	第13回 Human Body / Corpo Humano Clothing / Roupas Special class about the human body.	Hilda Harumi Handa
	第14回 Food & Culture / Gastronomia e cultura Let's learn about Brazilian food, and maybe taste some of it.	Hilda Harumi Handa

	第15回 Exam Let's see how much you learned from the previous classes.	Hilda Harumi Handa
科目の目的	<p>ポルトガル語は主にブラジルで話される言語で、1万人以上のブラジル系住民が生活する群馬県内でも接する機会の多い言語です。群馬県内(特に東毛地区)において地域に関わる仕事(例えば、公務員や教員、医療関係など)を希望している学生にはポルトガル語の習得をお薦めします。</p> <p>また、ポルトガル語はブラジル以外の国々でも公用語とされているところがあり、国際的に活動したいという際にも役立てることができます。</p> <p>ポルトガル語は英語に近い構造のヨーロッパ言語で、英文法や語彙の知識が応用できる項目もあり、一方で英語の理解にも役立ちます。</p> <p>本授業の目標はポルトガル語の入門にとどまりますが、初級、中級へと学習を進めるためのきっかけとなると同時に、「英語以外のヨーロッパ言語」に関心を持っていただくこと、加えて可能な限り、ブラジルを中心としたポルトガル語圏の文化についても授業内で紹介し、ポルトガル語に関わる事柄の知見を広めることも目指します。</p>	
到達目標	<p>本授業では欧州言語共通参照枠(CEFR)のA1レベルを習熟目標とし、ポルトガル語の基本中の基本となる以下の基礎文法と基礎的なコミュニケーション表現を習得することを目指します。</p> <p>(1)ポルトガル語を読める (2)名詞や形容詞の性数の考え方が理解できる (3)挨拶など基礎的な表現ができる (4)基礎的な語彙を使うことができる (5)動詞の活用ができる</p> <p>これらに加え、とりわけブラジル人との日常的なコミュニケーションに関わる文化の知識(食文化、交通など)を身につけることも目標とします。</p>	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	多職種協働と地域社会活動の促進	
関連科目	特になし	
成績評価方法・基準	50% from final exam, and 40% participation (not attendance) in class, 10% assignments.	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	No special knowledge is required for it's a class for beginners. However, students should prepare by reviewing the handouts from the previous class and reading the newspapers or magazines mentioned in class. Students are advised to study about 2-3 hours per week in preparation for each 90-minute lesson.	
教科書	Teacher will provide handouts.	
参考書	Students will be encouraged to read some books, newspapers or magazines, that will be mentioned during class.	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意	<p>5回以上の欠席がある場合は期末試験を受けられません。 また、特別な事情がない場合の30分以上の遅刻は欠席と見なします。 就職活動や特別な事情による欠席は考慮いたします。</p> <p>大学生として相応な英語力と意欲、情熱があることが望ましいです。</p>	
アクティブ・ラーニングの実施	discussion , conversation and pair work	
ナンバリング	SBf-104	

講義科目名称： メディア・リテラシー

授業コード： 2S039

英文科目名称： Media Literacy

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
星野 修平			

授業形態	演習 (15回)	担当者
授業計画	第1回 本講義の概要と授業準備 本講義の概要とパーソナルコンピュータの利用について	星野 修平
	第2回 コンピュータの基礎 ハードウェアとソフトウェア ソフトウェア 情報システム	星野 修平
	第3回 情報の形態と収集の方法 情報の形態 情報蓄積の形態 クラウド環境の情報 検索エンジン 情報収集の技術 情報収集の応用	星野 修平
	第4回 インターネットの仕組みとWebシステム インターネットの概要 通信機能の階層化 IPアドレスの仕組み パケット通信の仕組み 通信の経路を選ぶ仕組み データを確実に送り届ける仕組みと素早く送り届ける仕組み アプリケーション層のプロトコル 直接接続する機器の通信 Webアプリケーションの仕組み クラウドコンピューティング	星野 修平
	第5回 情報の伝達 ソーシャルネットワーキングサービス ブログ 電子掲示板 電子メール ソーシャルメディア 電子書籍	星野 修平
	第6回 レポートの作成と編集 レポートとは 主題を決める 構造化を考える 内容を作り込む 数式表記 創造的レポートに向けて	星野 修平
	第7回 レポートの作成演習 レポート作成の演習 ワープロによる文章作成	星野 修平
	第8回 情報のデータ化と分析・マイニング 情報とデータ データの整理 データの可視化 データマイニング テキストマイニング	星野 修平
	第9回 情報のデータ化と分析・マイニング演習 情報のデータ化と分析の演習 スプレッドシートによる分析	星野 修平
	第10回 モデリングとシミュレーション モデルとデータ 確率的現象 傾向と予測 未来を予測する	星野 修平

	第11回	モデリングとシミュレーション演習 モデリングとシミュレーションの演習 スプレッドシートによる予測	星野 修平
	第12回	プレゼンテーションの方法 シナリオシートの作成と基本的な操作 プレゼンテーションの実際 技術の進歩とプレゼンテーションの変化	星野 修平
	第13回	プレゼンテーション演習 プレゼンテーションの演習 プレゼンテーションの作成	星野 修平
	第14回	セキュリティと法令順守 情報セキュリティ 情報漏えい対策法 インターネット社会の特性 情報社会の法令 デジタルコミュニケーション	星野 修平
	第15回	ICT活用の問題解決 問題解決の基本的手順とICTの役割 情報を客観的にとらえる インターネットを利用した情報発信 問題解決におけるシミュレーションの利用	星野 修平
科目の目的	現代社会には情報があふれており、私たちは様々なメディアから情報を取得し活用する。情報活用や情報操作を行うスキルを身につけるため、コンピュータやコンピュータネットワークの基本的概念と構成、仕組みを理解し、情報社会における情報の意味を理解することが求められる。本科目では大学での学び（学習と研究や臨床実践）をより充実させるため、パーソナルコンピュータやマルチメディアの基本的な操作を学ぶ。具体的には、Wordを使用した文書作成・編集の基本技術、Excelの基本、計算機能、ビジュアルな文書作成、インターネットの活用、ワークシートの活用などについて学び、合計、平均の計算、関数の活用、最大・最小、グラフ作成、データベースの基本事項、データのソート、検索、集計、Power Point、プレゼンテーションなどについての演習を行う。		
到達目標	情報社会におけるコンピュータやインターネットの仕組み理解し、情報の活用、意味、伝達の意義について学習する。 個別目標： 1. 情報の基本的概念について説明できる。 2. コンピュータとコンピュータネットワークの仕組みについて説明できる。 3. ワードプロセッサ、スプレッドシート、プレゼンテーション・アプリケーションを用いて情報表現、情報操作が行える。		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	探求力と問題解決力		
関連科目	AI・データサイエンス・リテラシー、AI・ロボットと社会		
成績評価方法・基準	授業内で実施する演習課題（50％）・ミニテスト（50％） *各回の授業では、授業の最後に提出課題があります。提出された課題についてのコメント等は、次の授業でまとめて行います。 *この授業のミニテストの実施と結果については、講義の中で解説します。		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業（90分）、事前自己学習（60分）、関連項目の事後学習（60分）		
教科書	標準教科書 改訂新版 よくわかる情報リテラシー 岡本敏雄 監修 技術評論社 2022		
参考書	入門情報処理 ―データサイエンス、AIを学ぶための基礎― 寺沢 幹雄・福田 収 著 オーム社 2022		
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照		
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照		
履修条件・履修上の注意	MS-Office (MS-Word, MS-Excel, MS-PowerPoint)、ウェブブラウザをインストールしたPC (WindowsPC、Mac等) を持参してください。		
アクティブ・ラーニングの実施	課題作成に際して調査学習を取り入れた演習を行う。		
ナンバリング	SBg-101		

講義科目名称： AI・データサイエンス・リテラシー

授業コード： 2S040

英文科目名称： AI and Data Science Literacy

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
河内 和直			

授業形態	講義と演習 (15回)	担当者
授業計画	<p>第1回 社会におけるデータ・AI活用① 本科目の概要/データサイエンスとは/社会で起きている変化/社会で活用されているデータ/パソコン</p> <p>第2回 社会におけるデータ・AI活用② データ・AIの活用領域/データ・AI利活用の技術, 現場, 最新動向</p> <p>第3回 Excelの基本的な操作方法 Excelの概要/基本的な表・グラフの作成</p> <p>第4回 時系列データの可視化 データのダウンロード/時系列データのグラフ作成と編集</p> <p>第5回 平均値の算出とその可視化 平均の算出/平均の可視化/グラフの比較</p> <p>第6回 標準偏差の算出とその可視化 標準偏差の算出/標準偏差の可視化/グラフの比較</p> <p>第7回 大量のデータを扱う方法 平均と標準偏差/平均±標準偏差の算出/グラフの作成</p> <p>第8回 基本統計量の算出と箱ひげ図① データの要約/基本統計量</p> <p>第9回 基本統計量の算出と箱ひげ図② 五数要約/箱ひげ図</p> <p>第10回 度数分布表の作成とヒストグラム 度数分布表/ヒストグラム</p> <p>第11回 散布図の作成と相関係数の算出① データの相関/散布図</p> <p>第12回 散布図の作成と相関係数の算出② ピアソンの相関係数/相関行列</p> <p>第13回 定性データの扱い方とクロス集計 定性データ/クロス集計表/ピボットグラフ</p> <p>第14回 データ・AI活用における留意事項 倫理・法的・社会的課題/データ倫理/セキュリティ</p> <p>第15回 総括 AI・データサイエンス・リテラシーの総括</p>	河内 和直 河内 和直 河内 和直 河内 和直 河内 和直 河内 和直 河内 和直 河内 和直 河内 和直 河内 和直 河内 和直 河内 和直 河内 和直 河内 和直 河内 和直 河内 和直
科目の目的	現代社会においては、ICTの進歩に伴い、大容量データの収集、蓄積と解析によって、様々な情報・知識を得ることが可能となった。ビックデータやAI、機械学習などを経て、様々な問題解決を行うデータサイエンスの基礎を学び、そのために必要なコンピュータの利用、統計学の知識、データ処理の手法を理解する。	
到達目標	データサイエンスに関する基礎的概念について理解し、コンピュータによってデータ解析が実践できる。 個別目標： ・データサイエンスについて基礎的概念を説明できる。 ・データサイエンスに必要なコンピュータの基本的操作が行える。	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	探求力と問題解決力	
関連科目	基礎統計学, AI・ロボットと社会, AI・プログラミング入門	
成績評価方法・基準	授業中に提出する演習課題 (100%)	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前学習 (90分) で理解し、授業を通して学んだことの事後学習 (45分)	
教科書	改訂新版 AI・データサイエンス・リテラシー入門, 吉岡剛志, 森倉悠介, 小林 領, 照屋健作 共著 2024	
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データサイエンスの考え方, 小澤誠一, 齋藤政彦 編 オーム社</li> <li>・改訂新版 初めてのAIリテラシー, 岡嶋裕史, 吉田雅裕 著 技術評論社</li> </ul>	

オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照
履修条件・履修上の注意	MS-Excelをインストールしたパソコン(Windows, PCMac等)を持参してください.
アクティブ・ラーニングの実施	実施しない
ナンバリング	SBg-102

講義科目名称： AI・ロボットと社会

授業コード： 2S041

英文科目名称： AI, Robots, and Society

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
星野 修平			

授業形態	講義と演習（15回）	担当者
授業計画	<p>第1回 「AI・ロボットと社会」について 講義の目的を理解し、AI・ロボットが社会や医療に与える影響を考える</p> <p>第2回 人工知能(Artificial Intelligence: AI)の歴史と概要 AIの基本概念と歴史について学ぶ</p> <p>第3回 ロボットと社会 ロボットの定義と社会との関わりを理解する</p> <p>第4回 AIとロボットの歴史 ロボット研究とAIの関わりについて理解する</p> <p>第5回 AIの仕組み AIの仕組み、機械学習やニューラルネットワークの構造について学ぶ</p> <p>第6回 対話型ロボットとロボット社会 対話型ロボットと社会での役割を理解する</p> <p>第7回 アンドロイドとヒューマノイド アンドロイドやヒューマノイドの研究を通して人間について知る</p> <p>第8回 AI・ロボットの自律性 AI・ロボットと自律性について考える</p> <p>第9回 AI・ロボットの心・対話 AI・ロボットの心について考える</p> <p>第10回 AI・ロボットの身体 AI・ロボットの身体について考える</p> <p>第11回 人間と共生するAI・ロボット 人間と共生するAI・ロボットが構成する社会を考える</p> <p>第12回 AI・ロボットの意思決定アルゴリズム AI・ロボットの意思決定アルゴリズムについて知る</p> <p>第13回 アルゴリズムミック・バイアス 人間の認知バイアスとAIのアルゴリズムミック・バイアスについて知る</p> <p>第14回 医療・福祉・介護におけるAI・ロボットの活用 AI・ロボットの応用を社会適応を考える</p> <p>第15回 「AI・ロボットと社会」の未来 AI・ロボットが創造する近未来を考える</p>	星野 修平 星野 修平 星野 修平 星野 修平 星野 修平 星野 修平 星野 修平 星野 修平 星野 修平 星野 修平 星野 修平 星野 修平 星野 修平 星野 修平 星野 修平
科目の目的	人工知能(Artificial Intelligence: AI)は、現在自動運転技術やAIロボット、AIスピーカーなどで社会実装され、様々な分野で急速に発展・普及している。今後の日本における社会問題である人口減少、少子高齢化、人材不足などに対応するため、AIやAIロボットの需要はさらに高まると予想され、新たな産業構造変化でもAIの活用が期待される。この講義では、生活の中に組み込まれるAIに関する基本的知識を学び、AIロボットなどで利用されるAI技術と活用事例を通して、その意義について理解する。	
到達目標	・人工知能(Artificial Intelligence: AI)の基本的事項について説明できる。 ・AIロボットなどの社会実装に意義について説明できる。 ・AIと人間を対比させて、心と身体について理解する。	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	探求力と問題解決力	
関連科目	心理学入門、コミュニケーション学入門、メディア・リテラシー、AI・データサイエンス・リテラシー、AI・プログラミング入門、多職種理解と医療コミュニケーション	
成績評価方法・基準	授業内で実施する演習課題（50%）・課題レポート（50%） *各回の授業では、授業の最後に提出課題があります。提出された課題についてのコメント等は、次の授業でまとめて行います。 *この授業のレポート課題については、講義の中で解説します。また、提出されたレポート課題については、成績判定後に、その概要を全体総括として公表します。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	本科目は15コマ（30時間）の演習科目のため、30時間分の準備学習時間（1コマあたり2時間（実時間数90分））が必要であり、事前学習（30分）・事後学習（30分）が目安となる。	
教科書	使用しない	
参考書	・ロボットと人間 人とは何か 石黒 浩 岩波新書 ・AIシステムと人・社会との関係 山口高平・中谷多哉子 放送大学教材 ・データ分析に必須の知識・考え方 認知バイアス入門 山田典一 そシム	

オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照
履修条件・履修上の注意	授業中に演習では、PCを使用しオンライン教材を利用するため、PC（Windows またはOS X）を持参してください。
アクティブ・ラーニングの実施	本科目では、学生の主体的な学習方法であるアクティブ・ラーニングを活用したオンライン教材等を使用します。
ナンバリング	SBg-103

講義科目名称： AI・プログラミング入門

授業コード： 2S042

英文科目名称： Introduction to AI and Programming

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
星野 修平			

授業形態	演習 (15回)	担当者
授業計画	第1回 プログラミングの基礎 なぜプログラミングが注目されるのか？	星野 修平
	第2回 プログラミングとコンピュータの基礎  コンピュータの仕組みと構成	星野 修平
	第3回 プログラミングと世界 プログラミング言語とは	星野 修平
	第4回 プログラミングの世界 プログラミングを実行するための環境とGoogle Colaboratory	星野 修平
	第5回 Pythonの基礎① インタラクティブシェルとプロンプト	星野 修平
	第6回 Pythonの基礎② ファイルの作成と実行	星野 修平
	第7回 AIの基礎① AIの基本的概念	星野 修平
	第8回 AIの基礎② 機械学習	星野 修平
	第9回 Pythonの基礎③ 主要なシンタックス	星野 修平
	第10回 Pythonの基礎④ モジュールの使用	星野 修平
	第11回 AIのデータ データの可視化、基本的な値	星野 修平
	第12回 AIの仕組み① 予測・回帰	星野 修平
	第13回 AIの仕組み② 画像認識	星野 修平
	第14回 AIの仕組み③ 自然言語処理	星野 修平
	第15回 「AI・プログラミング」のまとめ この授業で学んだことの活用は？	星野 修平
科目の目的	近年、人工知能(Artificial Intelligence: AI)が、判別、分類など自律的に意思決定を行い様々な支援を行うことが可能となった。プログラミング技術が加わると、より高度な情報活用が可能となり、問題解決能力の向上やデータ分析スキルの向上、イノベーションの創出に繋がる。この講義では、AIの基本的な概念を概観し、AI活用のためのプログラミングの基本を学ぶ。プログラミング言語としては、Pythonを使用し、基本操作からデータ処理の応用を演習にて学ぶ。また、機械学習の基礎、自然言語処理、画像認識などを扱う。 なお、本講義では、コンピュータを用いたプログラミング環境として特別なPCを必要としない仮想化環境(Google Colaboratory)をWebアプリケーションで稼働させて、Pythonを用いた演習を試みる。	
到達目標	1 AIの基本的な概念を理解する 2 プログラミング言語(Python)の基本操作が行える 3 プログラミングによるデータ処理の応用を理解する	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	多職種協働と地域社会活動の促進	
関連科目	メディア・リテラシー、AI・データサイエンス・リテラシー、AI・ロボットと社会	
成績評価方法・基準	授業内で実施する演習課題(100%) *各回の授業では、授業の最後に提出課題があります。提出された課題についてのコメント等は、次の授業でまとめて行います。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	本科目は15コマ(30時間)の演習科目のため、30時間分の準備学習時間(1コマあたり2時間(実時間数90分))が必要であり、事前学習(45分)・事後学習(45分)が目安となる。	
教科書	使用しない	
参考書	1. やさしいAIプログラミング入門 日向 俊二 カットシステム (2024. 8. 10)	

	2. 考え方から学プログラミング講座 森畑 明昌 東京大学出版会 (2021. 10. 15) 3. Pythonによるプログラミング入門 森畑 明昌 東京大学出版会 (2019. 9. 10)
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照
履修条件・履修上の注意	授業では、Google Colaboratoryをするため、インターネットに接続可能なPC (Windows またはOS X) を持参してください。
アクティブ・ラーニングの実施	本科目では、学生の主体的な学習方法であるアクティブ・ラーニングを活用したオンライン教材等を使用します。
ナンバリング	SBg-201

講義科目名称： スタディ・スキルズ

授業コード： 2S043

英文科目名称： Study Skills

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
峯村 優一	星野 修平	徳永 慎也	衣川 隆
	岩城 翔平	伊藤 栞	

授業形態	講義 (8回)	担当者
授業計画	第1回 スタディ・スキル① ・大学生になるということ ・大学で学ぶ意義と授業の受け方 ・スタディスキルとは？	峯村 優一
	第2回 スタディ・スキル② ・履修計画を立てる ・ノートを取る ・講義に参加する	星野 修平
	第3回 ライフスキル① ・学生生活の過ごし方 ・学生生活で求められる道徳や倫理・マナー	峯村 優一
	第4回 コミュニケーションスキル① ・対人コミュニケーション ・オンラインコミュニケーション ・SNSの活用と課題	伊藤 栞
	第5回 ライフスキル② ・キャリアデザイン キャリアサポートセンター GS：茂木洋子	岩城 翔平
	第6回 ライフスキル③ 特別講義：樋口 建介 群馬パース大学理事長 ・私の教育の原点 ・美しく・健やかに・元気で・昇天する ・パースの夢	衣川 隆
	第7回 コミュニケーションスキル② ・言語コミュニケーション ・異文化コミュニケーション	徳永 慎一
	第8回 スタディ・スキル③ ・大学生に求められる教養とは ・生涯にわたって学び続けること	星野 修平
*	授業ごとの課題提出について 各回の授業では、授業の最後に提出課題があります。提出された課題についてのコメント等は、次回の授業でまとめて行います。	
**	授業ごとのフィードバック・シートの提出について 各回の授業では、授業後のフィードバック・シートの提出を求めます。	
***	レポート課題について この授業のレポート課題については、講義の中で解説します。また、提出されたレポート課題については、成績判定後に、その概要を全体総括として公表します。	
科目の目的	<p>社会人に出てから必要とされる教養は、幅広いジャンル、様々専門分野の多くの知識に触れることで多様な価値観や考え方を身につけ、学ぶ力（スタディ・スキル）を身につけることが重視される。大学4年間で社会が求める教養力を身につけるには「専門の知」から自身の成長とともに「深い問い」を自問し、自ら容易に答えの得られない「問い」を追い続けるための持続的な教養スキルが求められる。この授業では、大学生に求められる「スタディ・スキル」を獲得することを目的とする。</p> <p>スタディ・スキルを①ライフ・スキル、②コミュニケーション・スキル、③スタディ・スキルの3つのパートとして捉え、関係するトピックを交え、オムニバス形式で授業展開を行う。また、学修活動には「自己学習力シート」を利用し、ルーブリックを活用した主体的な学びを目指す。</p>	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会の中で生きる意義について自ら考えることができる</li> <li>2. 責任ある大人としての生活に必要な、基本的な生活習慣を身につけ、大学生生活で実践できる。</li> <li>3. 大学での学習に必要な学習習慣・学習技術を理解し、授業やレポート作成で実践できる。</li> </ol>	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	探求力と問題解決力	

関連科目	全ての授業科目
成績評価方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業中の課題への取り組み 30%</li> <li>・フィードバックシート、ワークシートなど学修内容の理解・修得度 40%</li> <li>・レポート・学修目標の達成度 30%</li> </ul>
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	本科目は7.5コマ（15時間）の演習科目のため、30時間分の準備学習時間（1コマあたり4時間（実時間数180分））が必要であり、事前学習（90分）・事後学習（90分）が目安となる。
教科書	使用しない
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生のための社会人入門 柴岡新一郎 監著 技術評論社</li> <li>・スタディスキルズ・トレーニング 改訂版 吉原恵子 他 実教出版</li> <li>・大学生のためのキャリアガイドブック Ver.2 寿山 泰二 他 北大路出版</li> </ul>
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照
履修条件・履修上の注意	授業中に演習では、PCを使用しオンライン教材を利用するため、PC（Windows またはOS X）を持参してください。
アクティブ・ラーニングの実施	本科目では、学生の主体的な学習方法であるアクティブ・ラーニングを活用したオンライン教材等を使用します。
ナンバリング	SCh-101

講義科目名称： アカデミック・スキルズ

授業コード： 2S044

英文科目名称： Academic Skills

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
峯村 優一	星野 修平	徳永 慎也	

授業形態	講義 (8回)	担当者
授業計画	第1回 リサーチ・リテラシー① ・リサーチスキルの意味 ・インターネットの利用とデータ収集 ・図書館を活用する (図書館 佐藤 駿介/細矢 芽)	星野 修平
	第2回 リサーチ・リテラシー② ・大学の理念、教育の理念 ・群馬パース大学の教育の理念を聞き、大学の学びを考える 特別講義：藤田 清貴 群馬パース大学学長	峯村 優一
	第3回 リサーチ・リテラシー③ ・データの見方、データの集計 ・論理的な表現 ・論証と検定	星野修平
	第4回 リサーチ・リテラシー④ ・学習に関する倫理 ・研究に関する倫理	峯村 優一
	第5回 アカデミック・リーディング① ・文書を読み、正確に理解する ・学術文書を読む際の心構えと注意点	峯村 優一
	第6回 アカデミック・リーディング② ・英語論文の読み方 ・レポート・論文に相応しい文章構造を考える	峯村 優一
	第7回 アカデミック・ライティング① ・レポートの書き方 ・レポートとは何か、レポート作成の手順、よいレポートとは	徳永 慎也
	第8回 アカデミック・ライティング② ・論文作法 ・講義レポートの形式 ・授業課題の提出	徳永 慎也
	*授業ごとの課題提出について 各回の授業では、授業の最後に提出課題があります。提出された課題についてのコメント等は、次回の授業でまとめて行います。  **授業ごとのフィードバック・シートの提出について 各回の授業では、授業後のフィードバック・シートの提出を求めます。 ***レポート課題について この授業のレポート課題については、講義の中で解説します。また、提出されたレポート課題については、成績判定後に、その概要を全体総括として公表します。	
科目の目的	医療専門職になるためには、大学教育によって専門的な知識・技術を獲得する能力とその対象とされる人間を深く理解し、尊厳を尊重し、生きることへの深い執着と感動に共感できる人間力が重要である。高度な医療専門職になるために必要な生涯にわたって学び続けるための力（アカデミック・スキル）を身につけることを目的とする。 アカデミック・スキルを①アカデミック・リーディング、②アカデミック・ライティング、③リサーチ・リテラシーの3つのパートとして捉え、関係するトピックを交え、オムニバス形式で授業展開を行う。 また、学修活動には「自己学習力シート」を利用し、ルーブリックを活用した主体的な学びを目指す。	
到達目標	1. 大学での学ぶ意義と学習に必要な学習習慣・学習技術を理解し、授業やレポート作成で実践できる。 2. 学術の知と探求に意義を見出し、自ら学ぶ姿勢を持ち、多角的な視点での理解を深める。 3. 医療専門職の基盤となる学術に興味を持ち、クリティカル・リーディングの手法を身につける。	

「ディプロマ・ポリシー」キーワード	探求力と問題解決力
関連科目	全ての授業科目
成績評価方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業中の課題への取り組み 30%</li> <li>・フィードバックシート、ワークシートなど学修内容の理解・修得度 40%</li> <li>・レポート・学修目標の達成度 30%</li> </ul>
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	本科目は7.5コマ（15時間）の演習科目のため、30時間分の準備学習時間（1コマあたり4時間（実時間数180分））が必要であり、事前学習（90分）・事後学習（90分）が目安となる。
教科書	使用しない
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アカデミック・スキルズ 大学生のための知的技法入門 佐藤望 監著 慶應義塾大学出版会</li> <li>・ピア活動で身につけるアカデミック・スキル入門 伊藤奈賀子 有斐閣ブックス</li> <li>・大学生のためのリサーチ・リテラシー入門 研究のための8つの力 山田剛史 ミネルヴァ書房</li> </ul>
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照
履修条件・履修上の注意	授業中に演習では、PCを使用しオンライン教材を利用するため、PC（Windows またはOS X）を持参してください。
アクティブ・ラーニングの実施	本科目では、学生の主体的な学習方法であるアクティブ・ラーニングを活用したオンライン教材等を使用します。
ナンバリング	SCh-102

講義科目名称： 多職種理解と医療コミュニケーション

授業コード： 2S045

英文科目名称： Multidisciplinary Understanding and Medical Communication

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
峯村 優一	星野 修平	伊藤 栞	矢島 正栄
	佐藤 満	松下 誠	本田 佳子
授業形態	講義（13回）と演習（3回）		担当者
授業計画	<p>第1回 多職種で構成される専門職の理解</p> <p>第2回 多職種連携とチーム・アプローチの基本構造</p> <p>第3回 多職種連携を支える医療情報連携</p> <p>第4回 多職種連携・チーム医療を支える医療倫理</p> <p>第5回 多職種連携・チーム医療を構成する専門職① 医学と医師</p> <p>第6回 多職種連携・チーム医療を構成する専門職② 看護学と関連する専門職</p> <p>第7回 多職種連携・チーム医療を構成する専門職③ リハビリテーション学と関連する専門職</p> <p>第8回 多職種連携・チーム医療を構成する専門職④ 医療技術学（臨床検査学・診療放射線学・臨床工学）と関連する専門職</p> <p>第9回 多職種連携・チーム医療を構成する専門職⑤ 薬学と関連する専門職</p> <p>第10回 多職種連携・チーム医療を構成する専門職⑥ 栄養学と関連する専門職</p> <p>第11回 多職種連携・チーム医療を構成する専門職⑦ 教育学・社会福祉学と関連する専門職</p> <p>第12回 多職種連携・チーム医療を構成する専門職⑧ 心理学と関連する専門職</p> <p>第13回 医療面接と医療コミュニケーション（演習）</p> <p>第14回 患者と患者家族、医療専門職の心理（演習）</p> <p>第15回 多職種連携とチーム医療の未来（演習）</p> <p>**授業ごとのフィードバック・シートの提出について</p> <p>*授業ごとの課題提出について 各回の授業では、授業の最後に提出課題があります。提出された課題についてのコメント等は、次回の授業でまとめて行います。</p> <p>**授業ごとのフィードバック・シートの提出について 各回の授業では、授業後のフィードバック・シートの提出を求めます。</p> <p>***レポート課題について この授業のレポート課題については、講義の中で解説します。また、提出されたレポート課題については、成績判定後に、その概要を全体総括として公表します。</p>		<p>峯村 優一</p> <p>星野修平</p> <p>星野 修平</p> <p>峯村 優一</p> <p>星野修平</p> <p>矢島 正栄</p> <p>佐藤 満</p> <p>松下 誠</p> <p>星野修平</p> <p>本田 佳子</p> <p>星野修平</p> <p>伊藤 栞</p> <p>伊藤 栞</p> <p>伊藤 栞</p> <p>峯村 優一</p>
科目の目的	人間を取りまく保健・医療・福祉・介護のアプローチは、国家資格を基本とする高度医療専門職で構成する多職種連携チームで行われる。医療専門職は、職種を形成する法的根拠に基づき専門知識と技術を有し、その育成段階においては、広い他職種の相互理解から、より専門的なプロフェッショナルリズム教育を経て、専門的知識、技術を習得し、その成果として国家資格受験資格を獲得する。この科目では、多職種連携チームを構成する医療専門職の役割と特徴、プロフェッショナルリズム教育の目的と意義について学ぶ。また、コミュニケーションの基本である言語・非言語コミュニケーション、診療情報の伝達と共有による医療情報連携の基本や患者と医療専門職者間で行われる医療コミュニケーションの基本と技術を学ぶ。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多職種で構成される医療専門職について法的根拠と責任について説明できる。</li> <li>・多職種で構成される医療について、その特徴と機能について説明できる。</li> <li>・医療コミュニケーションの特徴について説明できる。</li> </ul>		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	探求力と問題解決力		
関連科目	心理学入門、コミュニケーション学入門、各学科で開講される医療職連携科目		

成績評価方法・基準	授業内で実施する演習課題（50％）・課題レポート（50％）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	本科目は15コマ（30時間）の演習科目のため、30時間分の準備学習時間（1コマあたり2時間（実時間数90分））が必要であり、事前学習（45分）・事後学習（45分）が目安となる。
教科書	使用しない
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーション論・多職種連携論 内山 靖・藤井浩美・立石雅子編 医歯薬出版2021</li> <li>・医療者のためのコミュニケーション入門 杉本なおみ 精神看護出版</li> <li>・医療コミュニケーション 実証研究への多目的アプローチ 医療コミュニケーション研究会 篠原出版新社</li> </ul>
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照
履修条件・履修上の注意	授業中に演習では、PCを使用しオンライン教材を利用するため、PC（Windows またはOS X）を持参してください。
アクティブ・ラーニングの実施	本科目では、学生の主体的な学習方法であるアクティブ・ラーニングを活用したオンライン教材等を使用します。
ナンバリング	SCh-103

講義科目名称： 解剖学総論

授業コード： 2S046

英文科目名称： Introduction to Human Anatomy

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
後藤 遼佑	浅見 知市郎		

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 解剖学総論と骨学総論 基準面；運動の名称；人体の階層性（上皮組織、結合組織、骨組織、筋組織）；皮膚の構造；骨の顕微構造；骨化；骨のリモデリング；不動関節と可動関節；滑膜性関節の一般的構造；四肢体幹骨と関節の名称と位置	後藤 遼佑
	第2回 筋系 筋の顕微構造；筋組織の分類（骨格筋、平滑筋、心筋）；筋のテコ；主動作筋と協同筋、拮抗筋；屈筋と伸筋の区別；代表的な四肢体幹部の骨格筋	後藤 遼佑
	第3回 神経系 中枢神経の領域；体性神経と臓性神経；自律神経；大脳の構成；大脳新皮質の機能局在；大脳髄質を構成する神経線維の分類；主要な神経核；末梢神経（脳神経、脊髄神経特に肋間神経の走行、神経叢）	後藤 遼佑
	第4回 感覚器系 嗅覚、視覚、平衡感覚、聴覚にかかわる感覚受容器の肉眼構造	後藤 遼佑
	第5回 循環器系 胸郭の肉眼構造（胸膜と心膜、横隔膜）；心臓の肉眼構造（外観、心房と心室、刺激伝導系、冠状動脈）；血管の一般的構造；主要な血管の走行；奇静脈系；皮静脈系；リンパ系	後藤 遼佑
	第6回 呼吸器系 気道と呼吸部；喉頭の肉眼構造（喉頭を構成する軟骨；内喉頭筋；前庭ヒダと声帯ヒダ；喉頭前庭；喉頭室；声門下腔）；気管の肉眼構造；気管の分類；肺の肉眼構造	後藤 遼佑
	第7回 消化器系 腹腔の構造；腹膜（臓側腹膜、壁側腹膜、間膜；小網と大網）と後腹膜；消化管の一般的構造；胃、小腸、大腸の肉眼構造；肝臓と門脈	後藤 遼佑
	第8回 泌尿生殖器系 腎臓の顕微構造と肉眼構造；膀胱の肉眼構造；会陰の肉眼構造；生殖器	後藤 遼佑
科目の目的	人体を構成する各器官系の位置と構造を学び、医療職に必要な基礎知識を身につける。	
到達目標	(1) 解剖学用語を正しく使うことができる。 (2) 各器官系の構造について正しい選択肢を選ぶことができる。	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術	
関連科目	口腔解剖学、基礎生理学	
成績評価方法・基準	試験100%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	本科目では、授業1コマあたり予習に2時間、事後学修に1時間半の学修を基本とする（1単位45時間の学修が必要とされ、そのうち授業時間に相当する16時間を除く残りの29時間を各自の学修において補う必要がある）。予習を中心として、教科書の該当範囲の通読と授業内で指示した内容を各自で学修すること。	
教科書	言語聴覚士のための解剖・生理学 第1版 小林靖（医歯薬出版株式会社）	
参考書	ネッター頭頸部・口腔顎顔面の臨床解剖学アトラス 原著第3版 前田健康監訳（医歯薬出版株式会社）	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施	実施なし	

ナンバリング

SFi-101

講義科目名称： 口腔解剖学

授業コード： 2S047

英文科目名称： Oral Anatomy

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
浅見 知市郎			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 口腔概説 口腔の各部位の名称、専門用語 第2回 歯、歯周組織の構造 歯を構成する組織、歯周組織の構造、特徴 第3回 舌の形態と構造 糸状乳頭、茸状乳頭、葉状乳頭、有郭乳頭の形態と特性、舌筋の構成 第4回 唾液腺の形態と構造 大唾液腺（耳下腺、舌下腺、顎下腺）、小唾液腺の特性 第5回 咽頭の形態と構造 咽頭の位置、形態、ワルダイエルの咽頭輪 第6回 歯科における臨床用語① 歯の分類と呼称 第7回 歯科における臨床用語② 歯式、方向用語 第8回 口腔の発生 鰓弓、癒合不全による奇形	浅見 知市郎 浅見 知市郎 浅見 知市郎 浅見 知市郎 浅見 知市郎 浅見 知市郎 浅見 知市郎 浅見 知市郎
科目の目的	多職種連携において歯科医療従事者と協働する際に必要となる歯科の専門用語を教授し、より円滑な連携を行うことができる知識・能力を習得せしめる。	
到達目標	歯科に関する解剖学用語を習得しており、歯科医療従事者と密接なコミュニケーションをとることができる。	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術	
関連科目	解剖学総論、歯科・口腔外科学、口腔運動医学	
成績評価方法・基準	定期試験100%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	1週間前から配布する講義資料をもとに授業該当箇所の予習と復習を合計4時間行う必要がある。	
教科書	指定しない。	
参考書	「ネッター 頭頸部・口腔顎顔面の臨床解剖アトラス（原著第3版）」Neil S.Norton著 前田健康監訳 医歯薬出版	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意	アクティブアカデミーで配布する書き込み式資料は講義までにプリントアウトしておくこと。	
アクティブ・ラーニングの実施	実施なし。	
ナンバリング	SF-i-102	

講義科目名称： 基礎生理学

授業コード： 2S048

英文科目名称： Fundamentals of Physiology

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
洞口 貴弘			

授業形態	講義 (8回)	担当者
授業計画	<p>第1回 ガイダンス からだの構造と機能の基本 本講義を受講するにあたっての心構えや、人体を構成する分子、細胞、組織とそれらのはたらきについて概説する</p> <p>第2回 筋系、血液と免疫系 骨格筋の機能、血液の機能</p> <p>第3回 循環器系 心臓と血管の機能について概説する</p> <p>第4回 呼吸器系、消化器系 呼吸器系の機能、消化器系の機能について概説する</p> <p>第5回 泌尿器系、内分泌系 泌尿器系の機能、内分泌系の機能について概説する</p> <p>第6回 感覚器系 感覚器系の機能について概説する</p> <p>第7回 神経系1 神経系の機能について概説する</p> <p>第8回 神経系2 神経系の機能について概説する</p>	<p>洞口 貴弘</p> <p>洞口 貴弘</p> <p>洞口 貴弘</p> <p>洞口 貴弘</p> <p>洞口 貴弘</p> <p>洞口 貴弘</p> <p>洞口 貴弘</p> <p>洞口 貴弘</p>
科目の目的	人体の各部分の構造と機能を学び、医療職に必要な専門知識と基本的技術を身につける。	
到達目標	正常な人体の機能やそれを生み出すしくみの基礎について、選択肢の中から正しく選択できる。	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術	
関連科目	解剖学総論、局所解剖学、基礎病理学 他	
成績評価方法・基準	期末テストのみ(100%) で最終的な成績を決定する	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業内容および期末テストの内容は、配布資料に準ずる。また、配布資料は下記教科書から作成している そのため、教科書や配布資料を中心とした予習・復習が単位認定のカギとなる(約4時間)	
教科書	「言語聴覚士のための解剖・生理学 第1版」(医歯薬出版株式会社)	
参考書	「シンプル生理学 第7版」(南江堂) 「標準生理学」(医学書院) 「人体の正常構造と機能」(日本医事新報社) 「トートラ 人体の構造と機能」(丸善) 他	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意	7.5コマ講義なので、3回の欠席で履修放棄となるので注意	
アクティブ・ラーニングの実施	実施しない	
ナンバリング	SF1-103	

講義科目名称： 基礎病理学

授業コード：

英文科目名称： Fundamentals of Pathology

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
浅見 知市郎			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 疾病の外因 疾病の物理的要因、化学的要因、生物学的要因	浅見知市郎
	第2回 疾病の内因 疾病の素因、染色体・遺伝子異常、栄養障害	浅見知市郎
	第3回 退行性病変、進行性病変 退行性病変（変性、萎縮、壊死）、進行性病変（肥大、過形成、化生、異形成、創傷治癒）	浅見知市郎
	第4回 循環障害 全身循環障害、局所循環障害	浅見知市郎
	第5回 炎症 炎症に関わる細胞と液性因子、血管反応、全身性反応、炎症の経過と種類	浅見知市郎
	第6回 腫瘍 悪性腫瘍の発生、腫瘍細胞の生物学的特徴、腫瘍の分類	浅見知市郎
	第7回 先天異常と奇形 先天異常、遺伝性疾患（染色体疾患、単一遺伝子疾患）多因子疾患、外的要因による先天異常、先天奇形	浅見知市郎
	第8回 免疫疾患 免疫過敏症による組織障害とアレルギー疾患、自己免疫疾患	浅見知市郎
科目の目的	病理学とは疾病の原因、発生メカニズムなど、疾病の本態を解明する学問である。病理学総論として代謝障害、循環障害、炎症、腫瘍について疾病で生じる変化、経過、疾病の予後を捉え、理解ができるようにする。	
到達目標	代表的な疾患の原因や発生の仕組みをカテゴリーごとに説明できる。	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術	
関連科目	解剖学総論、基礎生理学	
成績評価方法・基準	定期試験（筆記試験）100%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	1週間前から配布する講義資料をもとに授業該当箇所の予習と復習を合計4時間行う必要がある。	
教科書	言語聴覚士テキスト第4版 大森孝一、永井知代子ほか 医歯薬出版（購入済み）	
参考書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 病理学 第5版 横井豊治ほか 医学書院	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意	事前にActive Academy Advanceで配布する講義ノートを講義までにプリントアウトしておくこと。	
アクティブ・ラーニングの実施	特になし	
ナンバリング	SF1-104	

講義科目名称： 医療危機管理（窒息・誤嚥・吸引含む）

授業コード： 2S050

英文科目名称： Medical Risk Management

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
白田 滋	岡野 由美	遠藤 俊介	酒井 哲郎

授業形態	講義及びアクティブラーニング形式で事例検討を行う		担当者
授業計画	第1回	医療安全総論 患者の安全を最優先に考え、その実現を目指す医療安全の考え方や歴史などについて解説します。	白田 滋
	第2回	リハビリテーションにおける医療安全 リハビリテーションにおける医療安全の考え方について解説します。	白田 滋
	第3回	ヒューマンエラー ヒューマンエラーの防止のための取り組み方について解説します。	白田 滋
	第4回	安全対策 転倒事故、窒息事故、患者の誤認などに対する対策について解説します。	白田 滋
	第5回	感染対策 院内、施設内感染などの感染症に対する対策について解説します。	白田 滋
	第6回	リハビリテーションの中止基準 運動負荷を伴う介入などにおけるリハビリテーションの中止基準について解説します。	白田 滋
	第7回	医療安全に関する取り組み 医療安全に関する制度、医療事故が発生した場合の対応などについて解説します。	白田 滋
	第8回	カニューレの基礎とトラブル対応 カニューレの基本構造、役割、設定方法について学び、緊急時における対応法を理解します。カニューレの正しい取り扱い方と管理方法について学びます。安全管理の基礎を身につけます。	酒井 哲郎
	第9回	人工呼吸器の基礎とトラブル対応 人工呼吸器について学び、緊急時における対応法を理解します。人工呼吸器使用中に発生するトラブルへの対応、警報の理解と解除、患者の状態変化に応じた調整方法について学びます。安全管理の基礎を身につけます。	酒井 哲郎
	第10回	音響外傷の理解と対応 音響外傷とは何か、その発生メカニズムや症状について理解を深め、対応方法を学びます。音響外傷の予防策、発生後の迅速な対応、リスク要因の把握について説明し、特に聴覚の保護とケア方法についても重点的に学習します。	岡野 由美
	第11回	小児における安全管理と危機対応 小児全般の特性を踏まえた安全管理の重要性について学びます。小児における事故のリスク要因、事故防止の具体策、緊急事態が発生した場合の適切な対応法について理解します。小児の特性に合わせた観察ポイントや、安全管理上の注意点についても取り扱います。	遠藤 俊介
	第12回	誤嚥と窒息の概要とその違い 誤嚥と窒息の基本的な定義とそのメカニズムについて学び、それぞれの違いを明確に理解します。誤嚥によるリスクや、窒息が引き起こす緊急事態など、健康に与える影響について解説します。また、どのような状況でそれぞれが発生しやすいかについても触れ、リスク要因を理解することを目的とします。	酒井 哲郎
	第13回	誤嚥と窒息発生時の対応法（吸引含む） 誤嚥や窒息が発生した際の適切な対応法について学びます。迅速かつ適切に対応するための応急処置の手順、具体的な動作、吸引の方法、注意点を説明し、実践的な対応能力を養います。また、特に緊急度が高い窒息への対処法については、リハサルを行いながら、安全にケアできる技術を学びます。	酒井 哲郎
	第14回	誤嚥と窒息発生時の対応法（吸引含む） 誤嚥や窒息が発生した際の適切な対応法について学びます。迅速かつ適切に対応するための応急処置の手順、具体的な動作、吸引の方法、注意点を説明し、実践的な対応能力を養います。また、特に緊急度が高い窒息への対処法については、リハサルを行いながら、安全にケアできる技術を学びます。	酒井 哲郎
	第15回	医療危機管理 GWと共有 医療危機管理についてゼミ単位で考え発表します。発表では、観察した具体的な事例をもとに、危機管理の重要性や課題、今後自分たちが担うべき役割について考察を加えます。他者の発表を通じて多角的な視点から医療危機管理を捉え直し、学びを共有・深化させることを目的とします。	酒井 哲郎

科目の目的	リハビリテーションに求められる医療安全に関する基礎知識や代表的な対応方法について理解すること
到達目標	1. 医療安全の考え方の概要について説明できる。 2. 代表的な安全・感染対策について説明できる。 3. 医療事故が発生した場合の対応の概要について説明できる。 4. 喀痰、吸引などの基本について説明できる。
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術
関連科目	耳鼻咽喉科学、内科学、多職種理解と連携 聴覚障害演習、運動系障害演習、言語系障害演習、小児系障害演習
成績評価方法・基準	定期試験（60%）、課題（40%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習・復習各30分程度
教科書	教科書：使用しない
参考書	授業中に紹介する
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照
履修条件・履修上の注意	演習の際は動きやすい服装で参加すること
アクティブ・ラーニングの実施	事例検討課題あり
ナンバリング	SFi-105

講義科目名称： 内科学

授業コード： 2S051

英文科目名称： Internal Medicine

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
岩崎 俊晴			

授業形態	講義 (15回)	担当者
授業計画	<p>第1回 概論 1 ＜内科疾患の分類、薬物療法、食事療法＞内科疾患の分類、薬物療法の実際。薬物の作用、濃度。処方箋、医薬品に関する法令。薬用量。食事療法の目的。栄養と疾患の関係。各種病態と食事療法の基本方針。病院食とは。嚥下と栄養補給。</p> <p>第2回 概論 2 一般検査。血液検査。生化学検査。内分泌検査。感染症検査。免疫的検査。腫瘍マーカーとは。生理学的検査。画像検査。</p> <p>第3回 消化器疾患 1 消化器疾患の食事・栄養療法。口腔、食道、胃疾患、腸疾患。</p> <p>第4回 消化器疾患 2 肝、胆のう、膵臓疾患。腹膜疾患。急性腹症。</p> <p>第5回 呼吸器疾患 1 感呼吸器疾患総論、染性呼吸器疾患。気管支疾患。産業性呼吸器疾患。</p> <p>第6回 呼吸器疾患 2 間質性肺炎。COPD。肺腫瘍。肺循環障害。サルコイドーシス。</p> <p>第7回 アレルギー、自己免疫疾患。 アレルギーとは。アレルギー性鼻炎。気管支喘息。アレルギー性肺疾患。膠原病。</p> <p>第8回 循環器疾患 1 心不全。不整脈。</p> <p>第9回 循環器疾患 2 虚血性心疾患。弁膜症。心筋炎。リウマチ熱。</p> <p>第10回 循環器疾患 3 高血圧症。大動脈疾患。末梢動脈疾患。静脈・リンパ系の疾患。</p> <p>第11回 内分泌・代謝疾患 1 内分泌疾患の特徴。間脳、下垂体疾患。甲状腺、副甲状腺疾患、副腎疾患。</p> <p>第12回 内分泌・代謝疾患 2 糖代謝異常 (糖尿病、低血糖)</p> <p>第13回 内分泌・代謝疾患 3 脂質代謝異常。尿酸代謝異常。その他の代謝異常。</p> <p>第14回 血液疾患 血液量の異常。脱水。貧血、多血症。血小板の異常。白血球の異常。</p> <p>第15回 内科学における遺伝性疾患。環境因子と内科疾患。 遺伝性疾患の形式。家族性高コレステロール血症について。公害病について。原発事故における健康被害。</p>	<p>岩崎 俊晴</p> <p>岩崎 俊晴</p> <p>岩崎 俊晴</p> <p>岩崎 俊晴</p> <p>岩崎 俊晴</p> <p>岩崎 俊晴</p> <p>岩崎 俊晴</p> <p>岩崎 俊晴</p> <p>岩崎 俊晴</p> <p>岩崎 俊晴</p> <p>岩崎 俊晴</p> <p>岩崎 俊晴</p> <p>岩崎 俊晴</p> <p>岩崎 俊晴</p> <p>岩崎 俊晴</p> <p>岩崎 俊晴</p> <p>岩崎 俊晴</p> <p>岩崎 俊晴</p>
科目の目的	臨床医学の中で内科学はすべての疾患を知る上で重要な学問である。特に、疾患の病理生理、診断、治療を学ぶことは臨床の現場で患者の状況を理解し、的確な判断に基づいて検査、治療を施す上で重要である。	
到達目標	疾病の病態生理、診断、治療を一連の流れの中で理解する力を養う。国家試験に役立つ疾患について理解を深め、実際の問題に対応できるようにする。	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術	
関連科目	解剖学総論、基礎生理学、基礎病理学	
成績評価方法・基準	試験とレポートの総合評価 (レポート30%、ミニテスト30%、試験40%)	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	毎回の講義内容をよく復習し、重要事項を頭にしておくこと。講義前に授業資料に目を通し、どのような流れの授業なのかを把握しておくこと。授業内容を深く理解するためには30分以上の予習が必要である。	
教科書	なし	
参考書	「病気が見える」シリーズ	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	

国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照
履修条件・履修上の注意	特になし。
アクティブ・ラーニングの実施	実施なし
ナンバリング	SFi-201

講義科目名称： 小児科学

授業コード： 2S052

英文科目名称： Pediatrics

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
秋元 かつみ			

授業形態	講義(15回) 授業の前後にプレテスト、ポストテストを施行	担当者
授業計画	<p>第1回 小児科学概論 成長発達、神経反射、小児と成人の相違（構造、生理）、健康診断</p> <p>第2回 新生児、低出生体重児 低出生体重児、早産児の生理と合併症、マスキリーニング、母児感染</p> <p>第3回 先天異常 染色体異常、遺伝子異常、代謝異常などの原因と診断と治療</p> <p>第4回 神経、筋、骨疾患 てんかん、先天性の筋疾患や骨系統疾患の診断と治療</p> <p>第5回 循環器疾患 先天性の構造異常、川崎病、不整脈などの病態と診断</p> <p>第6回 感染症 小児期に罹患しやすい感染症の特徴と治療と予防法、ワクチン</p> <p>第7回 血液、腫瘍疾患 小児の白血病などの血液疾患と固形腫瘍の特徴と治療予後</p> <p>第8回 自己免疫疾患、アレルギー アトピー性皮膚炎、喘息、食物アレルギーなどの最新の知見をふまえた病因や治療</p> <p>第9回 消化器疾患 先天性の構造異常や炎症性疾患の診断と治療</p> <p>第10回 外科疾患 先天性消化器、生殖器疾患などの病態や脳腫瘍などの後天性疾患の治療、整形外科疾患の診断と治療</p> <p>第11回 呼吸器疾患 感染症やアレルギーを病因とした疾患と先天性構造異常疾患などの病態と診断および治療</p> <p>第12回 腎、泌尿器疾患 先天性や遺伝性疾患、ネフローゼ症候群やIgAなどの後天性疾患の診断と治療 先天性や遺伝性の腎疾患やネフローゼ症候群や IgA血管炎などの後天性疾患の診断と治療</p> <p>第13回 代謝、内分泌疾患 低身長や性分化異常などの内分泌異常やWilson病などの代謝異常の診断と治療</p> <p>第14回 精神疾患 自閉症スペクトラム、ADHD、トウレット症候群、神経性やせ病などの概要と診断</p> <p>第15回 脳性麻痺、医療的ケア児、在宅医療 脳性麻痺の病態と診断、在宅医療を含めた医療的ケア児の治療</p>	<p>秋元 かつみ</p> <p>秋元 かつみ</p> <p>秋元 かつみ</p> <p>秋元 かつみ</p> <p>秋元 かつみ</p> <p>秋元 かつみ</p> <p>秋元 かつみ</p> <p>秋元 かつみ</p> <p>秋元 かつみ</p> <p>秋元 かつみ</p> <p>秋元 かつみ</p> <p>秋元 かつみ</p> <p>秋元 かつみ</p> <p>秋元 かつみ</p> <p>秋元 かつみ</p> <p>秋元 かつみ</p> <p>秋元 かつみ</p> <p>秋元 かつみ</p>
科目の目的	<p>将来言語聴覚士として小児の訓練を行う場合、基礎として、新生児期からの成長発達及び先天異常など小児特有の疾患について理解を深め理学療法に役立てることを目的とする。 ディプロマポリシーの育成。自己の問題提起と解決能力の育成。</p>	
到達目標	<p>1) 新生児期からの正常な身体的、神経学的発達を学び成長発達障害の診断ができる。 2) 小児特有な感染症、先天異常、染色体異常、代謝異常、精神疾患などについて要点を理解する。 3) 問題提起と解決能力を身につける。 4) 積極的に発言できる能力を身につける。</p>	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	<p>専門知識と基本的技術</p>	
関連科目	<p>解剖学総論、基礎生理学、基礎病理学、精神医学</p>	
成績評価方法・基準	<p>定期試験100%だが授業毎のリアクションペーパーも考慮する。</p>	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>講義資料を前日までに目を通しておくこと。1コマの授業に1時間ほどかけて要点を理解し疑問点を列記しておくこと。</p>	

教科書	教科書：使用しない
参考書	言語聴覚テキスト言語学・言語発達学 2022年12月10日 MEDICAL VIEW 病気が見える vol.15小児科 第1版 2022年10月発行 メディックメディア
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Web フォルダ-教務課-オフィスアワー」参照
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照
履修条件・履修上の注意	講義開始5分後までは出席扱い。その後は遅刻とします。
アクティブ・ラーニングの実施	症例についてグループごとに討議し臨床感覚による深い理解を達成する
ナンバリング	SFi-202

講義科目名称： 精神医学

授業コード： 2S053

英文科目名称： Psychiatry

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
石井 良和	井田 逸朗		

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 精神医学とは 精神医学の定義・概念・歴史	石井 良和・井田逸朗
	第2回 精神障害の成因と分類 精神と精神症状の理解	石井 良和・井田逸朗
	第3回 精神疾患の診断と評価	石井 良和・井田逸朗
	第4回 脳器質性精神障害（てんかんを含む） 症状性精神障害	石井 良和・井田逸朗
	第5回 統合失調症	石井 良和・井田逸朗
	第6回 気分障害・神経症・摂食障害・心身症等	石井 良和・井田逸朗
	第7回 精神作用物質 アルコール、睡眠薬等の薬物関連障害	石井 良和・井田逸朗
	第8回 精神科医療 治療・薬の副作用・入院の種類	石井 良和・井田逸朗
	第9回 不安障害	石井 良和・井田逸朗
	第10回 睡眠障害	石井 良和・井田逸朗
	第11回 パーソナリティー障害	石井 良和・井田逸朗
	第12回 老年期の精神医学	石井 良和・井田逸朗
	第13回 発達障害	石井 良和・井田逸朗
	第14回 サイコオンコロジー	石井 良和・井田逸朗
	第15回 まとめと試験関連項目の詳説	石井 良和・井田逸朗
科目の目的	広汎な精神障害の概要を学び、将来言語聴覚士としての役割を学習する。	

到達目標	言語聴覚士として将来遭遇する症例の実像を理解できる。
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術
関連科目	内科学 小児科学
成績評価方法・基準	筆記試験（100%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	次回講義の該当ページを読んでおくこと。学習時間の目安は1コマあたり60分。
教科書	教科書：「標準理学療法学作業療法学 精神医学」編：上野武治（医学書院）
参考書	特になし
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照
履修条件・履修上の注意	特になし
アクティブ・ラーニングの実施	実施なし
ナンバリング	SFi-203

講義科目名称： リハビリテーション医学

授業コード： 2S054

英文科目名称： Rehabilitation Medicine

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	2単位	必修
担当教員	担当者		
宗宮 真			

授業形態	講義 (15回)	担当者
授業計画	<p>第1回 リハビリテーション診療の概要 障害学、病期別リハビリテーション、診察、評価、検査、治療について学ぶ。</p> <p>第2回 障害の病態生理と評価・治療 (1) 廃用症候群について学ぶ。</p> <p>第3回 障害の病態生理と評価・治療 (2) 循環機能障害、呼吸機能障害について学ぶ。</p> <p>第4回 障害の病態生理と評価・治療 (3) 運動障害、歩行障害について学ぶ。</p> <p>第5回 障害の病態生理と評価・治療 (4) 摂食・嚥下障害について学ぶ。</p> <p>第6回 障害の病態生理と評価・治療 (5) 高次脳機能障害について学ぶ。</p> <p>第7回 障害の病態生理と評価・治療 (6) 老化による障害 (老年症候群)、発達障害について学ぶ。</p> <p>第8回 疾患とリハビリテーション (1) 脳血管障害について学ぶ。</p> <p>第9回 疾患とリハビリテーション (2) 脊髄損傷について学ぶ。</p> <p>第10回 疾患とリハビリテーション (3) 神経筋疾患について学ぶ。</p> <p>第11回 疾患とリハビリテーション (4) 骨関節疾患について学ぶ。</p> <p>第12回 疾患とリハビリテーション (5) 切断と義肢について学ぶ。</p> <p>第13回 疾患とリハビリテーション (6) 呼吸器疾患、循環器疾患について学ぶ。</p> <p>第14回 疾患とリハビリテーション (7) 内部障害、悪性腫瘍について学ぶ。</p> <p>第15回 疾患とリハビリテーション (8) 小児疾患 (脳性麻痺など) について学ぶ。</p>	<p>宗宮 真</p> <p>宗宮 真</p> <p>宗宮 真</p> <p>宗宮 真</p> <p>宗宮 真</p> <p>宗宮 真</p> <p>宗宮 真</p> <p>宗宮 真</p> <p>宗宮 真</p> <p>宗宮 真</p> <p>宗宮 真</p> <p>宗宮 真</p> <p>宗宮 真</p> <p>宗宮 真</p> <p>宗宮 真</p>
科目の目的	<p>1. 運動障害、廃用症候群、循環・呼吸機能障害、嚥下障害、高次脳機能障害、老年症候群、発達障害などの病態生理・評価・リハビリテーションの概要や注意点について理解する。</p> <p>2. 脳血管障害、脊髄損傷、神経筋疾患、骨関節疾患、切断と義肢、呼吸器疾患、循環器疾患、内部障害、悪性腫瘍、小児疾患などの疾患の病態とリハビリテーションの概要や注意点について理解する。</p>	
到達目標	リハビリテーションの対象となる障害や疾患の病態生理・評価およびリハビリテーションを行う際の注意点について説明できる。	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	探求力と問題解決力	
関連科目	解剖学総論、基礎生理学、基礎病理学、内科学、神経内科学、小児科学、高次脳機能障害学、耳鼻咽喉科学	
成績評価方法・基準	定期試験 (筆記試験 80%)、授業内レポート (15%)、授業中の質問や確認問題への回答 (5%)。授業内レポートや確認問題については、講義内で解説を行うなど、フィードバックを行う。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業で解説した重要事項について、主に復習を中心とした自己学習を行い、次回授業までに、重要事項については自ら説明できるレベルまで理解しておくこと。1コマあたり、4時間 (実時間数180分) の授業外学習の時間を確保すること。	
教科書	教科書：使用しない。	
参考書	参考書：各授業の際に適宜提示する。	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上	前回講義の復習に利用するため、前回の配布資料を持参すること。	

の注意	
アクティブ・ラーニングの実施	実施なし
ナンバリング	SFi-204

講義科目名称： 言語聴覚障害関連領域実技実習

授業コード： 2S055

英文科目名称： Practical Training in Fields Related to Speech-  
Language-Hearing Disorders

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
酒井 哲郎	石山 寿子・北 義子	石川 幸伸・岡野 由実	遠藤 俊介
	鈴木 倫	及川 翔	
授業形態	講義および演習（校外学習を含む）		担当者
授業計画	第1回	授業の概要，オリエンテーション	酒井・石山・北・石川・岡野・遠藤・鈴木・及川
	第2回	演習：移動補助具（1本杖・松葉杖）	酒井・石山・北・石川・岡野・遠藤・鈴木・及川
	第3回	講義：難聴体験	北・岡野
	第4回	演習：失語症体験・構音障害体験	酒井・石山・北・石川・岡野・遠藤・鈴木・及川
	第5回	演習：嚥下障害体験	酒井・石山・北・石川・岡野・遠藤・鈴木・及川
	第6回	演習：高齢者・視覚障がい体験	酒井・石山・北・石川・岡野・遠藤・鈴木・及川
	第7回	演習：高齢者・視覚障がい体験	酒井・石山・北・石川・岡野・遠藤・鈴木・及川
	第8回	演習：車椅子・片麻痺体験	酒井・石山・北・石川・岡野・遠藤・鈴木・及川
	第9回	演習：車椅子・片麻痺体験	酒井・石山・北・石川・岡野・遠藤・鈴木・及川
	第10回	演習：高齢者コミュニケーション体験	酒井・石山・北・石川・岡野・遠藤・鈴木・及川
	第11回	演習：高齢者コミュニケーション体験	酒井・石山・北・石川・岡野・遠藤・鈴木・及川

	第12回 演習：小児保育体験 言語コミュニケーションに障がいのあるお子さんや定型発達児に対する、療育・保育現場を見学する	北・遠藤
	第13回 演習：小児保育体験 言語コミュニケーションに障がいのあるお子さんや定型発達児に対する、療育・保育現場を見学する	北・遠藤
	第14回 発表	酒井・石山・北・石川・岡野・遠藤・鈴木・及川
	第15回 発表	酒井・石山・北・石川・岡野・遠藤・鈴木・及川
科目の目的	言語聴覚療法に関わる各障害について学習し、自ら体験することで理解を深める。また医療現場で必要とする車椅子操作や移乗などの介助方法など学習する。さらに小児福祉領域の関連施設において臨床現場の見学をとおして小児への適切な関わり方を学ぶ。	
到達目標	1. 各障害の特徴を理解できる 2. 安全に車いすを操作できる（車いすの介助） 3. 寝返り，起き上がり，立ち上がりなどの基本動作の 4. 小児へ適切に関わろうとする際の介助法を実践できる	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術	
関連科目	チーム医療とリハビリテーション，リハビリテーション医学，運動系障害演習	
成績評価方法・基準	発表(20%)，レポート(80%)	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	技術習得を目標とするため，講義後の実技練習30分程度の復習を要する	
教科書	特になし（別途資料を配布する）	
参考書	1. 飛松好子編著：新イラストによる安全な動作介助の手引き第3版，医歯薬出版株式会社，2016 2. 木村哲彦著：新イラストによる安全な動作介助のてびき第2版，医師薬出版株式会社2005 3. 臼田茂編：CrossLink理学療法学テキスト 日常生活活動学，医師薬出版株式会社MEDICAL VIEW. 2020	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意	演習では、実技中心となりますので、動きやすい服装と実習用靴に履き替えて受講して下さい。	
アクティブ・ラーニングの実施	実技演習（グループワーク，体験学習）	
ナンバリング	SF-i-106	
実務経験のある教員による授業		
実務経験		
授業の概要	身体障害者の運動・動作障害について学習し、誰もが知っておくと便利な歩行やその他の移動・移乗動作の介助法、車いす操作法、リラクゼーション指導、杖の付き方、デバイスの利用などについてリハビリテーション関連専門職者から直接に指導を受ける。	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
二宮 洋	村田 考啓	鎌田 英男	

授業形態	講義 (15回) パワーポイントを主体として行う。適宜動画や録音などを用いて理解を深める。	担当者
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、関連領域の人体発生学 今後の授業の進め方、レポート提出、期末試験についての概略の説明を受け理解する。耳鼻咽喉科の関係する疾患は耳・鼻・咽喉頭・気管・食道が相互に関係する場合が多く、相互の関連性を学習することが非常に重要であることを理解する。授業はパワーポイント使用による講義が主体であるが、適宜動画の供覧も行って、視覚的な教育も並行して行うことにより、学習の強化を行う。人体発生学のうち、耳鼻咽喉科に関連の深い耳・鼻・咽喉頭・気管・食道の人体組織の成り立ちと相互の組織学および機能的な共通点を学ぶ。 気管食道疾患は耳鼻咽喉科のみならず、呼吸器内科・外科そして消化器内科・外科とも関連のある分野である。それらの知識を得ることはすべての医療職にとって大切なことである。ここでは気管食道の構造と機能の概略を学び、臨床に生かせる知識を理解する。今後の授業の進め方、レポート提出、期末試験についての概略の説明を受け理解する。耳鼻咽喉科の関係する疾患は耳・鼻・咽喉頭・気管・食道が相互に関係する場合が多く、相互の関連性を学習することが非常に重要であることを理解し説明できる。</p> <p>第2回 気管食道科学：気管食道科学の臨床とその検査法、頭頸部腫瘍：良性・悪性腫瘍 耳鼻咽喉科疾患に関連の深い全身疾患や症候群を理解し、その医学的な知識を学び、将来の言語聴覚士の臨床等に生かせるよう理解する。また人の名前の付いた症候群も多く、国家試験には出題しやすい症候群が多いことも知っておく必要がある。気管食道疾患の病態と治療方法そしてリハビリテーションを学び、患者さまに適切な指導とアドバイスができるようその病態と治療を学ぶ。 頭頸部に発生する良性・悪性腫瘍につき部位毎の症状、言語聴覚、嚥下に関連する事象につき理解し、説明できるようになる。 【国試出題基準】気道・食道異物、食道疾患、気管切開と気道確保、良性・悪性腫瘍（聴器、鼻・副鼻腔、口腔・咽頭、喉頭、唾液腺など）</p> <p>第3回 口腔咽頭科学Ⅰ：口腔・咽頭の構造と機能、口腔・咽頭の病態とその検査法 口腔と咽頭ならびに味覚の構造とその機能を学び、歯および口蓋・舌が発声やしゃく嚥下に関してどのように働いているかを理解し、その機能が失われた場合にどのような不自由が生じるかを学び説明できるようになる。</p> <p>第4回 口腔咽頭科学Ⅱ：口腔・咽頭の病態とその検査法、口腔咽頭の疾患および治療・リハビリテーション 口腔・咽頭の疾患の病態を学び、その治療と検査法およびリハビリテーションを理解する。また手術的手段によりその機能が失われた場合の代用機器および摂食・嚥下のリハビリテーションを学び理解し説明できる。 【国試出題基準】口腔疾患（舌炎、口内炎、口腔・舌腫瘍、口唇裂、口蓋裂）、咽頭疾患（急性扁桃炎、慢性扁桃炎、扁桃肥大、アデノイド増殖症、睡眠時無呼吸症候群）、唾液腺疾患（急性耳下腺炎、ムンプス、唾石症）、鼻咽喉閉鎖不全をきたす疾患、味覚とその障害</p> <p>第5回 耳科学Ⅰ：耳の構造と機能 外耳、中耳、内耳、聴覚・平衡神経路、大脳の聴覚野などの構造と機能の概要を学び、聴覚および平衡覚の神経信号がどのように大脳に至り理解されるかを学ぶ。</p> <p>第6回 耳科学Ⅱ：耳の病態と治療・リハビリテーション 外耳、中耳、内耳および聴覚・平衡神経路の代表的疾患について、その病態と治療を学び、言語聴覚士の関わりとその重要性を理解する。</p> <p>第7回 鼻科学Ⅰ：鼻・副鼻腔の構造およびその機能とその検査法 固有鼻腔および副鼻腔ならびに嗅覚の構造と機能を学び、それらが呼吸および発声・発語にどのような影響を及ぼしているかを理解する。またそれが阻害された場合にどのような状態が生ずるかを学ぶ。そしてその障害の内容は発生時期によっても異なることを理解する。それぞれの検査法についても理解し説明ができるようになる。機能（換気機能、鼻腔共鳴、嗅覚）。 【国試出題基準】鼻・副鼻腔疾患（急性鼻炎、慢性鼻炎、鼻アレルギー、急性副鼻腔炎、慢性副鼻腔炎、後鼻孔閉鎖症、嗅覚障害）</p>	<p>鎌田 英男</p> <p>鎌田 英男</p> <p>二宮 洋</p> <p>二宮 洋</p> <p>村田 考啓</p> <p>村田 考啓</p> <p>二宮 洋</p>

	<p>第8回 鼻科学Ⅱ：鼻・副鼻腔疾患の病態および治療 鼻・副鼻腔疾患は生命に影響するような疾患は多くはないが、QOLに大きな影響を及ぼすため生活をするのに不快感や集中力の低下、しいては社会生活での行動にも影響がおよぶ。その影響の重大さを理解し、改善する方法を考えることが重要である。治療に関しては対症的な治療と根本的な治療があるが、その選択に関しても適切なアドバイスができるようにする。ため生活をするのに不快感や集中力の低下、しいては社会生活での行動にも影響がおよぶ。その影響の重大さを理解し、改善する方法を考えることが重要である。治療に関しては対症的な治療と根本的な治療があるが、その選択に関しても適切なアドバイスができるようにする。 【国試出題基準】鼻・副鼻腔疾患（急性鼻炎、慢性鼻炎、鼻アレルギー、急性副鼻腔炎、慢性副鼻腔炎、後鼻孔閉鎖症、嗅覚障害）</p>	二宮 洋
	<p>第9回 耳科学Ⅲ：耳の検査法と補聴器・人工聴覚器 耳科学での代表的な検査法（聴覚・平衡覚検査）を学ぶ。聴覚の補助装置として、補聴器および人工聴覚器がある。言語聴覚士が知っておくべき補聴器の種類・構造・適応および人工聴覚器の構造・適応について概要を学ぶ。の疾患の病態を学び、どのような影響を日常生活に生じるかを理解する。</p>	村田 考啓
	<p>第10回 喉頭科学Ⅰ：喉頭の構造と機能・検査法 喉頭の構造と機能を学び、それらが呼吸、発声・発語にどのような影響を及ぼしているかを理解する。また、喉頭機能を評価する検査法について概要を学ぶ。</p>	二宮 洋
	<p>第11回 喉頭科学Ⅱ：喉頭の疾患の病態と治療・リハビリテーション 喉頭に生じる代表的疾患について、その病態と治療およびリハビリテーションを理解する。また手術的治療によりその機能が失われた場合の代用機器およびリハビリテーションは言語聴覚士の重要な職務であり、それらをを学び理解する。</p>	二宮 洋
	<p>第12回 音声言語医学Ⅰ：音声医学の基礎・臨床 言語聴覚士が直接関与することが非常に多い音声言語医学の基礎知識を習得する。音声言語医学Ⅰでは、音声医学についての基礎・臨床について概説する。</p>	村田 考啓
	<p>第13回 音声言語医学Ⅱ：言語医学の基礎・臨床 音声言語医学Ⅱでは、聴覚障害とも関連し言語聴覚士が専門性を発揮する言語障害について、言語医学の基礎・臨床を概説する。</p>	村田 考啓
	<p>第14回 気道確保と気道疾患、嚥下障害 気道確保の方法、気道疾患について学び説明できるようになる。嚥下障害とその病態、検査法について理解し説明できるようになる。 【国試出題基準】気管切開と気道確保、嚥下障害</p>	二宮 洋
	<p>第15回 耳鼻咽喉科関係の全身疾患およびまとめと過去の国家試験問題の検討、頭頸部腫瘍の手術・再建術による変化 耳鼻咽喉科領域での言語聴覚士国家試験出題基準の再確認、過去問題について解説する。気道確保や頭頸部腫瘍による手術・再建術による変化についても復習する。言語聴覚士が参加するチーム医療についても理解する。</p>	二宮 洋
科目の目的	言語聴覚士と耳鼻咽喉科のつながりはかなり長い歴史がある。言語聴覚士法が制定されるかなり前から、耳鼻咽喉科医は言語聴覚療法に関わってきた。ここでは言語聴覚士として知っておかなくてはならない耳鼻咽喉科領域器官の構造・機能・疾患・治療およびリハビリテーションを学ぶ。	
到達目標	以下の点を到達目標とする。 1. 耳鼻咽喉科各疾患の概略を説明し、その治療および言語聴覚療法の概略と進め方を説明できる。 2. 実際の言語聴覚療法を施行するにあたり、その人の持つ特性、他の障害の特性も考慮し、実施できる。 3. 耳鼻咽喉科科学的な訓練の実施内容、その成果に関し、正確にカルテに記録を記載できる。	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術	
関連科目	局所解剖学、基礎生理学、神経内科学、歯科・口腔外科学、口腔運動医学、言語医学、聴覚医学	
成績評価方法・基準	期末試験にて総合評価する。各講義で出席をとるので注意すること。総合評価にて60点未満は追試験の対象となる。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	次回の講義内容を教科書・参考書などで準備学習をする。学習時間の目安は60分とし、重要点は後に見直すように内容を記入する。	
教科書	「病気がみえる13巻 耳鼻咽喉科」医療情報科学研究所編 メディックメディア	
参考書	「耳鼻咽喉科疾患 ビジュアルブック第2版」落合慈介、中尾一成他編著、学研プラス 「言語聴覚士のための基礎知識 耳鼻咽喉科学第2版」鳥山稔、田内光編 医学書院	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意	1. 講義は全講義を受講すること。遅刻・早退も原則として認めない。 2. やむを得ない事由（病気・弔事・天災など）により欠席する場合は、所定の手続きを取るとともに、	

	<p>次の講義日時の初頭に口頭にて講師に申し出ること。</p> <p>3. 上記2. の場合は、追加のレポート提出を命ずる場合がある。</p> <p>4. 正当な理由がなく欠席・遅刻・早退した場合は単位取得が不能となる場合がある。</p> <p>5. 授業中のスマホ・携帯電話の使用は禁止する。</p>
アクティブ・ラーニングの実施	本科目では数回グループ討論（ワーク）を行う。
ナンバリング	SFi-107

講義科目名称： 神経内科学

授業コード： 2S057

英文科目名称： Neurology

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
宗宮 真			

授業形態	講義 (15回)	担当者
授業計画	第1回 総論 神経症候と神経学的診察法の概要について学習する。	宗宮 真
	第2回 脳血管障害1 脳血管障害の概要と脳出血について学習する。	宗宮 真
	第3回 脳血管障害2 脳梗塞1 病態と症候を中心に学習する。	宗宮 真
	第4回 脳血管障害3 脳梗塞2 検査と治療を中心に学習する。	宗宮 真
	第5回 脳血管障害4および外傷性疾患 くも膜下出血と頭部外傷について学習する。	宗宮 真
	第6回 神経変性疾患1 認知症疾患について学習する。	宗宮 真
	第7回 神経変性疾患2 大脳基底核障害 (錐体外路系疾患) 1 パーキンソン病を中心に学習する。	宗宮 真
	第8回 神経変性疾患3 大脳基底核障害 (錐体外路系疾患) 2 パーキンソン病以外の疾患について学習する。	宗宮 真
	第9回 神経変性疾患4 脊髄小脳変性症について学習する。	宗宮 真
	第10回 神経変性疾患5 運動ニューロン疾患について学習する。	宗宮 真
	第11回 脱髄疾患 多発性硬化症などの脱髄疾患について学習する。	宗宮 真
	第12回 末梢神経障害 ギラン・バレー症候群などの末梢神経障害について学習する。	宗宮 真
	第13回 筋疾患 筋ジストロフィーなどの筋疾患について学習する。	宗宮 真
	第14回 神経筋接合部疾患、機能性疾患 重症筋無力症などの神経筋接合部疾患、てんかんなどの機能性疾患について学習する。	宗宮 真
	第15回 感染性疾患 髄膜炎・脳炎などの感染性疾患について学習する。	宗宮 真
科目の目的	神経内科疾患の病態、症状、検査、診断、治療についての知識を習得する。	
到達目標	神経内科疾患の病態、症状、検査、診断、治療およびリハビリテーションを行う際の注意点について説明できる。	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術	
関連科目	解剖学総論、基礎生理学、基礎病理学、内科学、小児科学、高次脳機能障害学、耳鼻咽喉科学、リハビリテーション医学	
成績評価方法・基準	定期試験 (筆記試験 80%)、授業内レポート (15%)、授業中の質問や確認問題への回答 (5%)。授業内レポートや確認問題については、講義内で解説を行うなど、フィードバックを行う。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業で解説した重要事項について、主に復習を中心とした自己学習を行い、次回授業までに、重要事項については自ら説明できるレベルまで理解しておくこと。1コマあたり1時間 (実時間数45分) の授業外学習の時間を確保すること。	
教科書	教科書： 使用しない。	
参考書	参考書1：「神経内科学テキスト (改訂第5版)」江藤文夫、飯島節、伊東秀文 (南江堂) 参考書2：「神経疾患のリハビリテーション (初版)」江藤文夫、和田直樹 (南山堂)	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	

履修条件・履修上の注意	前回講義の復習に利用するため、前回の配布資料を持参すること。
アクティブ・ラーニングの実施	実施なし
ナンバリング	SFi-205

講義科目名称： 形成外科学

授業コード： 2S058

英文科目名称： Plastic and Reconstructive Surgery

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
浜島 昭人	佐々木 淑恵	古賀 康史	木原 健二

授業形態	講義 (8回)		担当者
授業計画	第1回	形成外科総論・形成外科の基本手技 形成外科で扱う疾患、基本手技 (切開縫合、植皮、皮弁、筋皮弁、遊離組織移植など)	浜島 昭人
	第2回	創傷治癒・瘢痕・ケロイド・瘢痕拘縮 創傷治癒について、瘢痕・ケロイド・瘢痕拘縮の症状、診断と治療	佐々木 淑恵
	第3回	口唇口蓋裂1 分類、発生、治療、手術法	佐々木 淑恵
	第4回	口唇口蓋裂2 二次手術	古賀 康史
	第5回	頭蓋・顔面の先天異常 頭蓋骨早期癒合症、顔面の先天異常、など	古賀 康史
	第6回	熱傷・褥瘡・難治性潰瘍 症状、診断と治療	古賀 康史
	第7回	顔面外傷・頭頸部再建手術 症状、診断と治療、手術法	古賀 康史
	第8回	総括 これまで学習した内容を総括する	浜島 昭人
科目の目的	形成外科で扱う疾患、特に顔面に関連する外傷や再建、先天異常などを中心として学習するとともに、形成外科で扱う疾患や様々な治療法を学習する。特に口唇口蓋裂などの多職種で治療を行う疾患を学ぶことで、治療における言語聴覚士の役割を理解する。		
到達目標	1. 形成外科で治療を行う疾患について説明できる。 2. 創傷治癒、形成外科の基本手技を理解する。 3. 口唇口蓋裂などの多職種で治療を行う疾患を理解する。		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術		
関連科目	歯科・口腔外科学、口腔運動医学、耳鼻咽喉科学		
成績評価方法・基準	定期試験 (筆記試験) 100%により成績を評価する。		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業はスライド閲覧を中心とするため、予習より復習に重点を置くこと。授業内容、配布資料や参考書などで1コマあたり4時間程度の準備学習が必要。		
教科書	「言語聴覚士テキスト 第4版」大森 孝一、永井 知代子、深浦 順一、渡邊 修 (編)、医歯薬出版		
参考書	「標準形成外科 (第6版)」平林慎一、鈴木茂彦 (編)、医学書院 「こどもの口唇裂・口蓋裂の治療とケア」大久保文雄、メディカ出版		
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照		
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照		
履修条件・履修上の注意	講義の順序・担当者は、都合により変更となる場合があります。		
アクティブ・ラーニングの実施	実施なし		
ナンバリング	SF-i-206		



	<p>第13回 口腔機能発達不全症に対する歯科医学的対応 摂食機能の獲得に関して学び、発達期における摂食機能障害、口腔機能発達不全症の症状及び診断基準と診断後の歯科医学的対応について理解する。</p> <p>第14回 中枢性疾患による口腔機能障害と歯科医学的対応 口腔に症状が現れる中枢性疾患にみられる口腔機能障害の特徴及び口腔機能障害に対する歯科医学的対応について代表的な補綴装置の適応症と補綴装置による機能回復について理解する。</p> <p>第15回 加齢による口腔機能障害と歯科医学的対応 加齢による口腔機能障害を学び全身と口腔の関係について理解する。オーラルフレイル、口腔機能低下症について学び口腔機能の低下が全身のフレイルに及ぼす影響について理解する。</p>	<p>戸谷 麻衣子</p> <p>戸谷 麻衣子</p> <p>戸谷 麻衣子</p>
科目の目的	言語聴覚士が言語聴覚療法を実施するために必要な口腔・顎・顔面の疾患について、病態、検査法、治療法を学ぶ。また、口腔・顎・顔面の機能障害の治療法と歯科口腔外科領域における言語聴覚士の役割を学ぶ。言語聴覚士として必要とされる科学技術や知識を備え、地域包括ケアの視点から、関連職種と連携しチーム医療を実践できる能力を身につけている。	
到達目標	1. 歯・口腔の構造・機能の概要が説明できる。2. 口腔の構造と構音摂食嚥下機能の関連と構音摂食嚥下障害に対する歯科治療が説明できる。3. 誤嚥性肺炎の発生機序、予防のための口腔ケアについて説明できる。4. 口腔外科で取り扱う疾患と治療の概要について理解する。5. 唇顎口蓋裂の病態と治療法を説明できる。6. 各種の口腔外科疾患により生じる言語障害と治療法を理解する。	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術	
関連科目	解剖学総論 局所解剖学 口腔運動医学 耳鼻咽喉科学 形成外科学	
成績評価方法・基準	定期試験100%：60点以上を合格とし、誤りの多かった設問について解説を行う。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備学習に必要な学習時間の目安は1コマあたり1時間。毎週水曜日にActiveAcademyに予習用資料と授業スライド資料を事前配布する（掲載期間1週間）。予習は予習用資料および教科書で授業内容について概要を理解しておく。復習は授業スライドや教科書・参考書を利用して講義内容の理解を深め知識の定着をはかること。また、授業終了後に自主学習用の小問題用紙を配布するので復習時に自宅学習で活用しその日の授業の知識定着に使用しても良い（回収はしない）。予習用資料は自宅学習用のため持参不要、授業スライドはメモを取るなど授業内で利用したい場合は各自ダウンロードや印刷をして持参してください。	
教科書	「最新言語聴覚学講座 臨床歯科医学・口腔外科学」道健一（医歯薬出版）	
参考書	「言語聴覚士のための基礎知識 臨床歯科医学・口腔外科学」夏目長門（医学書院）	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意	授業開始前に出席確認を兼ねた質問用紙を配布するので記名の上、その回の授業で理解が難しかった箇所や質問事項があれば記載してください。授業後回収し、次回授業までに個別に回答・対応します。質問が多い箇所があった場合は次回授業で補足の解説を行います。また、質問は授業後やオフィスアワーでも受け付けます。	
アクティブ・ラーニングの実施	症例検討による問題解決学習を予定しています	
ナンバリング	SF1-207	

講義科目名称： 口腔運動医学

授業コード： 2S060

英文科目名称： Phoniatics

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
二宮 洋			

授業形態	講義 (8回) パワーポイントを主体として行うが、適宜動画や録音などを用いて理解を深める。 一部、調査学習などアクティブラーニング形式で行う。	担当者
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、口腔・咽頭の構造と機能 出席率、今後の授業の進め方、レポート提出。期末試験についての概略。 摂食・嚥下機能、呼吸機能、発語のための構音機能。歯科・口腔外科学と共通する分野。歯科衛生士との連携。</p> <p>第2回 口腔・咽頭の病態と疾患 口腔・咽頭の疾患（歯科・口腔外科の領域との関係の理解）。構音への影響と治療におけるSTの役割。舌癌とその治療を含む。</p> <p>第3回 喉頭の構造と機能 発声器官としての喉頭の解剖学的構造を理解し発声のメカニズムを学習する。喉頭に対する諸検査の実際と意義について。</p> <p>第4回 喉頭の病態と疾患 嗄声をきたす喉頭疾患の診断と鑑別点及び治療法について学習する</p> <p>第5回 呼吸器、気管、食道の構造と機能 発声のための声道としての呼吸器気管の解剖学的構造及び機能について、また嚥下機能の第3相で役割を担う食道の構造と機能を学習する。</p> <p>第6回 呼吸器、気管、食道の病態と疾患 発声および摂食・嚥下に関して様々な影響をおよぼす、呼吸器、気管、食道疾患の病態と診断・治療法を学習する</p> <p>第7回 気管切開。喉頭摘出術後の代用医療 気道確保の手段としての気管切開術の適応と実際の手技、気管カニューレの種類や気管切開術後の管理について学習する。喉頭全摘術後の音声障害に対する代用音声の種類やその指導方法について学ぶ。</p> <p>第8回 まとめと過去の国家試験問題の検討 口腔運動医学の重要点をまとめて再学習する。STがどのような疾患および治療とリハビリテーションに関わるかを理解する。また関連する分野の過去の国家試験問題を検討し、その解答と解説を理解し学習する。国家試験には発生頻度の多くない疾患も出題される場合もあり、その点を考慮し学習する。</p>	<p>二宮 洋</p> <p>二宮 洋</p> <p>二宮 洋</p> <p>二宮 洋</p> <p>二宮 洋</p> <p>二宮 洋</p> <p>二宮 洋</p> <p>二宮 洋</p>
科目の目的	口腔運動医学は音声言語医学と大きく関連し、言語聴覚士としては非常に大切な分野の一つである。言語聴覚士としては臨床に携わる言語聴覚士のみではなく、教育や福祉方面で活躍する言語聴覚士にとっても重要な知識の一つである。その重要な課題であり、呼吸や言語にも関係する医学の教育を学習する。	
到達目標	以下の点を到達目標とする。 1. 摂食・嚥下・気管食道系疾患の概略を説明し、その治療および言語聴覚療法の概略と進め方を説明できる。 2. 関連した部位の検査の意義と目的を説明できる。 3. 対象の年齢や知的レベルに即した検査および言語聴覚療法を選択できる。 4. 関連した機能の検査や訓練の実施内容、その成果に関し、正確にカルテに記録を記載できる。	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術	
関連科目	耳鼻咽喉科学、局所解剖学、基礎生理学、歯学、口腔外科学、言語聴覚障害論、音声学、言語学	
成績評価方法・基準	小レポート、および期末試験にて総合評価する。総合評価にて60点未満は追試験の対象となる。全レポートを20点満点とし各レポートを点数化し、総合成績に加算する。期末試験は80点満点とし、総合成績に加算する	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	教科書・講義資料をもとに授業該当箇所の予習と復習を行う。(30 時間分相当)	
教科書	特に指定しない。	
参考書	「新耳鼻咽喉科学」切替一郎原著、野村恭也監修、加我君孝編集 南山堂 「言語聴覚士のための基礎知識 耳鼻咽喉科学第2版」鳥山稔、田内光編 医学書院	

	「言語聴覚士のための講義ノート 新耳鼻咽喉科学入門」中野雄一著 考古堂書店
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照
履修条件・履修上の注意	
アクティブ・ラーニングの実施	調査課題を実施する
ナンバリング	SFi-208

講義科目名称： 言語医学

授業コード： 2S061

英文科目名称： Logopedics

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
鈴木 倫	遠藤 俊介	高橋 秀寿	

授業形態	講義およびアクティブラーニング		担当者
授業計画	第1回	オリエンテーション、音声と言語の相違 スピーチチェーンにおける感覚、運動、言語の過程とその障がい。その中で言語の過程の障がいの概要（運動系医学、聴覚医学との特徴の違いを含む）。基礎的解剖の復習。	鈴木 倫
	第2回	言語器官の構造と機能 I 失語症、高次脳機能障害、認知症の発症メカニズム、器官の構造と疾患、病態について	高橋 秀寿
	第3回	言語器官の構造と機能 II 第2回の続き	高橋 秀寿
	第4回	言語障害の病態 言語障害をもたらす疾患のうち、主として中枢(脳)の障害についてその障害部位と病名の関係を学ぶ。具体的には、失語症、高次脳機能障害、認知症。	高橋 秀寿
	第5回	言語機能の検査法 失語症、高次脳機能障害、認知症の検査法。検査における医学的情報の意義とST的訓練・支援における医学的情報の重要性。	鈴木 倫
	第6回	言語系障がいのリハビリテーション（小児） 知的発達遅滞、各種発達障がい（自閉症スペクトラム、学習障害、ADHD）の医学的治療と機能訓練。医学的治療との連携。医学的治療の限界。	遠藤 俊介
	第7回	言語系障がいのリハビリテーション（成人） 失語症、高次脳機能障害、認知症の医学的治療と機能訓練。医学的治療との連携。医学的治療の限界。	鈴木 倫
	第8回	言語障害の生活・参加支援 まとめと国家試験の傾向 ICFにそった生活支援や参加支援における医学的側面。全体のまとめと国家試験の具体的傾向。	鈴木 倫
科目の目的	言語聴覚士が行うリハビリテーションにおける言語療法学支援と医学的支援の違いを理解する。さらに、医学的支援を有効にするための言語聴覚士の役割と方法を学修する、また、小児と成人の言語系障害の共通点と相違点を理解し、それにともなう医学的支援の相違も理解する。 医学的支援の限界を理解し、言語聴覚療法的に補う方法、医学的治療の限界と社会モデルの意義を理解する。		
到達目標	以下の点を到達目標とする。 1. 言語系障害の疾患、症状、治療など医学的な支援について理解し説明できる。 2. 言語系障害の医学的支援と言語聴覚療法の相違点や関連性を説明できる。 3. 小児と成人の言語系疾患の特徴、相違点を説明できる。 4. 医学的治療の限界とそれに対する社会モデルの意義を理解する。		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術		
関連科目	局所解剖学、基礎生理学、言語聴覚障害論、口腔運動医学、耳鼻咽喉科学、聴覚医学、言語発達学、リハビリテーション医学		
成績評価方法・基準	授業中のグループワーク貢献度20点、期末テスト（筆記試験）は80点として総合評価を行う。		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	次回の講義内容を参考書・インターネットなどを参考とし準備学習をする。学習時間の目安は約2時間とする。		
教科書	特に指定しない。		
参考書	参考書：「耳鼻咽喉科疾患 ビジュアルブック第2版」落合慈介、中尾一成他編著、学研プラス 「言語聴覚士のための基礎知識 耳鼻咽喉科学第2版」鳥山稔、田内光編 医学書院 「新耳鼻咽喉科学」切替一郎原著、野村恭也監修、加我君孝編集 南山堂		
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照		

国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照
履修条件・履修上の注意	
アクティブ・ラーニングの実施	一部アクティブラーニング。授業内でディスカッション。
ナンバリング	SFi-209

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
長井 今日子			

授業形態	講義 (8回) パワーポイントを主体として行うが、適宜動画や録音などを用いて理解を深める。	担当者
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、外耳・中耳の構造と機能 出席率、今後の授業の進め方、レポート提出、期末試験についての概略の説明を受け理解する。 耳鼻咽喉科学にて学んだ基本的な外耳・中耳の構造と機能をさらに詳しく学ぶ。外耳においては耳介・外耳道の詳細な構造と機能、中耳においては鼓膜・耳小骨・などの詳細な構造と、音の機械的なエネルギーの増強や伝搬様式を学ぶ。</p> <p>第2回 外耳・中耳の病態、内耳・聴覚神経路・聴覚中枢の構造と機能 聞こえの経路である外耳、中耳の病態と、内耳から聴覚中枢までの聴覚伝導路の構造、機能について理解する。特に神経の解剖学的関係や生理学的な関係を学ぶ。音の機械的なエネルギーを神経信号に変換する仕組み、聴神経から聴覚神経路を経て聴覚中枢へ神経信号が伝達される仕組み、大脳の聴覚中枢によることばの認識そして大脳にある発語の中核との神経の繋がりについて学ぶ。 聞こえの経路を理解し、障害部位によって難聴を分類すると伝音難聴と感音難聴に分けられる。それぞれの難聴の代表的な疾患について理解する。ここでは、スピーチチェーンの感覚過程との関連付けを明確にすることが重要である。</p> <p>第3回 聴覚の検査法 ①標準純音聴力検査、標準語音聴力検査、単語理解度検査など聴覚評価のための検査法およびその方法を学習する。聴覚の検査法は言語聴覚士の行う主要な検査法の一つである。また検査方法も対象となる年齢や知的な能力により工夫して適切に提示しなければいけない。結果に関しては、耳科的診断だけでなく、言語聴覚障害リハビリテーション（聴覚補償、言語聴覚訓練など）に関する判断についても学ぶ。 それぞれの検査法について要点を学習するとともに、検査結果から、難聴の障害部位（伝音系、感音系）がどこであるか、推測できるように理解し、聴覚補償や治療、リハビリテーションにおける両者の特徴、違いを理解する。 ②新生児聴覚スクリーニングの意義を理解し、乳幼児の難聴精査として、各種遊戯聴力検査方法や適応年齢と、他覚的検査（聴性脳幹反応=ABR, 定常聴性反応=ASSR, OAE）の方法、利点、欠点などについて学ぶ。</p> <p>第4回 外耳・中耳に起こる先天性奇形、炎症、良性および悪性の腫瘍などの症状や治療を学ぶ。 外耳・中耳の疾患は小児に発症することが多く、その影響などを考え適切なアドバイスが出来るように学習する。またその方法や内容を年齢相応に考え実施できるような知識を学習する。 内耳・聴覚神経路・聴覚中枢の神経路に起こる病態と疾患名を理解する。内耳より中枢の神経路の障害はその障害部位により症状や検査結果が異なってくる。神経経路の末梢か中枢かというようなどの部位による障害か、種々の検査結果を参考として障害部位の判断ができるような知識を学ぶ。 第3回と合わせて、伝音系と感音系の理解を深め、難聴の障害部位（伝音系、感音系）がどこであるか、推測できるように理解し、聴覚補償や治療、リハビリテーションにおける両者の特徴、違いを理解する。 聴覚補償の手段となる、補聴器や人工内耳の学修（第6回）にもつなげる。</p> <p>第5回 基礎的な音響学を学び、補聴器の効果、補聴器装用の適応となる難聴の原因疾患、難聴の聴力レベルとコミュニケーション障害の関係について学ぶ。 補聴器の構造、種類、補聴器の電気音響学的特性（補聴器特性測定機器）を理解し、適合させる難聴者（児）に対して、適切な機種選択や、補聴器の調整が重要であることを学ぶ。特に、補聴器の最大出力音圧と、利得周波数レスポンスの適切な調整は、補聴器の語音聴取の改善に重要であることを理解する。補聴器調整が適切に行われているか否か、補聴器の装用効果の評価方法を学び、補聴器の微調整や、装用指導について学ぶ。 また、近年のテクノロジーの進歩や、音声のデジタル化により、難聴者（児）の補聴器に対する様々な訴えに対する各種、補聴器の機能の進化について学ぶ。 補聴器装用を必要とする難聴者（児）に対して、補聴器購入時の補助があるかどうかアドバイスできるようにする。身体障害者手帳の聴覚障害に該当するか否か、また、小児では、補聴器が必要であるが、身体障害者手帳に該当しなくても軽中等度難聴に対する補聴器助成の制度を理解しておくことが重要である。</p>	<p>長井今日子</p> <p>長井今日子</p> <p>長井今日子</p> <p>長井今日子</p> <p>長井今日子</p>

	<p>第6回 人工内耳について原理、適応や評価方法について理解する。難聴の補助具としては補聴器が代表であるが、その効果には限界がある。補聴器の機能と限界を学び聴覚障害を持つ人に適切にフィッティング出来るよう、その理論と調整方法の概略について学ぶ。また人工内耳の原理を学び、適応条件（成人例と、小児例）を理解し、人工内耳が適応されるかどうか、言語聴覚士として行うべき評価方法を学ぶ。さらに、人工内耳のマッピングの原理、手法を理解し、難聴者に適切なマッピングが行えるように理解する。また補助手段として、日常生活用具や手話そして指文字などあるが、それらの効果と限界についても学ぶ。</p> <p>第7回 人工内耳の歴史と、機能や形態などの性能の進化について学ぶ。人工内耳以外の各種埋め込み型補聴器の、原理、適合となる疾患について学ぶ。さらに、聴覚障害と療育、リハビリテーションについて学ぶ。聴覚障害は小児と成人では理論やSTの方法が異なる。また対象となる人の知的レベルなどによっても個々に合わせた言語聴覚療法(ST)が必要となる。それらの個々の特性によって言語聴覚療法の方法を工夫できるように考え、個人に合った言語聴覚療法を行えるように理解し実施することを学習する。特に、小児の言語習得の支援の必要性と方法については、理解を深める必要がある。</p> <p>第8回 聴覚医学のまとめと過去国家試験問題の検討 聴覚医学の重要点をまとめて再学習する。また関連する分野の過去の国家試験問題を検討し、その解答と理由を理解し学習する。国家試験には発生頻度の多くない疾患も出題される場合もあり、その点を考慮し学習する。</p>	<p>長井今日子</p> <p>長井今日子</p> <p>長井今日子</p>
科目の目的	本講義ではSTの医療業務(保険診療業務)として重要な位置をしめる耳鼻咽喉科外来での種々の聴覚検査の種類と方法、聴覚の障害を起こす疾患、またその治療法とリハビリテーションなどを学ぶ。将来の臨床や教育に生かせるようにその詳細を学習する。	
到達目標	医療現場にて聴覚検査の依頼があった場合に、的確な検査が出来るように学習する。また障害の種類や程度は対象となる患者さまの年齢や知的レベルによっても異なるため、そのような個々の特性を考慮した検査や言語聴覚療法が実施できるようにする。	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術	
関連科目	口腔解剖学、基礎生理学、耳鼻咽喉科学、聴覚医学、言語聴覚障害論	
成績評価方法・基準	期末試験（100%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	次回の講義内容を参考書、インターネットなどを参考として準備学習をする。学習時間の目安は4時間程度とする。	
教科書	①標準言語聴覚障害学「聴覚障害学」第3版：監修 藤田郁代、編集 中村公枝他、医学出版 ②Crosslink 言語聴覚療法テキスト「聴覚障害学」：黒田 生子編集、MEDICAL VIEW社出版	
参考書	①言語聴覚士国家試験出題基準 令和5年4月版：監修 公益財団医療研修推進財団 ②言語聴覚士国家試験必須ポイント2026、ST基礎科目：医歯薬出版株式会社編集	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意	1. 講義は全講義を受講すること。遅刻・早退も原則として認めない。 2. やむを得ない事由（病気・弔事・天災など）により欠席する場合は、所定の手続きを取ることとなる。	
アクティブ・ラーニングの実施	実施なし	
ナンバリング	SF1-210	

講義科目名称： 臨床心理学

授業コード： 2S063

英文科目名称： Clinical Psychology

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
伊藤 栞			

授業形態	(一部ワークやグループワークを行う) 講義 (15回)		担当者
授業計画	第1回	こころとは何か? key ward: 心理学, 臨床心理学	伊藤 栞
	第2回	臨床心理学とは key ward: 科学性, 援助対象と領域, アセスメント	伊藤 栞
	第3回	臨床心理学の基礎理論 key ward: 生物・心理・社会モデル, 正常と異常, 疾病と障害, 受容	伊藤 栞
	第4回	アセスメントの理論と技法 key ward: アセスメント, 面接法, 観察法	伊藤 栞
	第5回	アセスメントの理論と技法 key ward: アセスメント, 心理検査, 信頼性と妥当性	伊藤 栞
	第6回	精神医学とその状態を捉える心理検査 key ward: 精神医学と心身医学, 心理検査	伊藤 栞
	第7回	援助の方法と過程: 力動的アプローチ key ward: 精神分析療法, 欲求不満, 葛藤, 防衛機制, リビドー	伊藤 栞
	第8回	援助の方法と過程: 力動的アプローチ key ward: 分析心理学, 交流分析	伊藤 栞
	第9回	援助の方法と過程: 人間論的アプローチ key ward: 来談者中心療法, 非指示的アプローチ, 自己理論, 聴き手の態度	伊藤 栞
	第10回	援助の方法と過程: 人間論的アプローチ key ward: フォーカシング, フェルトセンス	伊藤 栞
	第11回	援助の方法と過程: 認知行動論的アプローチ key ward: 行動療法, 学習理論	伊藤 栞
	第12回	援助の方法と過程: 認知行動論的アプローチ key ward: 認知療法, 認知行動療法	伊藤 栞
	第13回	援助の方法と過程: システム論的アプローチ key ward: 家族療法, ブリーフセラピー	伊藤 栞
	第14回	援助の方法と過程: コミュニティアプローチ key ward: コミュニティ生態学的モデル	伊藤 栞
	第15回	援助の方法と過程: 日本発祥の心理療法 key ward: 森田療法, 動作法, 内観療法	伊藤 栞
科目の目的	臨床心理学とは、こころをより良い状態へと導くために、心理学の理論や知識そして心理学的技法を用いて専門的援助を行う心理学の応用的な一分野である。本授業では、臨床心理学の基本概念、研究法、心理検査、心理療法および障害受容などについて学び、臨床心理学的視点が対象者理解および介入にどのように役立つかを学び、対象者を身体的側面・心理的側面・社会的側面の相互作用から理解し、支援するための基礎的態度と考え方を身につけることを目指す。		
到達目標	1. 臨床心理学の基本概念を説明できる。 2. 臨床心理学で用いられる基本的な心理支援の理論と方法を説明することができる。 3. 臨床心理学で対象となる悩みや障害について、その特徴や心理支援について説明することができる。 4. 臨床場面における対象者の心理と対象者やその家族とのコミュニケーションの方法について理解を深め、良好な関係を築けるようになる。		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術		
関連科目	【教養・共通基盤科目群】心理学, 教育学, 生命倫理, 哲学, 人間と宗教, 家族社会学, 生活文化と医療, 多職種理解と医療コミュニケーション 【専門基礎科目群】生涯発達心理学, 学習・認知心理学, 心理測定法 【専門科目群】全科目		
成績評価方法・基準	成績評価は次のように行う。①授業時の小レポート (30%), ②期末レポート (70%) なお、小レポートに対するフィードバックは、講義の冒頭に行う。		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	教科書の該当章を読み、どのような内容について学ぶのか事前におさえておく。不明な点や気になる点があれば、授業時に理解がすすむようにノートなどにまとめるなど準備しておく。準備学習時間は1.5時間程度。		
教科書	山口加代子・植田幸彦・久保義郎 (2024) . 最新リハビリテーション基礎講座 臨床心理学 医歯薬出版株式会社		
参考書	内山靖・藤井浩美・立石雅子 (編) (2020) 「リハベーシック心理学・臨床心理学」 医歯薬出版		

	株式会社
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照
履修条件・履修上の注意	特になし
アクティブ・ラーニングの実施	双方向アンケート（リアクションペーパーによるコミュニケーション）
ナンバリング	SFj-201

講義科目名称： 生涯発達心理学

授業コード： 2S064

英文科目名称： Life-Span Development Psychology

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	必修
担当教員	担当者		
北 義子			

授業形態	講義15回 毎回の授業の最後に授業の「まとめ」を提出する。		担当者
授業計画	第1回	ヒトとは 直立二足歩行の意義・二足歩行からもたらされたヒト特有の疾患・ヒトの6大特徴	北 義子
	第2回	生涯発達 発達の定義・人の生涯に影響を与える3つの要因・2025年問題・平均寿命と健康寿命の差・人間発達期の区分・成長・発達・成熟・発育の原則	北 義子
	第3回	胎芽・胎児期 受精卵期・胎芽期・胎児期	北 義子
	第4回	乳児期 ピアジェの認知構造・乳児実験における観察法・エリクソンのライフサイクル・コミュニケーションの発達段階・アタッチメント	北 義子
	第5回	幼児期前期 粗大運動の発達・微細運動の発達・社会性・言語の発達・エリクソンの発達図式・児童虐待	北 義子
	第6回	幼児期後期 粗大運動の発達・微細運動の発達・自己中心性・こころの理論・社会的遊びの発達の分類	北 義子
	第7回	学童期 勤勉性と劣等感・脱中心化・向社会性	北 義子
	第8回	青年期前期 思春期と青年期・自我同一性・モラトリアム・自己受容・エゴグラム性格診断テスト	北 義子
	第9回	青年期後期 自我同一性・アイデンティティ・ステイタス・マージナル・マン・ピーター・パン・シンドローム・シンデレラ・コンプレックス・合理的配慮・トランスジェンダー	北 義子
	第10回	成人期前期 親密性と孤独・職業的アイデンティティ・仁術・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・ニート・人口置き換え水準	北 義子
	第11回	成人期中期 世代性と停滞・コーピング・スタイル・M字カーブ・3歳児神話	北 義子
	第12回	成人期後期 成熟期・同一性再確立・自己肯定感・熟年の自殺	北 義子
	第13回	高齢期 統合と絶望・結晶性知能と流動性知能・人格の尖鋭化・サクセスフル・エイジング・プロダクティブ・エイジング・ロコモティブ症候群・サルコペニア・フレイル・地域包括ケア	北 義子
	第14回	発達理論 単一要因説・生得説・経験説・双生児統制法・成熟優位説・レディネス・反射階層理論・行動主義心理学・輻輳説・相互作用説・横断研究・縦断研究・非線形打ち消し効果	北 義子
	第15回	発達理論 複雑系科学・創発・ゲシュタルト心理学・最近接発達領域	北 義子
科目の目的	人間を生涯にわたり発達する存在としてとらえ、生命の誕生から小児期、青年期、成人期(老年期)を経て死に至るまでの量的・質的变化について学ぶ。		
到達目標	人間の発達には、受胎、胎生期、新生児期、乳幼児期、児童期、青年期、成人期、老人期、死というライフステージに分けられる。障害のある人への支援を行う専門職には、機能障害の理解に加え、そうしたライフステージの特徴を踏まえて支援を行うことが求められている。そして、ライフステージの各時期に発現する行動を広く、深く理解し、各時期に生じやすい発達上あるいは健康上の課題を説明できることを目標とする。		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術		

関連科目	臨床心理学, 学習・認知心理学, 心理測定法
成績評価方法・基準	評価点=毎回提出する「まとめ」(1点×15回=15%)＋定期試験成績(85%)。100点満点換算で60点以上を合格とし単位を与える。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業計画に示される授業内容の教科書該当部分を予習する(各回45分程度)。 授業後に配布される「標準的まとめ」を復習する(各回45分程度)。
教科書	最新言語聴覚講座シリーズ『心理学』, 医歯薬出版, 2025
参考書	鈴木光太郎著: ヒトの心はどう進化したのかー狩猟採集生活が生んだもの, 筑摩書房, 2013
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照
履修条件・履修上の注意	1回の「まとめ」の提出に対し1点が与えられる。ただし、正答が60%を超えない場合、「まとめ」とは認めない。毎回の授業終了後、「標準的まとめ」をActive Academyにて配信する。定期試験は「標準的まとめ」から出題される。
アクティブ・ラーニングの実施	実施なし
ナンバリング	SFj-101

講義科目名称： 学習・認知心理学

授業コード： 2S065

英文科目名称： Psychology of Learning and Cognition

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	2単位	必修
担当教員	担当者		
河内 和直			

授業形態	講義 (15回)	担当者
授業計画	<p>第1回 学習・認知研究の心理学史 心理学史/行動主義/認知心理学</p> <p>第2回 視覚・聴覚のしくみ 感覚・知覚・認知と言語聴覚機能/感覚モダリティ/感覚の感度と範囲</p> <p>第3回 視覚・聴覚の研究法 精神物理学/等ラウドネスレベル曲線/メル尺度, ソーン尺度</p> <p>第4回 知覚の働き 色彩, 奥行き, 運動の知覚/知覚の恒常性/文化と知覚</p> <p>第5回 高次の認知 パターン認識/顔の認知/認知地図</p> <p>第6回 学習の基礎 心理学における「学習」/S-R連合理論/認知理論</p> <p>第7回 条件づけ学習 刺激と反応/古典的条件づけ/オペラント条件づけ</p> <p>第8回 認知的学習 認知構造(スキーマ)/洞察学習/観察学習</p> <p>第9回 様々な学習と関連心理要因 回避学習/技能学習/動機づけ</p> <p>第10回 記憶のしくみ 記憶の過程/記憶の区分/記憶に影響を及ぼす要因</p> <p>第11回 記憶のモデル 二重貯蔵モデル/ワーキングメモリ/忘却のメカニズム</p> <p>第12回 問題解決と概念 問題解決/ヒューリスティクス/概念とカテゴリー</p> <p>第13回 知識のモデル 階層的ネットワーク・モデル/活性化拡散モデル/スキーマ理論</p> <p>第14回 言語とコミュニケーション 非言語的・前言語的コミュニケーション/言語的コミュニケーション/言語理解と産出</p> <p>第15回 知能心理学 知能の因子論/知能検査/加齢と知能</p>	河内 和直 河内 和直 河内 和直 河内 和直 河内 和直 河内 和直 河内 和直 河内 和直 河内 和直 河内 和直 河内 和直 河内 和直 河内 和直 河内 和直 河内 和直 河内 和直
科目の目的	<p>一般に学習というと、学校での勉強のみを連想しがちであるが、心理学における「学習」は経験によって生じる行動や認知の変容一般を指している。本講義においては広義の認知心理学の枠組みのもと、行動主義が提唱した学習原理と現在の認知心理学の源流ともなった認知理論の学習原理の2つの理論体系について理解することを目的とする。</p> <p>また、人間の基本的な認知過程にかかる感覚や知覚の働き、学習の結果として生じる記憶や知識、言語獲得、知的能力の特性と個人差についても心理学の研究モデルの概説を通して理解することも合わせて目的とする。</p>	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心理学における「学習」の基本的な考え方と理論について理解し、説明することができる。</li> <li>2. 人類を含む生活体の認知と行動の関係について多角的な視点を持つことができる。</li> <li>3. 知覚や記憶、知能などの心理学的概念を理解することができる。</li> <li>4. 言語に関連する認知心理学的知見を理解することができる。</li> </ol>	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術	
関連科目	心理学, 聴覚心理学, 教育心理学, 臨床心理学, 心理測定法	
成績評価方法・基準	定期試験(レポート形式・70%)に、中間レポート(30%)の成績を加味して評価を行う。小レポートの解説は実施回の次の講義時の冒頭に行う。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各単元について、4時間程度の予習・復習を行うことを目安とする。	
教科書	【教科書】 山田弘幸【編】(2020). 言語聴覚士のための心理学 第2版, 医歯薬出版株式会社	
参考書	【参考書】 木山幸子・大沼卓也・新国佳祐・熊可欣(2022). 学習・言語心理学, サイエンス社 芝田征司・山本絵里子(2024). 知覚・認知心理学入門, サイエンス社	

	森 敏昭・井上 毅・松井孝雄 (1995). グラフィック認知心理学, サイエンス社
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照
履修条件・履修上の注意	講義中の私語, スマートフォン・携帯電話の使用, 他科目の学習は禁止します.
アクティブ・ラーニングの実施	実施する. 中間レポートの実施とそのフィードバック.
ナンバリング	SFj-202

講義科目名称： 心理測定法

授業コード： 2S066

英文科目名称： Psychological Measurement Method

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	2単位	必修
担当教員	担当者		
伊藤 栞			

授業形態		担当者
授業計画	※今年度開講せず（2025年度カリキュラム）	
科目の目的		
到達目標		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術	
関連科目		
成績評価方法・基準		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安		
教科書		
参考書		
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施		
ナンバリング	SFj-301	

講義科目名称： 言語学

授業コード： 2S067

英文科目名称： Linguistics

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	必修
担当教員	担当者		
鈴木 倫			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 言語学概論。STにとっての言語学の必要性を理解する演習（言語処理過程） AL=アクティブラーニング	鈴木 倫
	第2回 言語学と言語障がいとの具体的な関連 AL	鈴木 倫
	第3回 日本語の特徴、構造を理解する。STが臨床を行うのに改めて日本語を学ぶ必要性 一部AL	鈴木 倫
	第4回 日本語の品詞、形態と役割 1 一部AL	鈴木 倫
	第5回 日本語の品詞、形態と役割 2 一部AL	鈴木 倫
	第6回 日本語の格助詞、形態と役割 1 一部AL	鈴木 倫
	第7回 日本語の格助詞、形態と役割 2 一部AL	鈴木 倫
	第8回 日本語のボイス、形態と役割 1 一部AL	鈴木 倫
	第9回 日本語のボイス、形態と役割 2 一部AL	鈴木 倫
	第10回 日本語のテンス、形態と役割 1 一部AL	鈴木 倫
	第11回 日本語のテンス、形態と役割 2 一部AL	鈴木 倫
	第12回 日本語の人称、形態と役割 一部AL	鈴木 倫
	第13回 日本語の統語構造と「は」および従属節での格の標識の消失. 障がい者にとっての日本語の習得 一部AL	鈴木 倫
	第14回 日本語の助詞と助詞の消失の習得のための訓練プログラム立案 一部AL	鈴木 倫
	第15回 言語の一般的特徴（生成文法、共時論、通時論、生産性、線状性、音声・文字言語、恣意性、二重分節性など） AL	鈴木 倫
科目の目的	患者様が習得、再学習する対象としての日本語について、言語聴覚士として評価課題や訓練課題において言語学的知識をどのように活用し、言語学的な分析をどのように行いうるかについて理解する。それにより、障がいを持つ方の発話や書いたものを分析し、必要な習得プログラム構築できるようにする。	
到達目標	言語学の基本的な概念を説明できる。日本語の特色、日本語のシンタックス、語彙、表記法（かな、カタカナ、漢字）などの規則と特徴を理解し、言語レベルの障がいの検査・評価・訓練にどのように応用できるかを理解する。	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術	
関連科目	失語症学、高次脳機能障害学、言語聴覚障害学概論	
成績評価方法・基準	小レポート20%、ALの参加状況20%、筆記試験、60%とする。筆記試験は、100点満点換算で60点以上を合格とする。小レポートは、内容で評価し、また、出席した授業について未提出の場合は、0点とする。全体で、100点満点換算の60点以上を合格とする。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	毎回事前演習課題を提示するので、回答を準備すること。約1時間の準備を要する。基礎的な学問である言語学と言語障害がどう結びつくかをしっかり考えること。	
教科書	教科書：野田尚史「はじめての人の日本語文法」くろしお出版 1991年 配布資料	
参考書	無し	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	

国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照
履修条件・履修上の注意	
アクティブ・ラーニングの実施	授業内でテーマを設定し、ゼミ単位のディスカッションを行う。
ナンバリング	SFk-101

講義科目名称： 音声学

授業コード： 2S068

英文科目名称： Phonetics

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	2単位	必修
担当教員	担当者		
石川 幸伸	石山 寿子	酒井 哲郎	

授業形態	講義 (15回)	担当者
授業計画	<p>第1回 音を記述する体験 (AL)。音声とは。調音とは。音声と言語療法の学問史。AL=アクティブラーニング</p> <p>第2回 発声発語器官の描画 (AL)。発声発語器官を理解する。空気の流れの説明。</p> <p>第3回 発話障がい体験 (AL) 音声記号での記述と、その他の方法での記述の違い。</p> <p>第4回 母音と子音。アクセント。IPA。母音の三角形の自己観察・記述 (AL)</p> <p>第5回 発声発語器官と機能：呼吸器と喉頭。軟口蓋。舌。顎。口唇。</p> <p>第6回 2重分節と音素、有声、無声、鼻音：母音と子音の違い。声道模型提示と説明。</p> <p>第7回 子音の構音点、構音方法、有声無声の観察記述 (AT)。有声、無声、鼻音の産生の仕方解説。</p> <p>第8回 閉鎖音・摩擦音：閉鎖音・摩擦音とは何か、その産生の仕方。外国語も含む。</p> <p>第9回 母音：母音の三角形にそって、上下、前後の関係を知る。</p> <p>第10回 国際音声字母。構音検査と調音音声学の関連性を理解する。音声学と音韻論。</p> <p>第11回 音声記号と、他の記号での記述の違い (AL)。プロソディ定義と範囲。外国語も含めて。</p> <p>第12回 プロソディの機能。分析。日本語のプロソディ。プロソディの記述 (AL)</p> <p>第13回 音韻の獲得とその順序。</p> <p>第14回 摂食・嚥下運動と構音運動 (AL)。</p> <p>第15回 摂食・嚥下の獲得と異常</p>	
科目の目的	音声の産生の仕方について、発声発語の検査や訓練手技に繋がる実用的なレベルでの理解する。	
到達目標	発声発語器官が説明でき、子音と母音の違いが説明できる。 国際音声記号にそって代表的な構音点、構音方法が説明できる。 プロソディとは何か説明できる。 言語障害の記述でなぜ国際音声記号を用いるか説明できる。	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術	
関連科目	病理音声学。言語学。発声発語・嚥下障害評価法。器質性・機能的発話障害支援論。運動性発話障害支援論。非流暢性発話支援論。摂食・嚥下障害支援論。	
成績評価方法・基準	授業に関する小レポート (20%)、ALの参加状況とプレゼン内容 (20%)、筆記試験 (60%)。授業レポート、AL、筆記試験 (各100点満点) の総合点 (重み付けは、上記の比率とする) で評価するが、いずれか一つでも60点未満の場合は、不合格。また、小レポートの未提出 (欠席時は除く) があれば、不合格とする	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	30分程度の毎回の予習。復習として授業に関する小レポート作成に30分。	
教科書	斎藤純男 日本語音声学入門(改訂版) 三省堂 2006年	
参考書	広瀬肇他 「言語聴覚士のための運動障害性構音障害学」 医歯薬出版	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」 参照	

国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照
履修条件・履修上の注意	
アクティブ・ラーニングの実施	各回のテーマについて、ゼミ単位でディスカッションし、発表する。
ナンバリング	SFk-201

講義科目名称：音響音声学

授業コード：2S069

英文科目名称：Acoustic Phonetics

対象カリキュラム：2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	必修
担当教員	担当者		
坂崎 弘幸	石川 幸伸		

授業形態	講義形式	担当者
授業計画	第1-2回 音の波形と基本的性質の表現方法	坂崎 弘幸
	第3-4回 音の強さを表現する（パスカルとデシベル）	坂崎 弘幸
	第5-6回 音の周波数（ヘルツ）と共鳴（フィルタ）	坂崎 弘幸
	第7-8回 音の周波数スペクトルとその表示方法	坂崎 弘幸
	第9-10回 いろいろな音の音響特性を表現する	坂崎 弘幸
	第11回 音のデジタル記録/音声の生成モデル	石川 幸伸
	第12回 国家試験で問われる音響音声学	石川 幸伸
	第13-15回 音声の音響特性（サウンド・スペクトログラム）	石川 幸伸
科目の目的	言語聴覚障害学の専門基礎分野として、音響音声学に関する知識・方法を理解すること。	
到達目標	1. 音の物理学的性質を理解し、説明ができる。 2. 音を表す単位、解析法、表示法を理解し、解釈および説明ができる。 3. 音声生成に関わる音響理論を理解し、説明ができる。	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術	
関連科目	聴覚心理学、音声学	
成績評価方法・基準	筆記試験（定期試験50%、講義中に実施する小テスト50%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	教科書・講義資料をもとに授業該当箇所の予習と復習を行う（30時間相当）。高校数学の対数を復習しておくこと。音響学、知覚心理、スピーチサイエンスなどに関連する書籍を読むなど、関心を高めつつ受講することが望ましい。	
教科書	ゼロからはじめる音響学（講談社）：聴覚心理学と共通	
参考書	新ことばの科学入門 第2版（医学書院） 言語聴覚士の音響学入門 2訂版（海文堂） 音のなんでも小辞典（講談社ブルーバックス）	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意	講義に教科書を忘れずに持参すること。	
アクティブ・ラーニングの実施	なし	
ナンバリング	SFk-102	

講義科目名称： 聴覚心理学

授業コード： 2S070

英文科目名称： Psychology of Hearing

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
北 義子			

授業形態	講義形式	担当者
授業計画	第1回 言語聴覚士と聴覚心理学	北 義子
	第2回 音の3要素	北 義子
	第3回 音の大きさの知覚（可聴範囲、等ラウドネス曲線）	北 義子
	第4回 音の高さの知覚（ラウドネスとピッチ）	北 義子
	第5回 マスキング	北 義子
	第6回 両耳聴	北 義子
	第7回 環境と聴覚①（知覚と情景分析）	北 義子
	第8回 環境と聴覚②（音環境と騒音）	北 義子
科目の目的	言語聴覚障害学の専門基礎分野として、聴覚心理学に関する知識を理解すること。	
到達目標	1. 音と心理物理学的関係を理解し、説明ができる。 2. 音の知覚に関わる単位、表示法を理解し、説明ができる。 3. 音環境と知覚心理学に関わる理論を理解し、説明ができる。	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術	
関連科目	音響学	
成績評価方法・基準	筆記試験（定期試験80%、授業内小テスト20%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	教科書・講義資料をもとに授業該当箇所の予習と復習を行う（30時間相当）。音響学、知覚心理、スピーチサイエンスなどに関連する書籍を読むなど、関心を高めつつ受講することが望ましい。	
教科書	ゼロからはじめる音響学（講談社）	
参考書	言語聴覚士の音響学入門 2訂版（海文堂出版） 音響聴覚心理学（誠信書房）	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施	なし	
ナンバリング	SFk-103	

講義科目名称： 言語発達学

授業コード： 2S071

英文科目名称： Development of Speech and Language

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	2単位	必修
担当教員	担当者		
北 義子	遠藤俊介		

授業形態	オムニバス方式／全15回 講義8時間 演習7時間		担当者
授業計画	第1回	音声言語の普遍的特徴とスピーチチェーン、A. S. について 音声言語の普遍的特徴・象徴性・恣意性・線状性・統語性・再帰性・形態素・形態素・音素・二重分節性・カテゴリー知覚・言語の構成要素	北義子
	第2回	音声言語の普遍的特徴とスピーチチェーン 音声言語の普遍的特徴・象徴性・恣意性・線状性・統語性・再帰性・形態素・音素・二重分節性・カテゴリー知覚・言語の構成要素	北義子
	第3回	前言語期の発達：コミュニケーション行動の発達、発声行動・言語音知覚の発達、感覚運動的知能の発達 コミュニケーション機能獲得段階・社会的参照・共同注意・喃語・分節化 ピアジェの発達段階論・感覚運動期・前操作期・具体的操作期・形式的操作期	北義子
	第4回	1～2歳の言語発達：初語の出現・語彙の増加、言語発達を促す大人の関わり、構文の発達、象徴機能の発達 過大汎用・語彙爆発期・即時マッピング・制約理論・発達の最近接領域・インリアル・アプローチ・記号・シグナル・インデックス・シンボル・延滞模倣・ふり遊び・見立て遊び・	北義子
	第5回	幼児前期の言語発達 語彙・構文の発達、談話能力の発達、A. S. について	遠藤 俊介
	第6回	幼児後期の言語発達 文知覚のストラテジー・意味方略・語順方略・助詞方略・ディスコース・ナラティブ・会話の公理・こころの理論・音韻意識・特殊音節	遠藤 俊介
	第7回	児童期の言語発達：読み書き能力の発達、読解・作文の発達、比喩・皮肉の発達 プレリテラシー・エマージェントリテラシー・ディスレクシア・尊敬語・謙譲語・比喩・皮肉文・推敲	遠藤 俊介
	第8回	言語発達を説明する理論：学習説・生得説・認知説・社会・相互交渉説 学習説・生得説・行動主義心理学・オペラント条件づけ・生成文法・言語獲得装置・ピジン・クレオール・ウイリアムズ症候群・言語機能のモジュール性・領域一般性・外言・内言・発達の最近接領域・足場かけ・フォーマット・言語獲得援助システム	遠藤 俊介
	第9回	言語発達を促す大人の関わり A. S.	北 義子 遠藤 俊介
	第10回	言語発達を促す大人の関わり A. S.	北 義子 遠藤 俊介
	第11回	言語発達を促す大人の関わり A. S.	北 義子 遠藤 俊介
	第12回	言語発達を促す大人の関わり A. S. 子供との関わりを实践	北 義子 遠藤 俊介
	第13回	言語発達を促す大人の関わり A. S. 子供との関わりを实践	北 義子 遠藤 俊介
	第14回	発表 A. S.	北 義子 遠藤 俊介
	第15回	発表 A. S.	北 義子 遠藤 俊介
科目の目的	小児の言語発達障害においては評価から診断・支援に至るまで、言語発達の正常と異常、背景にある阻害要因に関する知識を欠かすことはできない。言語発達学はその入門にあたる領域で、言語発達に関する基礎的知識を学ぶことを目的とする。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>各言語期の発達の特徴が説明できる。</li> <li>言語獲得を説明する理論について、大まかに述べる事が出来る。</li> <li>言語発達を促す大人の関わりについて具体的に示す事が出来る。</li> </ul>		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術		
関連科目	言語発達障害学、言語発達障害評価法、言語発達障害支援論、言語聴覚障害診断学		

成績評価方法・基準	成績評価＝毎回提出するまとめ(8%)＋ゼミ活動への貢献度(30%)＋定期試験成績(62%)。100点満点に換算して60点以上を合格とし単位を与える。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	あらかじめ授業計画に示されている講義内容該当部分を教科書で確認しておく(毎回45分程度)。講義後は配布された「標準的まとめ」で復習をする(毎回45分程度)。
教科書	藤野博ほか編：言語発達障害学, 第4版, 医学書院, 2026 大森孝一等編：言語聴覚士テキスト, 第4版, 医歯薬出版, 2025.
参考書	なし。講義資料をA. A. A. に登録します。
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照
履修条件・履修上の注意	AS=ゼミ単位でのアクティブ・ラーニング(発達段階に則した関わり・おもちゃの考案)毎回の授業の最後に授業の「まとめ」を作成する。1回の「まとめ」の提出に対し1点が与えられる。毎回の授業終了後、講義資料と「標準的まとめ」をActive Academyにて配信する。
アクティブ・ラーニングの実施	「言語発達を促す大人の関わり」をテーマにASを実施する。
ナンバリング	SFk-202

講義科目名称： リハビリテーション概論

授業コード： 2S072

英文科目名称： Introduction to Rehabilitation

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
石山 寿子	竹原 敦	佐藤 満	

授業形態	講義 (8回)		担当者
授業計画	第1回	リハビリテーションの定義とその変遷 歴史の変遷、定義と目的、健康、生活、自分らしく生きる	村田 和香
	第2回	病気と障害 健康とは、病気と障害との関係、国際疾病分類 (ICD)、国際障害分類 (ICDH)	佐藤 満
	第3回	障害のとらえ方と分類の難しさ、リハビリテーション医療の流れ 国際生活機能分類 (ICF)、急性期・回復期・生活期・予防的リハビリテーション	佐藤 満
	第4回	リハビリテーションの諸領域 医学的・社会的・職業的・教育的リハビリテーション	竹原 敦
	第5回	人間の活動と発達 発達とは、ライフサイクル、ノーマライゼーション、発達障害	石山 寿子
	第6回	障害と社会制度 国際障害者権利条約、障害者基本法、身体障害者福祉法、障害手帳、介護保険、地域資源	石山 寿子
	第7回	社会参加、社会につながるために 就労支援、インクルーシブ教育	石山 寿子
	第8回	生活、人生を考える 社会参加、社会貢献、生活の意味、人生100年時代の課題	竹原 敦
科目の目的	本講義では、リハビリテーションの理念と原則を踏まえて、包括的なリハビリテーション、ならびに障害学の基本概念を習得することを目標とする。リハビリテーションスタッフとして必要な障害学の内容と評価・治療方法の要点、国際生活機能分類 (ICF)、リハビリテーションのプロセス、リハビリテーションチーム医療のあり方、さらには保健・福祉行政における社会的資源とリハビリテーションの関わり等についての基礎知識を理解する。		
到達目標	リハビリテーションの基本理念と原則を理解し、障害の概念と分類、リハビリテーションの領域とその過程、障害と心理、さらにはリハビリテーション障害学の基礎、そして保健医療福祉制度・関係法規とリハビリテーションとの関連について獲得する。具体的には下記の通りである。 ①リハビリテーションの概念および定義を説明することができる。 ②リハビリテーションの歴史を説明することができる。 ③国際生活機能分類 (ICF)を説明できる。 ④リハビリテーションの多職種連携の重要性を説明できる。		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	探求力と問題解決力		
関連科目	言語聴覚障害概論、チーム医療とリハビリテーション、地域リハビリテーション学		
成績評価方法・基準	定期試験 (100%) : 到達目標の達成程度を確認する筆記試験を行う。		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習は各回の項目について配布資料・その他各種メディアを通じて自分なりの問題意識を抱き、復習は講義内容のレビューを行い疑問点を解消して自分の言葉で平易に正しく説明できるようにすること。 必要な学習時間の目安は概ね30分程度である		
教科書	教科書：特に定めず、講義資料を活用する。 その他講義内容により資料等配布有り。		
参考書	参考書：中村隆一編「入門リハビリテーション概論 (第7版補訂)」 (医歯薬出版)		
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照		
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照		
履修条件・履修上の注意			
アクティブ・ラーニングの実施	本科目は、他の科目へ展開する基礎となるものである。視聴覚教材等により、発見学習を提供するものである。		
ナンバリング	SF1-101		

講義科目名称： AACと教材学

授業コード： 2S073

英文科目名称： Teaching and Learning Materials and AAC…

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
酒井 哲郎	遠藤 俊介	鈴木 倫	

授業形態		担当者
授業計画	※今年度開講せず（2025年度カリキュラム）	
科目の目的		
到達目標		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術	
関連科目		
成績評価方法・基準		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安		
教科書		
参考書		
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施		
ナンバリング	SF1-301	

講義科目名称： 臨床スキル論

授業コード： 2S074

英文科目名称： Clinical Skills

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
岡田 哲也	磯 忍		

授業形態		担当者
授業計画	※今年度開講せず（2025年度カリキュラム）	
科目の目的		
到達目標		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術	
関連科目		
成績評価方法・基準		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安		
教科書		
参考書		
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施		
ナンバリング	SF1-401	

講義科目名称： チーム医療とリハビリテーション

授業コード： 2S075

英文科目名称： Rehabilitation and Team Care

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
岡野 由実	石川 幸伸・遠藤 俊介	岡崎 大資・浅田 春美・加茂 智彦	村田 和香・馬場 順子

授業形態	講義（3）、演習（5）		担当者
授業計画	第1回	オリエンテーション 総論（講義） チーム・アプローチの必要性、保健医療チームの特徴、チームのタイプ	岡野・岡崎・浅田・加茂・村田・馬場・石山・遠藤
	第2回	リハビリテーション・チームの役割（講義） 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の役割	岡野・岡崎・浅田・加茂・村田・馬場・石山・遠藤
	第3回	グループ・ワークについて（講義） グループ課題情報共有、グループ分け	岡野・岡崎・浅田・加茂・村田・馬場・石山・遠藤
	第4～7回	グループワーク（演習4回） 下記の課題を担当するグループを決定し、グループでの役割分担、情報収集、分析、ディスカッション、発表準備を行う。 課題① 高崎市間屋町を生活圏とするために 課題② 大学生生活を快適にする方法 課題③ リハビリテーションを地域住民に知ってもらうために 課題④ 高齢者のための生活の工夫を考える 課題⑤ リハビリテーションの将来を考える	岡野・岡崎・浅田・加茂・村田・馬場・石山・遠藤
	第8回	グループ発表（演習） グループ・ワークの結果をまとめ、その学習成果をポスター等により発表し、ディスカッションを行う。	岡野・岡崎・浅田・加茂・村田・馬場・石山・遠藤
科目の目的	リハビリテーション学部のディプロマ・ポリシーで謳われている「多様化する地域社会の諸問題を理解し、多職種と連携してリハビリテーションを実践できる能力」を目指し、リハビリテーション学部の3学科の学生が共に学ぶ機会を得ることにより、お互いを尊重する姿勢を学ぶ。「リハビリテーション概論」の学修に基づき、学科横断的に編成するグループによる課題解決の過程を通して、チームの概念、チームワークの難しさと効果、リーダーシップ、他者理解の上での交流の在り方、組織管理について学修する。		
到達目標	①チーム医療の意味を説明できる。 ②リハビリテーション・チームの役割を説明できる。 ③グループ・ワークに積極的参加することができる。 ④他者の意見を聞くこと、自らの意見を話すことができる。		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	探求力と問題解決力		
関連科目	多職種理解と連携、リハビリテーション概論、地域リハビリテーション学		
成績評価方法・基準	グループ・ワークの発表（50%）およびディスカッションを含めた課題をレポートにまとめる（50%）。 レポートのフィードバックは学科担当教員が行う。		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義内容、およびグループでの作業を理解し、積極的にグループ・ワークに参加すること。 準備学習に必要な時間の目安は30分程度である。		
教科書	特に定めない。		
参考書	特に定めない。		
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照		
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照		

履修条件・履修上の注意	
アクティブ・ラーニングの実施	グループワークを実施する。
ナンバリング	SF1-102

講義科目名称： 社会福祉制度・関連法規

授業コード： 2S076

英文科目名称： Social Welfare System and Related Regulations

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	必修
担当教員	担当者		
魚屋 真佐江	坂井 勉		

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 社会福祉とは ガイダンス：授業目的、今後の授業の進め方、テキスト説明など 社会福祉の捉え方、社会福祉分野で使われる用語の整理、歴史的系譜、福祉の措置から契約へ (テキストP2からP12まで)	魚屋 真佐江
	第2回 社会福祉の歩み 日本の社会福祉の歩み、欧米の社会福祉の歩み (テキストP13からP28まで)	魚屋 真佐江
	第3回 社会保障制度と社会福祉を展開する組織 社会保障制度の体系、社会保険、公的扶助、社会福祉を展開する組織、社会保障制度をめぐる今後の課題 (テキストP29からP45まで)	魚屋 真佐江
	第4回 子ども家庭福祉 少子化対策、子どもにかかわる法と施策、児童福祉関連施設と専門機関、母子保健、児童虐待、子どもの貧困(テキストP48からP69まで)	坂井 勉
	第5回 障害者福祉 障害者福祉の考え方、障害者福祉に関する法律、「障害者総合支援法」、障害者虐待 (テキストP70からP88まで)	魚屋 真佐江
	第6回 高齢者福祉 高齢者を取り巻く状況、高齢者を対象とした法制度、高齢者福祉の課題 (テキストP89からP103まで)	魚屋 真佐江
	第7回 介護福祉と介護保険制度 介護保険制度創設の背景、介護保険制度の概要、介護保険制度を支えるケアマネジメントとケアマネージャー、チームアプローチ (テキストP104からP120まで)	魚屋 真佐江
	第8回 低所得者福祉 貧困とは、生活保護制度、生活保護と関連事業、低所得者対策、現状と今後の課題 (テキストP121からP134まで)	坂井 勉
	第9回 地域福祉 地域福祉とは、地域共生社会の実現と地域福祉、地域福祉の推進組織と担い手、地域福祉の推進方法 (テキストP135からP150まで)	坂井 勉
	第10回 医療福祉・精神保健福祉 医療保険制度の概要、保険診療の仕組み、医療機関の機能、医療福祉と専門職、地域医療連携から地域連携へ、医療ソーシャルワーカー、精神保健の定義とおもな精神疾患、精神保健を取り巻く状況、「精神保健福祉法」の概要、「医療観察法」、「障害者雇用促進法」、自殺防止対策、認知症高齢者の現状 (テキストP151からP178まで)	魚屋 真佐江
	第11回 社会福祉施設の役割・社会福祉を担う人々 社会福祉施設の体系、社会福祉施設の推移、社会福祉施設の枠組み、施設の今後の課題、社会福祉従事者の現状と人材確保、社会福祉従事者のおもな職種(社会福祉専門職・その他の専門職)、社会福祉従事者による連携・協働 (テキストP180からP199まで)	坂井 勉
	第12回 社会福祉の実践事例 他職種連携を基調とした医療ソーシャルワーカーの実践事例から病院における医療ソーシャルワーカーの必要性、実践事例の紹介と考察、他職種連携の必要性と医療ソーシャルワーカーの役割 (テキストP212からP221まで)	魚屋 真佐江

	第13回	相談援助の目的と方法 ―ソーシャルワークの視点から― 社会福祉における相談援助の目的と対象、社会福祉における相談援助者の基本的態度、相談援助の展開方法 (テキストP200からP211まで)	坂井 勉
	第14回	保健医療福祉に関する諸問題 保健医療福祉に関する諸問題の例、保健医療福祉従事者に期待されるおもな役割 (テキストP222からP229まで)	魚屋 真佐江
	第15回	学習内容の振り返りとまとめ 社会福祉について これまでの授業で学習した内容を振り返るとともに、重要事項を再確認する。	魚屋 真佐江
科目の目的	人々の生活を支え健康を守るために、保健医療専門職に求められる「社会福祉の基本的知識」を理解する。具体的には、社会福祉の捉え方や歴史、社会福祉の法や制度・担い手、児童福祉・障害者福祉・高齢者福祉・地域福祉・精神保健福祉等の福祉の各分野についてや、介護保険制度と地域包括システム、相談援助・医療ソーシャルワーク等について学ぶ。それらを通して、保健医療福祉サービスにおける、地域連携・他職種連携など「連携」の意義についても理解を深める。		
到達目標	1. 社会福祉全般について基本的な知識を理解する。 2. 福祉専門職と保健医療専門職の連携と協働の意義と必要性について考える。 3. 医療・介護・福祉サービスを利用する人々の生活と健康を地域で支える一員としての自覚を持つようになる。		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	人間の尊厳と基本的人権		
関連科目	多職種理解と医療コミュニケーション、教育学		
成績評価方法・基準	定期試験：全講義終了後に実施する筆記試験（85%） 授業内で記入するリアクションペーパー（15%）←内訳：魚屋10%、坂井5%（次回の授業の冒頭でフィードバック）		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の講義に臨む前に教科書の該当ページを熟読しておく。講義後は教科書や配布資料をもとに学習内容の復習を行う。 準備学習に必要な学習時間の目安は1コマあたり4時間。		
教科書	「コメディカルのための社会福祉概論 第5版（講談社出版）」		
参考書	授業内で随時紹介する		
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照		
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照		
履修条件・履修上の注意	Active Academy Advanceにて講義資料を配布する（4日前から当該日まで）。PCにダウンロードして授業に持参すること。		
アクティブ・ラーニングの実施	「本日の授業を通しての学び・疑問」等を授業内でリアクションペーパーに記入する。		
ナンバリング	SF1-103		

講義科目名称： 地域リハビリテーション学

授業コード： 2S077

英文科目名称： Community-Based Rehabilitation

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
石山 寿子			

授業形態		担当者
授業計画	※今年度開講せず（2025年度カリキュラム）	
科目の目的		
到達目標		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	探求力と問題解決力	
関連科目		
成績評価方法・基準		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安		
教科書		
参考書		
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施		
ナンバリング	SF1-302	

講義科目名称： 地域参加支援 I

授業コード： 2S078

英文科目名称： Community Participation Support I

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	2単位	必修
担当教員	担当者		
遠藤 俊介	石山 寿子・北 義子	石川 幸伸・岡野 由美	鈴木 倫
	及川 翔	酒井 哲郎	大住雅紀

授業形態	ゼミ単位で、情報収集、企画立案を行い、教員がアドバイザーとして参加する(AS)。		担当者
授業計画	第1回	地域参加の現状と課題の理解	
	第2回	学科で保有するおもちゃのねらい	
	第3回	パースあそびの森	合同
	第4回	パースあそびの森	合同
	第5回	ゲストスピーカー	
	第6回	ゲストスピーカー	
	第7回	地域参加支援演習の課題 / AS 演習 候補の抽出(KJ法)	
	第8回	AS 製 ワークショップによる課題の抽出(候補から絞り込み・チーム・フラッグの作	合同
	第9回	AS 製 ワークショップによる課題の抽出(候補から絞り込み・チーム・フラッグの作	合同
	第10回	AS 製 ワークショップによる課題の抽出(候補から絞り込み・チーム・フラッグの作	合同
	第11回	AS 製 ワークショップによる課題の抽出(候補から絞り込み・チーム・フラッグの作	合同
	第12回	AS 製 ワークショップによる課題の抽出(候補から絞り込み・チーム・フラッグの作	合同
	第13回	AS 実際の事業テーマの作成 SWOT分析・事業計画書の作成	合同
	第14回	AS 実際の事業テーマの作成 SWOT分析・事業計画書の作成	合同
	第15回	AS 実際の事業テーマの作成 SWOT分析・事業計画書の作成	合同
	第16回	ゲストスピーカー	
	第17回	AS 実際の事業テーマの作成 事業計画書の作成	合同
	第18回	AS 実際の事業テーマの作成 事業計画書の作成	合同
	第19回	中間発表(テーマと具体的計画、討論)	合同
	第20回	中間発表(テーマと具体的計画、討論)	合同
	第21回	ゲストスピーカー	
	第22回	「地域参加支援総論(4年生発表)」の聴講	合同
	第23回	ゲストスピーカー	
	第24回	ゲストスピーカー	
	第25回	AS 実際の事業テーマの作成 事業計画書の作成	合同
	第26回	AS 実際の事業テーマの作成 事業計画書の作成	合同
	第27回	AS 実際の事業テーマの作成 事業計画書の作成	合同
	第28回	AS 実際の事業テーマの作成 事業計画書の作成	合同
	第29回	地域参加支援演習IIまでのロードマップ作成	合同

	第30回 地域参加支援演習IIまでのロードマップ作成	合同
科目の目的	障がいの有無や個々人の社会的・身体的特性に関わらず、全ての人間が同じ地域社会に参加する「共生の社会」実現をめざし、それを受け入れる社会の在り方を考える。言語聴覚士が、コミュニケーションや摂食嚥下についての専門性を生かして地域づくり、街づくりをすることの重要性と方法論を学修する。	
到達目標	言語聴覚障害のリハビリテーションにおける地域参加支援の難しさと意義を理解する。 言語聴覚障害のリハビリテーションにおける地域参加支援の方法論を説明できる。	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	探求力と問題解決力	
関連科目	地域参加支援演習II、地域参加支援論	
成績評価方法・基準	AS活動への貢献度(60%)、事業テーマの発表(40%)、総合して60%以上の者に単位を与える。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	ワークショップで分担した課題を調査、検討し、事前にグループ内で共有しておく(60分程度)	
教科書	なし	
参考書	なし	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意	AS=アクティブ・ラーニング・ゼミ 講義資料は講義の1週間前までにアクティブ・アカデミーにて配信する。講義当日はPCまたはタブレットで閲覧可能な状態で講義に臨むこと。	
アクティブ・ラーニングの実施	ゼミごとに事業計画を策定し計画書を提出する。	
ナンバリング	SF1-201	

講義科目名称： 地域参加支援Ⅱ

授業コード： 2S079

英文科目名称： Community Participation Support Ⅱ

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	2単位	必修
担当教員	担当者		
遠藤 俊介	石山 寿子・北 義子	石川 幸伸・岡野 由実	鈴木 倫
	及川 翔	酒井 哲郎	

授業形態		担当者
授業計画	※今年度開講せず（2025年度カリキュラム）	
科目の目的		
到達目標		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	探求力と問題解決力	
関連科目		
成績評価方法・基準		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安		
教科書		
参考書		
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施		
ナンバリング	SF1-303	

講義科目名称： 言語聴覚障害学概論

授業コード： 2S080

英文科目名称： Introduction to Speech-Language-Hearing Disorders

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
石山 寿子	北 義子・石川 幸伸	岡野 由美	遠藤 俊介
	鈴木 倫	及川 翔	酒井 哲郎

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 コミュニケーションにおける言語という記号の役割と機能（スピーチチェーン）講義 グループ分け	石山 寿子
	第2回 聴覚言語障がいとは 解説30分 テーマについてグループディスカッション（AS）60分 AS:アクティブラーニング・ゼミ	石山 寿子
	第3回 評価とは 解説30分 テーマについてグループディスカッション（AS）60分 AD AS	石山 寿子
	第4回 治療・機能訓練とは 解説30分 テーマについてグループディスカッション（AS）60分 AS	石山 寿子
	第5回 活動制限と支援 解説30分 テーマについてグループディスカッション（AS）60分 AS	石山 寿子
	第6回 参加制約と支援 解説30分 テーマについてグループディスカッション（AS）60分 AS	石山 寿子
	第7回 共生の社会とは 解説30分 テーマについてグループディスカッション（AS）60分 AS	石山 寿子
	第8回 グループ発表準備（AS）	石山 寿子
	第9回 グループ発表準備（AS）	石山 寿子
	第10回 グループ発表（AS） 1	石山 寿子
	第11回 グループ発表（AS） 2	石山 寿子
	第12回 グループ発表（AS） 3	石山 寿子
	第13回 グループ発表（AS） 4	石山 寿子
	第14回 グループ発表（AS） 5	石山 寿子
	第15回 グループ発表（AS） 6	石山 寿子
科目の目的	言語聴覚障害は機能障がいとしてのコミュニケーションの問題だけでなく、日常行動の制限や社会参加の制約をもたらす。体験も通して、これらの困難、不自由さ、苦痛などを、知識ではなく感覚的なレベルで理解し、他者に発信する。 障がいのある方の評価と支援は、世界基準であるICF(国際生活機能分類)に基づいてなされることを理解し、それに基づいた言語聴覚障害の種類、特徴、治療・訓練法を学び、それぞれの障害の特徴に沿った生活ならびに地域や社会への参加の制約の実情を把握し、生活支援、社会参加支援を含めた言語聴覚士の役割を理解する。 アクティブラーニングでの学習、グループ学習の方法を習得することでチーム医療の基礎能力を身につける。	
到達目標	言語聴覚障がいのある方の困難、不自由さ、苦痛を感覚的に理解し、かつ他者に説明できる。 コミュニケーションにおける言語という記号の役割と機能（スピーチチェーン）を説明できる。 言語聴覚障がいに対する支援（機能回復、生活支援、社会参加支援等）について説明できる。 言語聴覚障がいの種類と種類毎の評価（ICF評価を含む）、支援について説明できる。 言語聴覚障がい学（資格制度を含む）の歴史と概要を説明できる。	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術	

関連科目	言語聴覚障害学演習、ICFとリハビリテーション、地域リハビリテーション学
成績評価方法・基準	聴講票20%、ALの内容、発表60%、レポート20%とする。いずれも60点/100点満点以上をとって合格とする。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	担当するテーマについての自己学習、グループ学習、発表のために毎回1時間程度の準備を要する。
教科書	教科書：言語聴覚士テキスト 第3版、医歯薬出版
参考書	無し
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照
履修条件・履修上の注意	AL=アクティブラーニング、AS=アクティブラーニング・ゼミ
アクティブ・ラーニングの実施	テーマを提示し、ゼミ単位で調査学習を行い、発表する。
ナンバリング	SSm-101

講義科目名称： 言語聴覚障害診断学

授業コード： 2S081

英文科目名称： Speech-Language-Hearing-Disorder Diagnosis

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
岡野 由実	石山 寿子・北 義子	石川 幸伸・遠藤 俊介	鈴木 倫
	及川 翔	酒井 哲郎	

授業形態	講義 (8回) 演習 (7回)	担当者
授業計画	第1回 講義 オリエンテーションとモデルプレゼンテーション (失語症)	鈴木 倫
	第2回 講義 モデルプレゼンテーションの方法と、内容、注意点、診断とICF 診断の流れ	及川 翔
	第3回 講義 高次脳機能障害の診断の流れ	鈴木 倫
	第4回 講義 知的発達障害の診断の流れ1、 知的発達障害の診断の流れ2	遠藤 俊介
	第5回 講義 聴覚障害の評価の流れ1 (小児) 聴覚障害の評価の流れ2 (成人)	岡野 由実
	第6回 講義 器質性・機能的構音障害の評価の流れ1、器質性・機能的構音障害の評価の流れ2	酒井 哲郎
	第7回 講義 発声発語・嚥下障害の評価の流れ1、発声発語・嚥下障害の評価の流れ2	石山 寿子
	第8回 講義 非流暢性発話障害の評価の流れ、講義まとめ	鈴木 倫
	第9回 グループワーク AS+AL	全教員
	第10回 グループワーク AS+AL	全教員
	第11回 グループワーク AS+AL	全教員
	第12回 グループワーク AS+AL	全教員
	第13回 グループワーク (学生によるプレゼンテーション) AS+AL	全教員
	第14回 グループワーク (学生によるプレゼンテーション) AS+AL	全教員
	第15回 講義・演習のまとめ、質疑応答	全教員
科目の目的	コミュニケーション障害である言語聴覚障害の種類とその原因疾患、各障害の発現メカニズムを理解し、障害の特徴と診断方法を学修し、それらの障害の対象者のQOLの確保や復権に結びつくことを理解する。	
到達目標	①聴覚障害、失語症、高次脳機能障害、器質性・機能的・運動障害性構音障害、音声障害、吃音、脳性麻痺を含む発達性障害の概要を説明できる。②各障害の検査法や診断法について学修する。③単に各障害の類型を記述できるだけではなく、言語処理過程の中での位置づけを正しく認識できる。④最終的には診断・評価はその対象者のQOL確保や復権に結びつくことを理解することが目標となる。	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術	
関連科目	言語聴覚障害学概論、言語聴覚障害学演習、言語聴覚障害臨床論、地域リハビリテーション学、地域参加支援総論	
成績評価方法・基準	グループ・ワークの貢献度 (30%)、レポート：各講義のまとめ (30%)、筆記試験 (40%) で、総合点100点満点で評価し、60点以上を合格とする。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	グループワークの準備に必要な時間は40分程度である。グループワーク内では他者の意見を尊重し、自分からも発信することも大切である。	
教科書	特になし。	
参考書	「ICF国際生活機能分類改訂版」中央法規出版、標準言語聴覚療法「言語聴覚療法 評価・診断学」医学書院	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	

履修条件・履修上の注意	AL=アクティブ・ラーニング、AS=アクティブ・ラーニング・ゼミ 資料は1週間前にAAにて配信する。
アクティブ・ラーニングの実施	学生自ら言語聴覚障害の各領域における診断過程を調べ発表する。
ナンバリング	SSm-102

講義科目名称： 地域参加支援総論

授業コード： 2S082

英文科目名称： Introduction to Community Participation Support

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
遠藤 俊介			

授業形態		担当者
授業計画	※今年度開講せず（2025年度カリキュラム）	
科目の目的		
到達目標		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	探求力と問題解決力	
関連科目		
成績評価方法・基準		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安		
教科書		
参考書		
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施		
ナンバリング	SSn-401	

講義科目名称： 地域言語聴覚療法学

授業コード： 2S083

英文科目名称： Community Speech-Language-Hearing Therapy

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	2単位	必修
担当教員	担当者		
石山 寿子			

授業形態		担当者
授業計画	※今年度開講せず（2025年度カリキュラム）	
科目の目的		
到達目標		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	探求力と問題解決力	
関連科目		
成績評価方法・基準		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安		
教科書		
参考書		
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施		
ナンバリング	SSn-402	

講義科目名称： 言語聴覚療法管理学Ⅰ

授業コード： 2S084

英文科目名称： Speech-Language-Hearing Therapy Management I

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
白波瀬 元道	高橋 克佳		

授業形態	講義 (15回)	担当者
授業計画	第1回 ST管理の基本概念① 業務の背景となる法律と医療介護福祉制度を学ぶ 第2回 ST管理の基本概念② 業務の背景となる法律と医療介護福祉制度を学ぶ 第3回 職能団体と倫理綱領 職能団体に入る意義、言語聴覚士としての倫理観を学ぶ 第4回 権利擁護と合理的配慮 障害者権利条約と合理的配慮について学ぶ 第5回 業務管理の理論 リハビリテーション業務の基本について学ぶ 第6回 安全管理 ヒヤリハット事例について学ぶ 第7回 多職種連携の基礎 チーム医療・ケアにおけるマネジメントの基本を学ぶ 第8回 そもそも管理とは？ 管理学の基礎について理解を深める 第9回 高齢者・認知症高齢者と介護保険：制度の概要と地域連携 第10回 高齢者世帯の経済状況：経済的環境と家族介護の現状 第11回 認知症高齢者の理解：介護ケアの基本と疾患特性 第12回 BPSDとケア：認知症に伴う行動・心理症状への対応 第13回 家族介護の現状：グループディスカッションを通じた理解 第14回 アクティビティケアの視点：高齢者への活動支援の理論 第15回 事例検討とQOL：アクティビティケアの取り組みと事例紹介	白波瀬 元道 白波瀬 元道 白波瀬 元道 白波瀬 元道 白波瀬 元道 白波瀬 元道 白波瀬 元道 白波瀬 元道 高橋 克佳 高橋 克佳 高橋 克佳 高橋 克佳 高橋 克佳 高橋 克佳 高橋 克佳
科目の目的	言語聴覚士 (ST) 業務の背景となる法律、制度、および実践の理念 (ICF、障害者権利条約等) を理解し、管理学の基礎を習得する。また、高齢者・認知症高齢者に対する介護保険制度の活用や、アクティビティケアを通じたQOL向上への関わり方について学習する。	
到達目標	ST業務の法的根拠、資格制度、ICF等の基本概念を説明できる。 高齢者・認知症高齢者を取り巻く経済的環境と家族介護の現状を理解できる。 認知症の特性 (BPSD等) に応じた適切な対応・関わり方が理解できる。 アクティビティケアを通じ、高齢者のQOL向上に寄与する手法を理解できる。	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	探求力と問題解決力	
関連科目	言語聴覚障害学概論、言語聴覚療法管理学Ⅱ	
成績評価方法・基準	定期テスト100%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	白波瀬担当分：関連法規 (言語聴覚士法等) およびICFの基本的概念の予習。 高橋担当分：介護保険制度の概要およびアクティビティケアに関する予習。	
教科書	「クリア言語聴覚療法 12言語聴覚療法管理学」(内山量史 他、2025年10月31日発行、建帛社)	
参考書	適宜指示	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意		

アクティブ・ラーニングの実施	グループワーク等
ナンバリング	SSo-201

講義科目名称： 言語聴覚療法管理学Ⅱ

授業コード： 2S085

英文科目名称： Speech-Language-Hearing Therapy Management II

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
白波瀬 元道	馬場 清		

授業形態		担当者
授業計画	※今年度開講せず（2025年度カリキュラム）	
科目の目的		
到達目標		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	探求力と問題解決力	
関連科目		
成績評価方法・基準		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安		
教科書		
参考書		
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施		
ナンバリング	SSo-301	

講義科目名称： 失語症学

授業コード： 2S086

英文科目名称： Aphasia

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	2単位	必修
担当教員	担当者		
鈴木 倫	石川 幸伸		

授業形態	講義及び一部演習	担当者
授業計画	第1回 失語症・失語症者を知る DVD症例を通して、失語症者の生活に触れ失語症とは何か考える (AL+AS)	鈴木 倫
	第2回 失語症の神経学的基盤、失語症の原因疾患	鈴木 倫
	第3回 失語の言語症状1 (AL+AS) 日常生活における言語症状を理解する	鈴木 倫
	第4回 失語の言語症状2 (AL+AS) 失語の言語症状と周辺症状、随伴症状	鈴木 倫
	第5回 失語症候群 古典的分類①	鈴木 倫
	第6回 失語症候群 古典的分類②	鈴木 倫
	第7回 失語症候群 (AL+AS) 古典的分類以外の失語	鈴木 倫
	第8回 失語症の評価と診断1 (AL+AS) 評価の考え方と流れを概観し、総合的失語症検査及び掘り下げ検査等に触れる。	鈴木 倫
	第9回 失語症の評価と診断2 (AL+AS) 関連領域の評価、鑑別診断を考える。失語におけるICFによる評価についても理解する。	鈴木 倫
	第10回 失語症の訓練と支援1 機能的訓練の考え方と技法	石川 幸伸
	第11回 失語症の訓練と支援2 (AL+AS) 機能的訓練の実際と失語症者の生活・参加場面での支援を考える	石川 幸伸
	第12回 失語症の訓練と支援3 (AL+AS) ICFの観点からの失語症者の訓練、支援	石川 幸伸
	第13回 失語症者を知る：失語症者の支援・活動 (AL+AS) 失語症者とのコミュニケーション演習	石川 幸伸
	第14回 失語症者への支援：地域参加・社会参加・人権擁護 (AL+AS) ゲストスピーカー（失語症者）から見た支援のあり方	石川 幸伸
	第15回 失語の予後と地域・社会的支援 (AL+AS) 失語症の回復と環境調整、失語症者への社会、地域支援	鈴木 倫
科目の目的	失語症者や家族が直面する困難に対して、言語・コミュニケーションの観点から包括的にアプローチし、問題解決に向けた支援の方法を考えることができる。そのための失語に関する基礎的事項を学ぶ。	
到達目標	1. 失語症の定義を理解し他の障害と鑑別することができる。 2. 失語症の言語症状を理解し説明することができる。 3. 失語症の評価方法とリハビリテーションについて概略を理解することができる。 4. ICFの観点から失語症者の問題を捉え、機能的側面だけでなく生活面でのコミュニケーション支援、社会参加や環境調整の方法を考えることができる。	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術	
関連科目	ICFとリハビリテーション、言語学、高次脳機能障害学、局所解剖学、脳神経外科学、神経内科学、リハビリテーション医学、言語系障害演習、失語・高次脳機能障害評価法、失語・高次脳機能障害支援論、AACと教材学	
成績評価方法・基準	授業のレポート提出と内容評価で20点、筆記試験80点、全体を100点満点とし、60点以上を合格とする。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	配布する講義資料及びテキストの該当部分を予習、復習することが望ましい。 後期の高次脳機能障害学、また3年、4年次の関連領域の学修や臨床実習にあたっては、基礎となる科目なのでしっかり理解をして欲しい。準備学習に必要な時間は30分程度である。	
教科書	①藤田郁代、立石雅子、菅野倫子編『標準言語聴覚障害学 失語症学 第4版』医学書院 ②医療情報科学研究所編『病気がみえるvol.7 脳・神経 第2版』メディックメディア	
参考書	①紺野加奈江著『失語症言語治療の基礎』診断と治療社 ②小島和幸編『失語症の評価と治療』金原出版株式会社	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	

国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照
履修条件・履修上の注意	資料はAAAにて配信または講義時に配布する。
アクティブ・ラーニングの実施	AL : Active Learning AS : Active Learning Semi 講義内容に対応させたAS単位でのグループワーク、ディスカッション、発表等によるアクティブラーニングを行う。
ナンバリング	SSp-201

講義科目名称： 高次脳機能障害学

授業コード： 2S087

英文科目名称： Higher Brain Dysfunction

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	2単位	必修
担当教員	担当者		
石川 幸伸	鈴木 倫		

授業形態	講義＋演習	担当者
授業計画	第1回 高次脳機能障害とは AL＋AS 第2回 中枢神経系の構造・機能 AL＋AS 第3回 意識障害・注意障害（評価と訓練を含む） AL＋AS 第4回 前頭葉障害（評価と訓練を含む） AL＋AS 第5回 記憶障害（評価と訓練含む） AL＋AS 第6回 視空間認知障害（評価と訓練含む） AL＋AS 第7回 失認1（評価と訓練含む） AL＋AS 第8回 失認2（評価と訓練含む） AL＋AS 第9回 行為・動作の障害（評価と訓練含む） AL＋AS 第10回 脳梁離断症状 AL＋AS 第11回 右半球損傷、頭部外傷 AL＋AS 第12回 認知症1（評価と訓練含む） AL＋AS 第13回 認知症2（評価と訓練含む） AL＋AS 第14回 高次脳機能障害のICFに沿った評価と支援1 AL＋AS 第15回 高次脳機能障害のICFに沿った評価と支援2、まとめと質疑応答 AL＋AS	石川 幸伸 石川 幸伸 石川 幸伸 石川 幸伸 石川 幸伸 石川 幸伸 石川 幸伸 石川 幸伸 石川 幸伸 石川 幸伸 鈴木 倫 鈴木 倫 鈴木 倫 鈴木 倫 鈴木 倫
科目の目的	神経心理学と神経学的視点から高次脳機能障害のメカニズムを学び、さらにICFに基づいた、診断・評価、リハビリテーション・支援の実際を学ぶことを目的とする。	
到達目標	1. 脳の機能には複雑な認知機能、随意性や制御を司る機能があることを理解する。 2. 1の概念を知るためには脳の構造と心の動きがあることを理解する。 3. 脳の損傷により生じる高次脳機能障害の神経心理学的背景や症候を理解し、その評価と支援方法を学ぶ。	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術	
関連科目	神経内科学、脳神経外科学、局所解剖学、失語症学、失語・高次脳機能障害評価法、失語・高次脳機能障害支援論、AACと教材学、リハビリテーション医学、ICFとリハビリテーション、地域社会学、地域参加支援総論	
成績評価方法・基準	毎回の聴講票および課題の内容評価を20%。定期試験を80%とし、それらの総合点で60%以上を合格とする。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	毎回の予習・復習に必要な時間は30分程度である。また、グループワークの準備に必要な時間は30分程度である。	
教科書	標準言語聴覚障害学「高次脳機能障害学」第3版、医学書院	
参考書	「病気がみえる」vol.7脳・神経、メディックメディア	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意	AL=アクティブ・ラーニング AS=アクティブ・ラーニング・ゼミ 資料はAAにて事前に配信する。	

アクティブ・ラーニングの実施	演習時はアクティブ・ラーニングとアクティブ・ラーニング・ゼミを実施する。
ナンバリング	SSp-202

講義科目名称： 失語・高次脳機能障害評価法

授業コード： 2S088

英文科目名称： Assessment Methods for Aphasia and Higher Brain Dysfunction

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	2単位	必修
担当教員	担当者		
石川 幸伸	鈴木 倫		
授業形態	担当者		
授業計画	2026年度は開講せず（2025年度カリキュラム）		
科目の目的			
到達目標			
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術		
関連科目			
成績評価方法・基準			
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安			
教科書			
参考書	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照		
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照		
国家試験出題基準			
履修条件・履修上の注意			
アクティブ・ラーニングの実施			
ナンバリング	SSp-301		

講義科目名称： 失語・高次脳機能障害支援論

授業コード： 2S089

英文科目名称： Support Methods for Aphasia and Higher Brain Dysfunction

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
鈴木 倫	石川 幸伸		
授業形態	担当者		
授業計画	※今年度開講せず（2025年度カリキュラム）		
科目の目的			
到達目標			
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術		
関連科目			
成績評価方法・基準			
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安			
教科書			
参考書			
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照		
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照		
履修条件・履修上の注意			
アクティブ・ラーニングの実施			
ナンバリング	SSp-302		



オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照
履修条件・履修上の注意	なし。
アクティブ・ラーニングの実施	なし。
ナンバリング	SSq-201

講義科目名称： 言語発達障害評価法

授業コード： 2S091

英文科目名称： Assessment Methods for Language Development Disorders

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	2単位	必修
担当教員	担当者		
北 義子	遠藤 俊介		
授業形態	担当者		
授業計画	※今年度開講せず（2025年度カリキュラム）		
科目の目的			
到達目標			
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術		
関連科目			
成績評価方法・基準			
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安			
教科書			
参考書			
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照		
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照		
履修条件・履修上の注意			
アクティブ・ラーニングの実施			
ナンバリング	SSq-301		

講義科目名称： 言語発達障害支援論

授業コード： 2S092

英文科目名称： Support Methods for Language Development Disorders 対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
遠藤 俊介	北 義子		

授業形態		担当者
授業計画	※今年度開講せず（2025年度カリキュラム）	
科目の目的		
到達目標		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術	
関連科目		
成績評価方法・基準		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安		
教科書		
参考書		
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施		
ナンバリング	SSq-302	

講義科目名称： 病理音声学

授業コード： 2S093

英文科目名称： Pathological Phonetics

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	2単位	必修
担当教員	担当者		
酒井 哲郎	石山 寿子	石川 幸伸	

授業形態	講義 (15回)	担当者
授業計画	<p>第1回 発声発語・摂食・嚥下器官形態（正中断面）、機能、神経支配</p> <p>第2回 中枢神経系、抹消神経系の機能。機能性、器質性、運動障害性障がいそれぞれの違い</p> <p>第3回 運動障がいのタイプ別の様態</p> <p>第4回 運動障がいのタイプ別の様態</p> <p>第5回 器質性構障がい(舌癌術後、口蓋裂)と機能性構音障がいの様態</p> <p>第6回 母音子音の構音異常の発現メカニズム</p> <p>第7回 鼻咽腔閉鎖不全の構音異常の発現メカニズム</p> <p>第8回 プロソディの異常の発現メカニズム</p> <p>第9回 摂食・嚥下障がいの様態</p> <p>第10回 構音の障がいと摂食・嚥下障がいの関連性</p> <p>第11回 発声発語器官を用いる発語と摂食以外の動作</p> <p>第12回 発声発語器官の障がいをもたらすアクティビティへの影響</p> <p>第13回 発声発語器官の障がいをもたらす社会参加への影響</p> <p>第14回 定型的評価と非定型的評価</p> <p>第15回 評価から支援へ</p>	<p>酒井哲郎</p> <p>酒井哲郎</p> <p>酒井哲郎</p> <p>酒井哲郎</p> <p>酒井哲郎</p> <p>石川 幸伸</p> <p>石川 幸伸</p> <p>石川 幸伸</p> <p>酒井哲郎</p> <p>酒井哲郎</p> <p>酒井哲郎</p> <p>酒井哲郎</p> <p>石山 寿子</p> <p>石山 寿子</p> <p>石山 寿子</p> <p>石山 寿子</p>
科目の目的	運動系の言語聴覚障害を理解する。運動系の障害の共通の発生メカニズムにそって障害類型の分類を理解する。そして、各障害類型における運動性、器質性、機能性の視点からの評価とその特徴にそって治療訓練を行われることを理解する。	
到達目標	発声発語器官の機能が理解でき、それぞれの機能低下によって、どんな症状が起こるか説明できる。症状を与えられた時に、その発現機序がある程度推定できる。機能訓練のプログラムとの関連性を説明できる。	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術	
関連科目	病理音声学。言語学。発声発語・嚥下障害評価法。器質性・機能性発話障害支援論。運動性発話障害支援論。非流暢性発話支援論。摂食・嚥下障害支援論。	
成績評価方法・基準	授業の小レポート (20%)、ALの参加状況とプレゼン内容 (20%)、筆記試験 (60%)。小レポート、AL、筆記試験 (各100点満点) の総合点 (重み付けは、上記の比率とする) で評価するが、いずれか一つでも60点未満の場合は、不合格。また、小レポートの未提出 (欠席時は除く) があれば、不合格とする。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習ならびに、復習としての授業の小レポートそれぞれに30分を要する。	
教科書	テキスト 廣瀬肇他「言語聴覚士のための運動障害性構音障害学」 医歯薬出版 2001年 参考書・参考資料等 授業時に配布する	
参考書	無し	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	

国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照
履修条件・履修上の注意	
アクティブ・ラーニングの実施	一部、テーマを提示してゼミ単位でディスカッション後、発表する。
ナンバリング	SSr-201

講義科目名称： 発声発語・摂食嚥下障害評価法

授業コード： 2S094

英文科目名称： Assessment Methods for Disorders of Speech and Swallowing

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	2単位	必修
担当教員	担当者		
石山 寿子	酒井 哲郎	清水 充子	木村 将典
授業形態	講義及びアクティブラーニング		
授業計画	担当者		
	第1回	オリエンテーション、摂食・嚥下障害とは。概要とメカニズム	石山 寿子
	第2回	摂食・嚥下機能における解剖、生理	酒井 哲郎
	第3回	VFで診る嚥下	酒井 哲郎
	第4回	摂食・嚥下障害の病態と症状（評価・治療の実際）	清水 充子
	第5回	VEで診る嚥下	木村 将典
	第6回	摂食・嚥下障害の病態と評価Ⅰ（脳血管疾患）	酒井 哲郎
	第7回	摂食・嚥下障害の病態と評価Ⅱ（進行性疾患）	石山 寿子
	第8回	摂食・嚥下障害の病態と症状Ⅲ（その他の疾患、加齢）	石山 寿子
	第9回	摂食・嚥下障害の評価方法Ⅰ	石山 寿子
	第10回	摂食・嚥下障害の評価方法Ⅱ	石山 寿子
	第11回	摂食・嚥下障害に付随する症状の理解	石山 寿子
	第12回	摂食・嚥下の評価（演習）	石山 寿子・酒井 哲郎
	第13回	摂食・嚥下障害の評価・診断と支援	石山 寿子・酒井 哲郎
	第14回	発話特徴の評価	酒井 哲郎
	第15回	音声障害と評価概要	酒井 哲郎
科目の目的	演習を交え運動系障がいの評価を実践レベルで理解する。発声発語と摂食・嚥下は、ほぼ同じ器官を用いながら、動きや機能が異なる。その差異を理解し、共通の評価と異なる評価を学ぶ。これによって、機能面へのアプローチも、共通のものと、個別のものが区別でき適切な訓練、支援方法を選択実施できる。また、機能面の評価だけでなく、活動、参加レベルといった視点での評価についても同様に学ぶ。		
到達目標	発声発語障がいならびに摂食・嚥下障がいの検査を理解し、正しく実施できる。検査結果から問題点を抽出し、基本的な目標と支援プログラムを策定できる。機能訓練にとどまらず包括的アプローチの重要性を理解する。		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術		
関連科目	局所解剖学、音声学、病理音声学、器質性・機能的発話障害支援論、摂食嚥下障害支援論、運動性発話障害支援論、運動系障害演習		
成績評価方法・基準	レポート20% 演習評価10%、試験70%		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	局所解剖学、耳鼻咽喉科学、音声学、病理音声学が基礎となるので、講義前に復習しておくことが望ましい。特に、音声学・病理音声学で学んだ音声表記については、自在に記述できるようにしておくこと。準備学習に必要な時間は30分程度である。		
教科書	①言語聴覚士のための運動障害性構音障害学 廣瀬肇、柴田貞雄、白坂康俊著、医歯薬出版 ②最新言語聴覚学講座 摂食嚥下障害学 倉智雅子／編著、医歯薬出版		
参考書	①日本音声言語医学会編 『新編 声の検査法』医歯薬出版 ②廣瀬肇監修 『STのための音声障害診断マニュアル』インテルナ出版 ③西尾正輝 著『ディサースリア臨床標準テキスト』医歯薬出版株式会社		

オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照
履修条件・履修上の注意	資料はAAAでの配信と講義時に配布する。 演習を行いながら展開することが多いので、事前に指示した用具は準備しておくこと。
アクティブ・ラーニングの実施	評価法の簡易演習及び講義中の項目に対するゼミ毎のディスカッションを通してアクティブラーニングを実施する。
ナンバリング	SSr-202

講義科目名称： 器質性・機能性発話障害支援論

授業コード： 2S095

英文科目名称： Support Methods for Organic and Functional Speech Disorders

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
北 義子	遠藤 俊介	酒井 哲郎	清水 崇寛
授業形態	担当者		
授業計画	※今年度開講せず（2025年度カリキュラム）		
科目の目的			
到達目標			
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術		
関連科目			
成績評価方法・基準			
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安			
教科書			
参考書			
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照		
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照		
履修条件・履修上の注意			
アクティブ・ラーニングの実施			
ナンバリング	SSr-301		

講義科目名称： 運動性発話障害支援論

授業コード： 2S096

英文科目名称： Support Methods for Motor Speech Disorders

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
酒井 哲郎	大住 雅紀		

授業形態		担当者
授業計画	※今年度開講せず（2025年度カリキュラム）	
科目の目的		
到達目標		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術	
関連科目		
成績評価方法・基準		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安		
教科書		
参考書		
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施		
ナンバリング	SSr-302	

講義科目名称： 非流暢性発話・音声障害支援論

授業コード： 2S097

英文科目名称： Support Methods for Disfluent Speech and Voice Disorders

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
鈴木 倫	池田 泰子	石川 幸伸	
授業形態	担当者		
授業計画	※今年度開講せず（2025年度カリキュラム）		
科目の目的			
到達目標			
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術		
関連科目			
成績評価方法・基準			
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安			
教科書			
参考書			
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照		
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照		
履修条件・履修上の注意			
アクティブ・ラーニングの実施			
ナンバリング	SSr-303		

講義科目名称： 摂食嚥下障害支援論

授業コード： 2S098

英文科目名称： Support Methods for Dysphagia

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
酒井 哲郎	石山 寿子	清水 充子	

授業形態		担当者
授業計画	※今年度開講せず（2025年度カリキュラム）	
科目の目的		
到達目標		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術	
関連科目		
成績評価方法・基準		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安		
教科書		
参考書		
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施		
ナンバリング	SSr-304	

講義科目名称： リハビリテーション栄養学

授業コード： 2S099

英文科目名称： Rehabilitation Nutrition

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
浅田 春美	棚橋 由佳		

授業形態		担当者
授業計画	※今年度開講せず（2025年度カリキュラム）	
科目の目的		
到達目標		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術	
関連科目		
成績評価方法・基準		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安		
教科書		
参考書		
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施		
ナンバリング	SSr-305	

講義科目名称： 聴覚検査法

授業コード： 2S100

英文科目名称： Auditory Assessment Methods

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	2単位	必修
担当教員	担当者		
北 義子	岡野 由実		

授業形態	講義 (8) + 演習 (7)	担当者
授業計画	<p>第1回 聴覚検査法の概要と種類 (講義) 各種聴覚検査の目的と概要。自覚的聴覚検査と他覚的聴覚検査。</p> <p>第2回 純音聴力検査 (講義) 検査の目的と内容。マスキング。オーディオグラムの解釈</p> <p>第3回 純音聴力検査 (演習) 標準純音聴力検査の演習。</p> <p>第4回 語音聴力検査 (講義) 語音了解閾値検査と語音明瞭度検査の目的と内容。結果の解釈。</p> <p>第5回 語音聴力検査 (演習) 語音聴力検査の演習。</p> <p>第6回 内耳機能検査、自記オーディオメトリー (講義) SISI検査等の内耳機能検査と自記オーディオメトリーの目的と内容。結果の解釈。</p> <p>第7回 内耳機能検査、自記オーディオメトリー (演習) SISI検査および自記オーディオメトリーの演習。</p> <p>第8回 インピーダンスオーディオメトリー (講義) ティンパノメトリーおよび音響性耳小骨筋反射検査の目的と内容。結果の解釈。</p> <p>第9回 インピーダンスオーディオメトリー (演習) インピーダンスオーディオメトリーの演習。</p> <p>第10回 他覚的聴力検査 (講義) 電気生理学的検査 (ABR、ASSR等) および耳音響放射検査 (OAE) の目的と内容。結果の解釈。</p> <p>第11回 他覚的聴力検査 (演習) 聴性脳幹反応検査 (ABR) と耳音響放射検査 (OAE) の演習。</p> <p>第12回 乳幼児聴力検査 (講義と演習) 乳幼児聴力検査の概要と注意事項。聴性行動反応検査 (BOA)、視覚強化式聴力検査 (VRA)、条件詮索反応検査 (COR)、遊戯聴力検査の対象・目的・内容。機器の紹介</p> <p>第13回 その他の聴覚検査と平衡機能検査 (講義) 耳鳴検査の目的と内容。平衡機能障害と平衡機能検査の種類、目的と内容。</p> <p>第14回 標準純音聴力検査 (実技試験) 標準純音聴力検査の実技試験 (個別実施)。</p> <p>第15回 検査結果の解釈 (仮想症例による演習) 仮想症例の検査結果から症状を推測する。</p>	<p>北 義子</p> <p>北 義子</p> <p>北 義子</p> <p>北 義子</p> <p>北 義子</p> <p>北 義子</p> <p>北 義子</p> <p>岡野 由実</p> <p>岡野 由実</p> <p>岡野 由実</p> <p>岡野 由実</p> <p>北 義子</p> <p>岡野 由実</p> <p>北 義子</p> <p>岡野 由実</p> <p>北 義子 + 学科教員</p> <p>北 義子</p>
科目の目的	聴覚検査として、自覚的検査法と他覚的検査法、目的による使い分けを学ぶ。耳鼻科疾患の診断から治療目的、訓練の目安、補聴器や人工内耳の装用のための情報を読み取る。また、対象が幼児の場合、自覚的検査法は、幼児特有の工夫や熟練が必要である。検査法の目的、方法を理解し、幅広く方法を習得する。	
到達目標	各種聴覚検査の目的・内容を把握し、検査結果の解釈と説明ができるようになる。標準純音聴力検査の手技を習得する。	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術	
関連科目	聴覚補償、後天性聴覚障害支援論、先天性聴覚障害支援論、聴覚障害演習	
成績評価方法・基準	実技試験30%、筆記試験70%、合計で60%以上得た者に単位を認定する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	演習で扱った検査の手技については、授業時間外でも十分に練習を行うこと。講義の復習 (講義2コマにつき1時間程度が望ましい) を行い、疑問点は次回講義時までには講義担当教員まで質問すること。	
教科書	教科書：日本聴覚医学会 編集『聴覚検査の実際 改訂5版』 (南山堂)	
参考書	特になし	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	

国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照
履修条件・履修上の注意	資料はアクティブ・アカデミーにて授業前までに配布（配布期間は1週間）。配布された講義資料の整理を行うこと。
アクティブ・ラーニングの実施	体験学習によるアクティブ・ラーニングの実施。
ナンバリング	SSs-201

講義科目名称： 聴覚補償

授業コード： 2S101

英文科目名称： Auditory Compensation

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	2単位	必修
担当教員	担当者		
北 義子	岡野 由実	小原 透	

授業形態	講義 (12) + 演習 (3)	担当者
授業計画	第1回 聴覚補償機器の種類と特徴 補聴器、人工内耳、人工中耳、EAS、ABI、BAHA 第2回 補聴器の種類と特徴 形状の種類、パーツの名称と役割、耳せんの種類 第3回 デジタル補聴器のフィッティング 規定選択法とフィッティングの方法 第4回 補聴器の選択 聴力に応じた補聴器（および耳せん）の選択 第5回 イヤモールドの耳型採型（演習） 耳型採型の演習 第6回 補聴器のフィッティング（演習） フィッティングソフトの操作 第7回 補聴器特性測定装置（演習） 補聴器の特性を測定し結果の解釈 第8回 補聴器適合検査 補聴器適合検査（2010）の内容と検査法、結果の解釈 第9回 補聴器診療の流れ 実際の耳鼻咽喉科での実践を学ぶ 第10回 人工内耳の構造、機能、種類（EASを含む） 人工内耳（およびEAS）の構造、機能、種類 第11回 人工内耳の適応基準と（リ）ハビリテーションの流れ 第12回 人工内耳の調整（マッピング）、適合評価 第13回 人工内耳のリハビリテーション 後天性聴覚障害者へのリハビリテーション 第14回 人工内耳のハビリテーション 先天性聴覚障害児者へのハビリテーション 第15回 まとめ 講義のまとめと国家試験対策	北 義子 北 義子 北 義子 岡野 由実 岡野 由実 岡野 由実 岡野 由実 北 義子 北 義子 小原 透 小原 透 小原 透 小原 透 小原 透 岡野 由実
科目の目的	聴覚の補償について理解し、その主たる手段としての補聴器及び人工内耳について学ぶ。人工内耳の手術法の理解、補聴器と人工内耳の基本的な違いを知り、それぞれの適応について学ぶ。その上で、補聴器の種類と特性、また特性の測定の方法を学ぶ。聴力の型によって補聴器の選択は異なり、適切な調整についても知識が必要である。人工内耳にも種類があり、特徴の違いを把握する。手術後のマッピングの方法についても学習する。	
到達目標	補聴器と人工内耳の特徴や限界を説明できる。聴覚補償機器の調整に必要な検査や機能について、名称や目的、内容を理解できる。	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術	
関連科目	聴覚検査法、後天性聴覚障害支援論、先天性聴覚障害支援論、聴覚障害演習	
成績評価方法・基準	筆記試験100%で評価する。60%以上得た者に単位を認定する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	学習の目安は各講義後1時間とする。	
教科書	なし（講義資料を随時配布）	
参考書	城間将江、鈴木恵子、小淵千絵 編集『標準言語聴覚障害学 聴覚障害学（第3版）』（医学書院）	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意	資料はアクティブ・アカデミーにて授業前までに配布（配布期間は1週間）。配布された講義資料の整理を行うこと。	

アクティブ・ラーニングの実施	実際の機器を用いた体験学習によるアクティブ・ラーニングの実施。
ナンバリング	SSs-202

講義科目名称： 先天性聴覚障害支援論

授業コード： 2S102

英文科目名称： Support Methods for Congenital Hearing Disorders

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
岡野 由実	北 義子		

授業形態		担当者
授業計画	※今年度開講せず（2025年度カリキュラム）	
科目の目的		
到達目標		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術	
関連科目		
成績評価方法・基準		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安		
教科書		
参考書		
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施		
ナンバリング	SSs-301	

講義科目名称： 後天性聴覚障害支援論

授業コード： 2S103

英文科目名称： Support Methods for Acquired Hearing Disorders

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
岡野 由実			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 ライフステージにおける難聴の影響 第2回 後天発症する難聴の原因 平衡機能障害、耳鳴を含む 第3回 各種聴覚検査と聴覚補償 日常生活用具の紹介を含む 第4回 コミュニケーション方法と支援 読話、手話、筆談、ICTの活用 第5回 加齢性難聴と認知症 第6回 就学・就労支援 社会資源と環境調整 第7回 視覚聴覚二重障害（1） 障害の状態と原因疾患 第8回 視覚聴覚二重障害（2） コミュニケーション支援	岡野 由美 岡野 由美 岡野 由美 岡野 由美 岡野 由美 岡野 由美 岡野 由美 岡野 由美
科目の目的	成人聴覚障害の聴覚補償の問題やコミュニケーション確保の問題を中心に学ぶ。また、重度の代償的な方法としての読話や手話などの代償的コミュニケーション手段についても理解する。聴覚障害の社会参加については、先天性の場合と、後天性の場合で状況が異なる。後天性の場合は、現在社会生活を営んでいる場合が多く、できるだけ継続できるよう支援する方策を学ぶ。	
到達目標	後天性聴覚障害による生涯発達への影響を理解できる。発症時期ごとの支援方針の違いを把握し、言語聴覚士の役割について理解できる。	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術	
関連科目	聴覚検査法、聴覚補償、先天性聴覚障害支援論、聴覚障害演習	
成績評価方法・基準	筆記試験100%で評価を行う。60%以上得た者に単位を認定する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	学習の目安は各講義後1時間とする。	
教科書	教科書：なし（講義資料を随時配布）	
参考書	城間将江、鈴木恵子、小渕千絵 編集『標準言語聴覚障害学 聴覚障害学（第3版）』（医学書院）	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意	講義内で知り得た症例の個人情報については、一切口外しないよう留意のこと。 資料はアクティブ・アカデミーにて授業前までに配布（配布期間は1週間）。配布された講義資料の整理を行うこと。	
アクティブ・ラーニングの実施	実施なし	
ナンバリング	SSs-203	

講義科目名称： 聴覚障害演習

授業コード： 2S104

英文科目名称： Seminar in Hearing Disorders

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	2単位	必修
担当教員	担当者		
岡野 由実	北 義子	遠藤 俊介	

授業形態		担当者
授業計画	※今年度開講せず（2025年度カリキュラム）	
科目の目的		
到達目標		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術	
関連科目		
成績評価方法・基準		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安		
教科書		
参考書		
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施		
ナンバリング	SSt-302	
実務経験のある教員による授業		
実務経験	岡野 由実（言語聴覚士）、北 義子（言語聴覚士）、遠藤 俊介（言語聴覚士）	
授業の概要	次の聴覚障害に関する項目について演習形式で学ぶ。標準純音、語音聴力検査、COR、ピープショウ検査、BOA検査などの各種聴覚検査、検査手順の習熟と結果の評価、補聴器フィッティング及び人工内耳マッピング、幼児聴能及び言語訓練演習、成人聴能訓練とコミュニケーション確保訓練、聴覚障害の構音訓練。	

講義科目名称： 運動系障害演習

授業コード： 2S105

英文科目名称： Seminar in Motor Speech Disorders

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	2単位	必修
担当教員	担当者		
石山 寿子	酒井 哲郎		

授業形態		担当者
授業計画	※今年度開講せず（2025年度カリキュラム）	
科目の目的		
到達目標		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術	
関連科目		
成績評価方法・基準		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安		
教科書		
参考書		
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施		
ナンバリング	SSt-303	
実務経験のある教員による授業		
実務経験	石山 寿子（言語聴覚士）、酒井 哲郎（言語聴覚士）	
授業の概要	言語系障害演習と聴覚障害演習で得られた知識・技能を用い、検査、評価、診断、方針決定、訓練手技の適応、環境調整、社会参加の支援までを一貫して演習形式で学ぶ。それまでの知識や技術の統合を目的とする。	

講義科目名称： 言語系障害演習

授業コード： 2S106

英文科目名称： Seminar in Adult Language Disorders

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	2単位	必修
担当教員	担当者		
鈴木 倫	石川 幸伸	及川 翔	

授業形態		担当者
授業計画	※今年度開講せず（2025年度カリキュラム）	
科目の目的		
到達目標		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術	
関連科目		
成績評価方法・基準		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安		
教科書		
参考書		
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施		
ナンバリング	SSt-304	
実務経験のある教員による授業		
実務経験	鈴木 倫（言語聴覚士）、石川 幸伸（言語聴覚士）、及川 翔（言語聴覚士）	
授業の概要	言語障害に関する次の項目について演習形式で学ぶ。失語症、高次脳機能検査、発達検査、構音検査、吃音検査など各種言語検査。さらに、検査手順の習熟と結果の評価、訓練プログラムの立案、言語訓練、構音訓練、発声訓練、吃音訓練などの各種訓練法を学ぶ。	

講義科目名称： 小児系障害演習

授業コード： 2S107

英文科目名称： Seminar in Pediatric Communication Disorders

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	2単位	必修
担当教員	担当者		
遠藤 俊介	北 義子		

授業形態		担当者
授業計画	※今年度開講せず（2025年度カリキュラム）	
科目の目的		
到達目標		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術	
関連科目		
成績評価方法・基準		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安		
教科書		
参考書		
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施		
ナンバリング	SSt-305	
実務経験のある教員による授業		
実務経験	遠藤 俊介（言語聴覚士）、北 義子（言語聴覚士）	
授業の概要	聴覚障害、運動系障害、言語系障害の各論に制約されず、各障害類型に共通する小児に特化する臨床上の特徴や課題、スキルなどを演習形式で学ぶ。おもちゃを含む教材の創造的使用やスキルも演習する。	

講義科目名称： 言語聴覚総合演習

授業コード： 2S108

英文科目名称： Comprehensive Seminar for Speech and Hearing

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
酒井 哲郎	石山 寿子・北 義子	石川 幸伸・岡野 由実	遠藤 俊介・鈴木 倫
	及川 翔		

授業形態		担当者
授業計画	※今年度開講せず（2025年度カリキュラム）	
科目の目的		
到達目標		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術	
関連科目		
成績評価方法・基準		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安		
教科書		
参考書		
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施		
ナンバリング	SSt-401	
実務経験のある教員による授業		
実務経験	酒井 哲郎（言語聴覚士）、石山 寿子（言語聴覚士）、北 義子（言語聴覚士）、石川 幸伸（言語聴覚士）、岡野 由実（言語聴覚士）、遠藤 俊介（言語聴覚士）、鈴木 倫（言語聴覚士）、及川 翔（言語聴覚士）	
授業の概要	これまでの学習した言語聴覚療法の対象、評価法、支援法について、評価実習、統合実習での経験を基に、言語聴覚療法の基礎、及び各専門分野の総合的な復習と、知識技術の統合を行う。また、今後職業として実践する言語聴覚療法について整理・統合するとともに、専門職としての言語聴覚士のあり方、言語聴覚療法研究の意味を確認する。	

講義科目名称： 卒業研究

授業コード： 2S109

英文科目名称： Graduation Studies

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
石川 幸伸	石山 寿子・北 義子	岡野 由実・遠藤 俊介	鈴木 倫・酒井 哲郎
	及川 翔		

授業形態		担当者
授業計画	※今年度開講せず（2025年度カリキュラム）	
科目の目的		
到達目標		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術	
関連科目		
成績評価方法・基準		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安		
教科書		
参考書		
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施		
ナンバリング	SSt-402	
実務経験のある教員による授業		
実務経験	石川 幸伸（言語聴覚士）、石山 寿子（言語聴覚士）、北 義子（言語聴覚士）、岡野 由実（言語聴覚士）、遠藤 俊介（言語聴覚士）、鈴木 倫（言語聴覚士）、及川 翔（言語聴覚士）、酒井 哲郎（言語聴覚士）	
授業の概要	卒業後、自ら研究する姿勢と能力を養うことを目的に、専門科目担当教員の指導の下、テーマを定めて研究に取り組む。具体的には、研究の必要性の理解、研究課題の設定、文献検索、具体的研究テーマと目的の設定、研究方法の選択（実験研究、臨床研究）、倫理的配慮、研究計画書の作成、データの収集・集計・分析・考察、論文作成を内容とする。	

講義科目名称： 見学実習

授業コード： 2S110

英文科目名称： Clinical Tours

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	3単位	必修
担当教員	担当者		
石川 幸伸	石山 寿子・北 義子 及川 翔	岡野 由実 ・遠藤 俊介	鈴木 倫 ・酒井 哲郎

授業形態	実習学内準備：2日間(学内) 実習施設における実習：2週間(学外) 実習後総括：3 日間(学内)		担当者
授業計画	<p>事前学習</p> <p>1) オリエンテーション (臨床見学実習の目的、内容、課題、留意すべき点などについて理解する。)</p> <p>2) 自己のコミュニケーション態度に関する学習</p> <p>3) 客観的臨床能力試験(Objective Structured Clinical Examination : OSCE)</p> <p>学外実習</p> <p>【必須内容】</p> <p>1) 言語聴覚療法業務の観察および一部実施</p> <p>2) 実習記録 (観察場面の記録およびデシリノート)</p> <p>【選択課題】</p> <p>1) カンファレンス見学</p> <p>2) 教材および道具の作成補助</p> <p>事後学習</p> <p>1) 実習報告会 (レジュメ作成・報告)</p> <p>2) 残された課題の整理</p>	<p>石山・未定・未定・岡野・遠藤・鈴木・及川・酒井</p> <p>石山・未定・未定・岡野・遠藤・鈴木・及川・酒井</p> <p>石山・未定・未定・岡野・遠藤・鈴木・及川・酒井</p>	
科目の目的	2年次の後期講義が終了した時期に、臨床現場にて対象者の心身の状態や行動を見学することにより、疾患による言語聴覚や摂食・嚥下への影響(病態)を適切な表現で記述し、考察する。対象者の情報と見学で得た情報をICFに沿って統合することにより、対象者に対して行われているリハビリテーションの全体像を把握する。担当教員全員で実施する。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人として相応しい態度や行動、コミュニケーションをとることができる</li> <li>・医療従事者を目指す者として、患者・利用者を中心に据えて常に気遣うことができる</li> <li>・言語聴覚士を目指す者として、見学内容を正しく観察し、記録することができる</li> </ul>		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	人間の尊厳と基本的人権、探求力と問題解決力、専門知識と基本的技術、多職種協働と地域社会活動の促進		
関連科目	言語聴覚障害学概論、言語聴覚障害学演習、言語聴覚障害診断学、地域リハビリテーション学、評価実習、統合実習		
成績評価方法・基準	学外実習 (2週間)の評価50%、事前学習 (2日間)と実習後総括 (3日間)の評価50%として、100点満点換算で60点以上得た者に単位を与える。詳細についてはオリエンテーション時に提示する。		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前学習：2日間 1) オリエンテーション (臨床見学実習の目的、内容、課題、留意すべき点などについて理解する。) 2) 自己のコミュニケーション態度に関する学習 3) 客観的臨床能力試験(Objective Structured Clinical Examination : OSCE)		
教科書	なし		
参考書	なし		
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照		
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照		
履修条件・履修上の注意	事前学習・事後学習に使用する資料は前日までにアクティブ・アカデミーにて配信する。当日は各自PCまたはタブレットで閲覧可能な状態で臨むこと。		
アクティブ・ラーニングの実施	臨床実習指導者の指導・監督の下、臨床実習指導者が行う言語聴覚療法を見学あるいは一部実施する。		
ナンバリング	SSu-201		
実務経験のある教員による授業			
実務経験	石川 幸伸 (言語聴覚士)、石山 寿子 (言語聴覚士)、北 義子 (言語聴覚士)、岡野 由美 (言語聴覚士)、遠藤 俊介 (言語聴覚士)、鈴木 倫 (言語聴覚士)、及川 翔 (言語聴覚士)、酒井 哲郎 (言語聴覚士)		
授業の概要	言語聴覚療法対象者がいる施設にて臨床実習指導者の指導・監督の下、臨床実習指導者が行う言語		

聴覚療法を見学する。言語聴覚療法の実践場面の見学により、言語聴覚士として座学で学んだ知識・技術を臨床場面での実践と結びつけることを目的とする。加えて、社会人としての適切な振舞い以外に、医療従事者としての患者・利用者を中心に据える姿勢・責任感を学ぶ。
--

講義科目名称： 評価実習

授業コード： 2S111

英文科目名称： Clinical Assessment Practice

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	5単位	必修
担当教員	担当者		
北 義子	石山 寿子・石川 幸伸	岡野 由美・遠藤 俊介	鈴木 倫・酒井 哲郎
	及川 翔		

授業形態		担当者
授業計画	※今年度開講せず（2025年度カリキュラム）	
科目の目的		
到達目標		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	人間の尊厳と基本的人権、探求力と問題解決力、専門知識と基本的技術、多職種協働と地域社会活動の促進	
関連科目		
成績評価方法・基準		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安		
教科書		
参考書		
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施		
ナンバリング	SSu-301	
実務経験のある教員による授業		
実務経験	北 義子（言語聴覚士）、石山 寿子（言語聴覚士）、石川 幸伸（言語聴覚士）、岡野 由美（言語聴覚士）、遠藤 俊介（言語聴覚士）、鈴木 倫（言語聴覚士）、及川 翔（言語聴覚士）、酒井 哲郎（言語聴覚士）	
授業の概要	言語聴覚療法対象者がいる施設にて指導者の指導・監督の下、指導者が行う言語聴覚療法を見学あるいは一部実施する。対象者の身体・行動の観察、情報の収集、病歴（障害歴）記述、検査の実施と所見記述、言語聴覚や摂食嚥下の問題点の列挙と明確化ができるようになることを目的とし、さらにそれらに基づいて言語聴覚療法訓練の目標設定を行うことを試みる。	

講義科目名称： 総合臨床実習

授業コード： 2S112

英文科目名称： Comprehensive Clinical Practicum

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	7単位	必修
担当教員	担当者		
石山 寿子	北 義子・石川 幸伸	岡野 由実・遠藤 俊介	鈴木 倫・酒井 哲郎
	及川 翔		

授業形態		担当者
授業計画	※今年度開講せず（2025年度カリキュラム）	
科目の目的		
到達目標		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	人間の尊厳と基本的人権、探求力と問題解決力、専門知識と基本的技術、多職種協働と地域社会活動の促進	
関連科目		
成績評価方法・基準		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安		
教科書		
参考書		
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施		
ナンバリング	SSu-401	
実務経験のある教員による授業		
実務経験	石山 寿子（言語聴覚士）、北 義子（言語聴覚士）、石川 幸伸（言語聴覚士）、岡野 由実（言語聴覚士）、遠藤 俊介（言語聴覚士）、鈴木 倫（言語聴覚士）、及川 翔（言語聴覚士）、酒井 哲郎（言語聴覚士）	
授業の概要	3年次までに学習した知識や技術をベースに、外部臨床実習施設にて実際の臨床場面で言語聴覚士の役割、臨床に必要な最小限の知識ならびに技能を学ぶことを目的とし、以下の学習を体験する。1) 適切な記録の取り方や報告の仕方を学ぶ。2) 言語聴覚療法に係る検査の実施を含む評価、情報収集の実際を学ぶ。3) 問題点を抽出し、言語聴覚療法におけるリハビリテーションの計画の立案・実践を学ぶ。4) 言語聴覚士としての臨床を行う意欲を高める。5) 言語聴覚療法の対象者やその家族、多職種との良好なコミュニケーション態度を身に付ける。	